

Tokyo Dental College Alumni Association



目 次

グラビア ふるさと自慢
会員往来
いなげ

巻 頭 言	1
お知らせ	2
重点事業へのアプローチ	3～5
会 務	6～17
理事会のうごき	18～21
東日本大震災対策部会	22～25
保 険	26
学 術	27～30
母校だより	31～35
支部のうごき	36～43
クラス会だより	44～50
OB会・グループ・サークルだより	51
すいどうばし	52
庶務日誌	53～54
逝去会員	55
追 悼	55～56
投稿規定	57
いいんかいしょうかい	58
へんしゅうこうき	58
平成25年度評議員会・第119回定時総会報告	59～92

「東京歯科大学同窓会会則」(10ページ)を巻末に添付

表紙写真の説明

昭和40年卒業の徳永道彦先生より送られた写真で昭和39年東京オリンピックが開かれた年の水道橋あたりの写真だそうです。「二度目の東京オリンピック開催決定を嬉しく思い送ります。」とのことでした。

ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

「日本の宝島, 天草」

熊 本 県



有明海からのぼる朝日。有明海は干満の差が大きく、潮が満ちてくるとこの小島は陸続きではなくなってしまふ。

近年ゆるキャラ「くまモン」で有名になった熊本だが、本稿では小生のふるさとである天草を紹介させていただこうと思う。天草諸島は有明海と東シナ海に面し、北に長崎県島原の普賢岳を望み、南は鹿児島県の長島へフェリーで30分と熊本県の西に位置している。熊本市内からはおよそ90キロ、車で2時間ほどであるが、鉄道は途中の三角半島までしか通っておらず不便な土地柄ではあったが、平成12年に天草エアラインが就航し福岡空港からは空路30分となっ

た。四方を海に囲まれた天草ゆえに風光明媚な海岸線は変化に富んでおり、有明海に朝日がのぼり、夕日は東シナ海に沈んでいく。食卓にあがる魚介類も種類が豊富であり、季節ごとの山海の食材は毎日の楽しみとなっている。また時として小生のようなサンデーアングララーにも小さな幸せを恵んでくれる豊饒の海なのである。

さて、天草といえばキリシタンと南蛮文化であろう。特に天草西海岸は明治40年に与謝野鉄幹夫妻

や北原白秋ら5人の紀行文「五足の靴」の題材となったところであるが、山あいの集落から眺望する東シナ海や漁師町にたたずむ教会



時として小生のようなサンデーアングララーにも大鯛を恵んでくれる豊饒なる海である。



天草町の展望台から東シナ海を望む。



漁師町にたたずむ崎津天主堂。現在でも地域の人々の信仰の場となっている。

の風景は現在でも100年前当時を偲ばせてくれる。また我々 TDC 同窓生にとって北原白秋は校歌を作詞した人物となれば一層感慨深いものがある。

また、西海岸を訪れた際には是非とも訪れていただきたいのが、寿芳窯（高浜焼）である。17世紀に採掘された「天草陶石」は高品

質の白磁原料として有田や瀬戸へと伝えられたが、当時の第六代目庄屋、上田伝五右衛門武弼が肥前より陶工を招き焼き始めたのが元祖である。それらの焼物は遠くはオランダまで輸出され、当時天草西端のひなびた村からこれだけの産業が育っていったのには驚きをも覚える。また、隣接している上



天草陶石を使った高浜焼。江戸時代中期に描かれていた海松紋も復刻された。

田家庄屋敷も必見であろう。約千坪の敷地に200年前に建てられた屋敷は与謝野鉄幹夫妻も逗留したものであるが、その庭園は京都、奈良の古寺にも匹敵する文化財であろう。

温暖な気候、南蛮文化とキリシタンの歴史探訪や新鮮な食材。見どころ、食べどころ数多なる「日本の宝島」天草。ぜひとも TDC 同窓諸兄においでいただきたいものである。

（昭和60年卒 松田光正）

会 員 往 来

直井友紀さんのご紹介

直井友紀さんは、同窓会の準会員で現在大学3年に在学しており、勉強と野球の両立に一生懸命頑張っておられます。今回のインタビューも忙しい中、放課後に特別に時間を取っていただきました。とてもボーイッシュで明るくはきはきとしたお嬢さんで、さすがに“世界一”を奪取するべき“何か”をお持ちだと感じられ、楽しい取材の時を過ごさせていただきました。

会員往来では準会員第一弾の直井友紀さんをご紹介します。

(広報委員会 小池 修)



中列右側

直井さんインタビュー



先日、2012年の女子野球ワールドカップのメンバーで、キャプチャーとして優勝に貢献した本学3年生の直井友紀さんにインタビューさせていただきました。メンバーは、直井さんが1年生の時の担任の橋本貞充先生、広報部広報委員会委員長の白田 準先生、広報部担当理事の小池 修先生と私。水道橋校舎新館のロビーで待ち合わせの時間に、元気で明るそうな、でも目力が強い意志の強そうな女性がやってきて、それが直井さんでした。一人暮らしで学

業と野球を両立させ、本当に忙しいところ快く話を聞かせてくれ、時々おもしろいエピソードで私たちを笑わせてくれました。

女子野球の世界一を決めるワールドカップは2004年から2年ごとに行われており、直井さんは前回初めて日本代表のセレクションに挑戦し、みごと代表に選ばれたそうです。

野球について

小学生の頃少しやっていたが、中学校では女子が野球をできる環境がなかったためバスケットボー

ルをやっていた。本格的に始めたのは高校生になってからで、野球がやりたくて女子野球部のある埼玉栄高校に進学し、寮で生活していた。高校1年生の頃は上下関係がとても厳しく体重が激減してしまったほど。それでも野球が好きで乗り越え、卒業してからはクラブチーム「侍」に所属。前回のトライアウト(=日本代表セレクション)も初めから受けるつもりだったわけではなく、チームのメンバーから進められて受けてみたら選ばれた。ゆくゆくは指導者になりたい。



歯科大へ

以前、家族が顔面に怪我をして歯を折るなどしたために、口腔外科の先生にも接する機会があり、それから漠然と将来医療系に進みたいと思うようになった。そして実際に進路を決める時に歯科大に入ることを決めた。

小さい頃から歯医者好きで、治療も嫌がらずに通っていた。大学に入り実習でアルジネートの匂いかいだ時、小さい頃に歯科医院でかいだ好きな匂いの正体はこれだったのか、と判明したという。

お父さんが社会福祉の施設を経営しているので、障害者医療に興味を持っている。

『支』

高校3年生の時後輩から、「支」

という文字を書いたホームベース型のお守りをもらった。その頃ちょうどいろいろと辛いことがあったが人に言える性格ではなく、ひとりで耐えていたためその「支」の文字が心に響いた。後輩にしてみたら、チームを支えてきた、という意味でこの文字を選んでもくれたようだが、家族やまわりの人を支えたいという気持ちと、自分も人から支えられているんだという感謝の気持ちを思いおこし、常にこの漢字が頭の片隅にある。

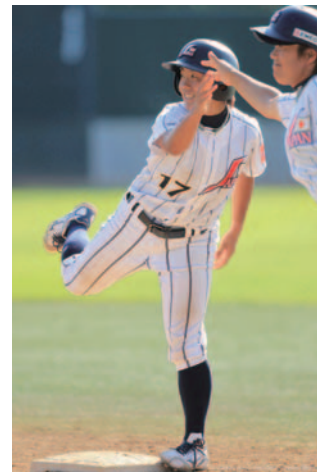
現在は、平日は大学の授業後に家の近所で自主練習、土日はチームの練習か試合があり、更に一人暮らしで家事もこなしレポートなどもあってとても多忙なようです。実家にもなかなか帰れないのですが、ご両親が試合のたびに

宇都宮から応援に駆けつけてくれるそうで、とても仲の良い素敵な家族という印象を受けました。

宇都宮出身ということで、餃子が好きなのか？という質問には「苦手！」との返答で、焼肉好きだそうです。なかでも特にユッケが好きで、3月の寒空の下でも半袖でトライアウトに臨んだ元気の源はユッケだったようです。

今年の3月にはオーストラリアに1ヵ月留学したり、夏にはアメリカのIMGアカデミーという学校にスポーツ留学をしたりと、国際感覚も身につけているそうです。そのためなのか、一語一語をはっきりと、人の目をみてしっかりとした話し方をする人だと思いました。これからは是非応援したいです。

(広報部 小貫飛鳥 記)



写真提供 報知新聞社

いなげ

(昭和56年卒業 橋本貞充 写真 広報部 佐々木葉子 記)

・・・もう、言葉はいらないほど・・・

「いなげ」のコーナーで何度「きれい」という言葉を使ったことか・・・

今まで知らなかった「いなげ」を、そして、懐かしい風景を、少しでも伝えることができたなら、うれしい。

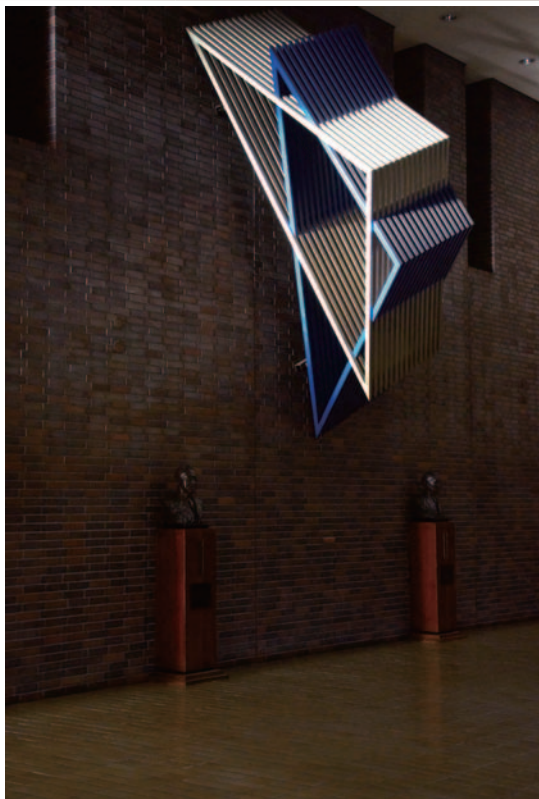


「エントランスロビー・・・」

誰もいない時間

・・・横から差し込む冬の光は

校舎の中にいろいろな表情をみせてくれる。



「煉瓦の壁に掛かったオブジェ」

交錯する三角形のかさなり

ほんの一瞬

差し込む光に

浮かびあがる瞬間。



「真っ白なグラウンド」

冬の陽が輝いて・・・

学生のころ

雪だるまなんかつくって・・・

汚れた靴のまま校舎に入って

先生におこられたなあ。



「冬の日の夕暮れ」
葉の落ちた、ヒポクラテスの木
きーンとした空気が伝わってくるよう・・・
あしたはきっと冬晴れ。



「朝焼け」
暗い空がオレンジ色に変わってゆく
さあ、今日も1日頑張ろう・・・って思える。



「ゆきの千葉校舎」
ここはどこ？・・・と思うくらい
ロマンチックな風景。
そういえば、卒業アルバムの写真を撮った時も
ゆき景色だったっけ。
久しぶりに、卒業アルバム
開いてみようかな・・・



次期同窓会会長に 推薦されて



会長

矢 崎 秀 昭

東京歯科大学は長い歴史の地である水道橋に移転してまいりました。時を同じくして2020年の東京オリンピックの招致も決定し、長らく低迷しております日本社会も、新たな目標に向かって動きが始まるこの時期に母校が東京へ移転したことは、未来への明るい希望を感じさせることです。誠に多くの同窓の皆さまからの貴重なご寄付を賜り、新校舎の中に完成された血脇ホールにて平成25年度の評議員会が開催されました。この記念すべき評議員会におきまして次期も同窓会会長をとの推薦をうけ、その責任の重さに身が引き締まる思いがしております。

この2年間、名誉会長の大山先生の後を受けて、全国の同窓会員の皆さま、支部長はじめ役員の方々、さらに事務局のご支援により会務を執行出来ました事に心から感謝致しております。

新校舎の建設に対して、多くの同窓の皆さまからの心からなるご支援を賜わり、衷心より厚く御礼申し上げます。しかしながら当初に目標としておりま

した額に達していないことと、今後、大学は水道橋に更なる病院機能や研究施設の充実を図るために、本校舎（水道橋病院）の裏手に新たな施設の建設の必要に迫られております。この様な事から現在、お願いしております母校への寄付の募集期間を26年3月まで延長して、お願い申し上げることとなりました。今後とも東歯大が歯科大学の雄として輝き続けるために、同窓の皆さまの母校へのご支援・ご協力を心から宜しくお願い申し上げます。

今日、同窓会さらに歯科医師会にとりまして、最大の課題は若手の会員の方との連携です。現在、同窓会各支部や歯科医師会に加入している若手の方の割合が極端に少なくなっております。

日本の医療制度の中で、国民の歯科医療を充実するためには、歯科医師が団結して、強く社会にアピールして行くことが不可欠であることを若手の皆さまに、是非、自覚して戴くことを願っています。

原則として同窓会会員は全国にある同窓会支部に所属して戴くこととなっておりますが、卒業後5年間は新進会員として同窓会本部に直接所属することとなっております。この間の会費の減額を図るとともに、若手会員への各種研修会、セミナーの開催、学年会への開催の支援など、連携が図れるよう同窓会は種々の企画を行っております。

また大学との連携のもと、学生時代から同窓会の準会員として、歯学体や大学祭、県人会への支援などを行っております。

また、さらに将来の支部の活性化のために、学生の帰省先の支部と、学生さんやそのご父兄との懇親を図る試みも考えております。

2年後の27年11月には同窓会創立120周年を迎えることとなりました。テーマとして「同窓会創立120周年 医はこれ済生ひとへに仁なり 伝統そして未来への飛躍」と決定いたしました。

東京歯科大学を創設した高山紀齋先生、血脇守之助先生など明治の先人の方々は強い向学心と「歯科医師は学識を高めることにより人々を幸せにでき、さらに人々の尊敬を得ることができる」との信念を持って歯科教育に邁進されておられました。ともに助け合い高めあってゆく血脇イズムを次世代に継承することを願っております。今後とも更なるご支援を心よりお願い申し上げます。

お知らせ

理事会より

- 同窓会本部事務局の年末年始のお休みは、平成25年12月28日（土）～平成26年1月5日（日）までとなります。

同窓会事業・行事

- 平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会
と き 平成26年11月予定（詳細未定）
- TDC 卒後研修セミナー2014プログラム

卒研セミナー

- | | |
|---|---|
| No.1 臨床実技セミナー『極めよう!! 外科小手術と顎顔面の解剖学』4月20日（日） | No.6 臨床実技セミナー『MTM 新時代』
～歯科矯正用アンカースクリューの有効性を検証する～ 10月12日（日） |
| No.2 ベーシックセミナー『初診時に求められる診査・診断のスキル』
～X線写真から始まる歯科診療のベーシック～ 5月18日（日） | 特別企画 インプラントセミナー –臨床から基礎へ、基礎から臨床へ– 『Evidence-Based-Clinical Practice for Implant』
～科学的根拠をもったインプラント臨床を実践するために～
6月28日・29日（土・日）
7月26日・27日（土・日） |
| No.3 臨床セミナー『診療の基本技術』
～日常臨床のHow to～ 6月22日（日） | |
| No.4 臨床セミナー『どうして定期健診を受診してくれないの?』
～行動科学を知ろう～ 7月27日（日） | |
| No.5 臨床セミナー『困った…! 義歯の悩み解消します』
～あんなこと、こんなこと…実際の症例を通して考えていきましょう～
9月21日（日） | |

母校関係行事・案内

- 平成26年度 東京歯科大学 入学試験情報

入試日程一覧（全募集人員128名：編入学除く）

入試制度	募集人員	出願期間 (期間内必着)	試験日	合格発表日	試験会場
一般入試（Ⅰ期）	約50名	平成25年12月17日 ～ 平成26年1月28日	平成26年 2月2日	平成26年 2月5日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎本館 大阪会場： TKP新大阪ビジネスセンター 福岡会場： TKP博多駅前シティセンター
大学入試センター利用 試験（Ⅰ期）	13名				
一般入試（Ⅱ期）	約15名				
大学入試センター利用 試験（Ⅱ期）	5名	平成26年2月18日 ～ 平成26年3月4日	平成26年 3月8日	平成26年 3月11日	東京歯科大学水道橋校舎本館
編入学試験B	若干名				
学士等特別選抜B	若干名				

※編入学試験A・Bは、2年次に編入学

重点事業へのアプローチ

＜若手同窓会員への積極的なアプローチ＞

若手ネットワーク委員会
岡村 美恵子

昨年末、全国各支部に「若手ネットワーク担当」の先生方をご推薦いただき現在61支部88名の方が登録されています。臨床研修中、研修修了後これから勤務医としてあるいは開業医として本格的に活動を始める卒後10年目位までの若手同窓会員の相談に乗っていただいたり、同窓会本部・各支部の事業への積極的な参加を促していただきたいと思っております。今年6月からは同窓会HPに若手ネットワーク委員会の『Mail Box』も開設され少しずつ若手の声も聞かれるようになってきました。そんな中愛知県支部から「若手勉強会」の報告を、青森県支部からは未入会同窓生への声かけにより支部の活動への参加を促す取り組みの報告をいただきましたのでご紹介致します。両支部とも若手同窓会員や支部未入会同窓生に積極的に働きかけをして下さっており、新会員の増加や同窓会への意識向上などの効果が出て来ているようです。若手ネットワーク委員会としましても心強く感じております。これからも全国の支部からの様々な報告をお待ちしております。

今後、若手ネットワーク委員会から「若手ネットワーク担当」の先生方へメールやFAXなどでも本部の事業の案内を発信できるシステムを構築しようと思っております。まだ担当が決まっていない支部には是非とも早めの御登録をお願い致します。

東京歯科大学同窓会青森県支部会 社保勉強会

青森県支部 常任理事 「若手ネットワーク担当」
古川 由美子

現在、青森県支部はA会員36名、B会員（家族会員・勤務医会員）3名、高齢者会員14名の合計53名となっております（うち女性会員は4名）。多い時は100名以上もの会員がいらしたそうなので、かなり少なくなってしまいました。

一昨年、東歯卒業の先生が県内に帰っていらしたことを知り、また他にも未入会の方がいらしたので、そういった先生方を同窓会の総会等に誘えないかという提案を理事会でさせていただきました。同窓会費を払っているB会員もいるのだからダメではないかというご意見もありましたが、本田新支部長よりご指示をいただき、県内の未入会の先生の調査を始めました。

今まで全県的に会員が集まるのは年一回の「総会」だけでした。本田新支部長はもっと会員の集まる場を増やしたいということで、今回9月7日に「社保勉強会」を行うこととし、その際に未入会の先生方にも案内をさしあげることにしました（男性1名、女性5名）。実際、参加してくださったのは女性1名だけでしたが、とても大きな一歩だったと思います。勉強会后、ビアガーデンでの懇親会となり、初参加の



本田富彦新支部長

先生も会員の先生方と和気あいあいと楽しんでくださったようです。やはり「同窓」ということで、初対面でもいろんな話ができただけではないでしょうか。

私事ですが親が歯科医ではなかった私が出身地で開業し現在までやってこられたのは、同窓会の先生方のおかげだと思っております。相談に乗っていただいたり、いろいろ教えていただいたりしました。他大学の先生方にお話しをうかがっても、東歯ほどつながりが強いところはないようです。未入会の先生方にも私が感じてきたことを伝えていけたらという思いで今回の提案をし、実施することができました。

本部では卒後5年までを「本部直接会員」とされるようですが、その際もしくは在学時に出身県を支部の方へお知らせいただくと、出身地に帰られたときに同窓会にお誘いしやすいのではないかと思います（個人情報保護の問題はあるのかもしれませんが）。

来年の「総会」にも未入会の先生方に案内を差し上げる予定です。会員ではないので議決権はありません。学術講演と懇親会（実費）のみとなりますが、参加してくださる方が増えることを期待しております。

東京歯科大学同窓会愛知県支部「若手勉強会」

愛知県支部常任理事 広報担当
竹内 英樹

愛知県では、平成24年度より新規事業として、若手勉強会を事業計画に取り入れました。これは、若い先生に積極的に参加してもらえる同窓会にしていきたい、という会長の意向により始められたもので、新入会員の増加、若い先生の人材発掘及び同窓会に対する意識向上という良い結果が生まれ、最近懸念されている若い先生の同窓会離れに歯止めをかける有意義な事業と思われるので紹介させていただきます。

この若手勉強会というのは、毎年実施されている外部講師を招聘する学術講演会とは別に、若い会員の先生自身がそれぞれのテーマで発表し、ベテランの先生も交えてざっくばらんに本音で話し合い、毎日の臨床で発生する悩みを解決していこう、という趣旨で企画されたもので、通常の学術講演会やスタディグループとは一味違ったものとなっております。また、若い先生とベテランの先生の交流も目的の一つなので、勉強会終了後は、発表してくれた先生を囲んで懇親会を開催し親睦を深めています。

第2回では、本部同窓会副会長の梅村長生先生を講師にお願いした医療問題講演会と共催し、医療保険制度や診療報酬を中心に社会保障制度に関する研修も行い、若い先生にとって、あまり勉強する機会が少ない内容だったので大変有意義なコラボ企画となりました。下記が2回開催された概要です。

第1回 平成24年11月18日（日）於 愛知県歯科医師会館 出席者 22名

「全身的偶発症にて自院から救急車出動要請をした3例について」小関 健司先生（平成2年卒）

「コンピロックパーシャルデンチャーにおいて支台歯を喪失した

一例リカバリーについて」

加藤 勇先生（平成8年卒）

「私の臨床～根管治療～」

穂積 隆浩先生（平成11年卒）

第2回 平成25年4月21日（日）於 アパホテル名古屋錦 出席者 26名

「難しいエンド」

白岩 克規先生（平成2年卒）

「一般開業医が行う小児の予防矯正」

静間祐一郎先生（平成7年卒）

「顎関節を考慮した矯正治療」

酒井 聡先生（平成13年卒）

医療問題講演会

「社会保障・税の一体改革と診療報酬改定」

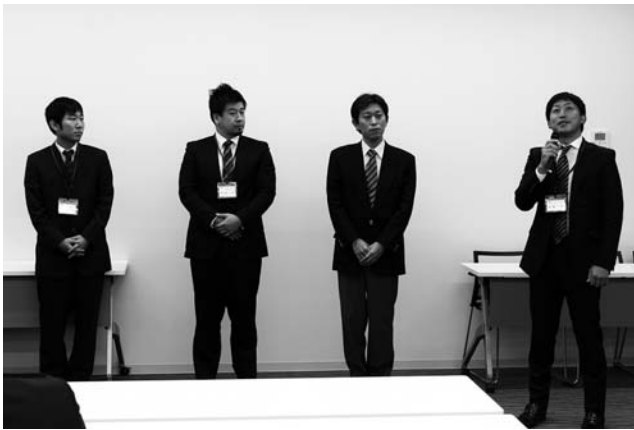
梅村 長生先生（昭和49年卒）



第1回の演者と会長



第2回の演者と会長



「若手勉強会」をきっかけに入会された先生方



演者に対する若い先生方の質問の様子



演者



懇親会

会 務

平成25年度評議員会 第119回定時総会報告

平成25年度評議員会および第119回定時総会は、平成25年11月17日（日）、竣工間もない水道橋校舎新館 血脇記念ホールで開催された。

評議員会・総会出席者全員の写真が、同窓会 HP に掲載されております。

平成25年度評議員会

高橋義一専務理事の司会のもと、評議員数78名中77名の出席で、宮地建夫副会長の開会の辞で平成25年度評議員会は開幕した。

（注）評議員は各地域支部連合会および大学支部から選出されるため、評議員の所属は地域支部連合会名および大学としてあります。

まず矢崎秀昭会長が挨拶に立たれ、この2年間の任期を振り返った（詳細については8～10ページを参照）。来賓を代表して金子 讓理事長、井出吉信学長、白須賀貴樹衆議院議員、島村 大参議院議員にご挨拶をいただき、続いて財部正治総務担当常任理事より来賓紹



来賓挨拶 井出吉信学長



会場風景

介があった。

議長・副議長の選出

議場より執行部一任の声があり、議長に高橋哲夫評議員（東京）、副議長に高原正明評議員（関東）が選出された。議長より評議員の代理出席が5名ある旨の報告があり、承認された。議事録署名人には谷 繁信評議員（関東）、引田正俊評議員（関東）が指名された。

報 告

報告に先立ち、128名の逝去会員に対して黙祷を捧げた。次いで高橋義一専務理事より平成25年度会務報告が行われた。なおこの中には、東日本大震災対策部会報告、母校水道橋移転事業に伴う寄付金協力の報告も盛り込まれた。また関連項目として、高野博子事

業推進担当常任理事から若手ネットワーク委員会からの活動報告およびお願いがあった。さらに寺田仁志会計担当常任理事より平成25年度会計現況報告が行われた。中野一博評議員（北海道）からは新進会員の会費徴収に関する質問があった。

議長は会長挨拶から各報告事項についての承認を求め、承認された。

大学の現況

金子 讓理事長から「大学法人の使命」、一戸達也副学長から「水道橋移転とこれからの東京歯科大学が目指すもの」と題した報告をいただいた（内容は10～13ページに記載）。

議 事

昼食をはさみ、午後からは議事

に入った。第1号議案から第6号議案は「平成24年度決算に関する議案」であり一括上程された。第1号議案から第4号議案について寺田常任理事が、また関泰忠常任監事の監査報告を挟んで第5号議案および第6号議案について財部常任理事から説明があり、審議・採決は逐条で行われ、いずれも原案通り可決・確定した。

第7号議案は「総会に係る会則の改正」案で、高橋専務理事からの説明の内容には、寺岡洋一評議員（東北）の評議員会招集の条件についての事前質問の回答も加えられた。さらに寺岡評議員より、評議員に評議員会招集権を認めていないことに関して追加の質問があった。審議の後、原案どおり可決・確定した。これにより本年度総会の議決を待って、事実上次年度から総会が廃止されることになった。

第8号議案は「役員選任に係る会則の改正」案、第9号議案は「選挙規則の制定」案で関連議案として一括上程された。高橋専務理事の説明の後審議に入り、原案通り可決・確定した。平成26年度評議員会で選挙管理委員が選出され、平成27年度評議員会における会長・監事選出時に本選挙規則が適用されることとなる。

第10号議案は「評議員選出の際の経過措置」に係るもので、高橋専務理事の説明後、新垣元洋評議員（九州）より一県一評議員の継続を求める要望があった。審議の結果、原案通り、平成27年度まで一県最低一評議員が維持されることが可決・確定した。

第11号議案は「共済規定の一部

改正」案で海野智厚生担当常任理事から、第12号議案「同窓会基金および血協記念基金に係る会則と規程の改正」案、第13号議案「過年度分会費徴収の一部中止」案については高橋専務理事からそれぞれ説明があり、審議の結果、すべて可決・確定した。

第14号議案から第17号議案は「平成26年度事業計画・入会金・会費・経常部収支予算」に係るもので、事業計画については高橋専務理事から、そのほかは寺田常任理事から説明があり、4議案とも可決・確定した。

第18号議案は「平成26年度の共済負担金」に関するもので、原案通り可決・確定した。

第19号議案から第21号議案は「平成26年度特別会計収支予算、卒後研修セミナー収支予算、卒後研修セミナー積立金収支予算、時局対策費積立金会計収支予算」に係るもので、寺田常任理事の説明の後、原案通り可決・確定した。

第22号議案では、内山健志名誉教授、柳澤孝彰名誉教授が名誉会員に推薦され、満場一致で承認された。

第23号議案は「役員改選」である。

会長選出にあたっては、青木栄夫評議員（東京）より矢崎秀昭現会長の続投を求める発言があり、続いて吉嶺光評議員（九州）より賛同する発言があった。議長は議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

監事選出については、成瀬健評議員（東海）から春山良夫会員（埼玉県支部）、梅村長生会員（愛知県支部）を推薦する発言があ



議長

副議長

り、また石原和幸評議員（大学）から矢島安朝会員（大学支部）を推薦する発言があった。さらに菊地善郎評議員（関東）から3氏を推薦する発言があった。石田雅男評議員（九州）からは、候補者推薦に対する質問があった。議長はそれぞれ議場に諮ったところ、3氏とも満場一致で承認された。

選出後、矢崎次期会長および3人の次期監事より挨拶があった。なお他の新役員選出は評議員会の承認により新会長一任となった。

協 議

執行部から同窓会員緊急時代診制度の見直しについての協議題が提出された。緊急時代診制度が平成23年より試験的に実施されることとなっていたが、地域性、迅速性、柔軟性を考慮したうえで、実現可能な運営形態に見直すことを次年度以降に申し送ることとし、これに対するご意見を求めるものであった。

叙勲・褒章受賞者顕彰式

平成24年秋には6名、平成25年春には8名の会員が叙勲を受章されたことが紹介された。ご来席の10名の先生に矢崎会長より顕彰状と記念品が伝授された。代表して

吉木周作先生が喜びを語られた。

なお平成24年秋の叙勲受章者は、吉木周作先生（瑞宝中綬章，S32年卒・川崎支部），千葉光行先生（旭日小綬章，S43年卒・千葉県支部），坂登輝夫先生（旭日双光章，S33年卒・千葉県支部），東海林 修先生（同，S34年卒・山形県支部），村松久中先生（同，S39年卒・山梨県支部），佐藤昭雄先生（同，S39年卒・新潟県支部）であった。また平成25年春の受章者は、北村晴彦先生（旭日双光章，S31年卒・北多摩支部），鈴木俊弘先生（同，S32年卒・福島県支部），山内 静先生（同，S33年卒・秋田県支部），松村雄郷先生（同，S38年卒・南信支部），河原武彦先生（同，S39年卒・神奈川相模支部），林 翔先生（同，S42年卒・広島県支部），森井信行先生（瑞宝双光章，S30年卒・埼玉県支部），齋藤安廣先生（同，S33年卒・千葉県支部）であった。

平成25年秋の受章者は次年度の評議員会でご紹介することとなっている。

浮地文夫副会長の閉会の辞で、平成24年度評議員会は滞りなく閉幕した。

第119回同窓会定時総会

評議員会に引き続き、第119回定時総会は高橋義一専務理事司会のもと加藤木 健副会長の開会の辞で始まり、矢崎秀昭会長挨拶のあと、議長に高原正明会員（千葉県支部），副議長に高橋哲夫会員（北多摩支部）を選出、また議事録署名人に谷 繁信会員（横須賀・鎌倉支部），引田正俊会員（群馬県支部）が指名された。大井誠一会員（埼玉県支部）から評議員会と重なる項目については執行部の説明は簡潔に、との提案があり、その意に従って議事が進められた。高橋専務理事の会務報告、高橋哲夫評議員会議長による評議員会

報告、寺田常任理事の平成26年度予算関連の報告があり、いずれも承認された。平成24年度決算に係る6議案、会則改正に係る3議案はいずれも可決した。監査報告は原 武仁監事が行った。

白井文規総務担当常任理事の説明による「第7号議案 総会に係る会則の改正」が可決されたことにより、総会は119回の歴史に幕を閉じることとなった。

木俣 茂会員（千葉県支部）から現執行部に対して感謝動議が出され、満場一致で可決された。その後、佐瀬俊之副会長の閉会の辞で、最後の総会は閉会した。

総会后、会場を本館14階に移して、懇親会が開催された。学内での開催ということで、例年とは趣の異なる懇親会となった。校歌斉唱の中、2年後に控えた同窓会創立120周年記念事業について、話題は盛り上がりを見せた。

評 議 員 会 挨 拶

矢崎秀昭会長 挨拶



皆さま、おはようございます。本日は多くのご来賓の先生方、また全国の評議員の先生方、早朝から本当にありがとうございます。日頃は同窓会活動に、皆さま方に

本当にお世話になりまして、心より厚く御礼申し上げます。

後程、大学から詳細なる説明がございますけれども、本年9月より東京歯科大学はこの水道橋の地で本格的な活動を始めております。皆さま方のご支援によりまして、立派な血協記念ホールもできました。また、3ヵ所に分かれていますけれども、素晴らしい校舎や病院が完成し、その中で大学の活動が順調に行われていることに、心からお喜び申し上げます。

2020年の東京オリンピックも決

まり、東京が世界の注目を浴びる、その時にこの東京歯科大学が東京に戻ってきたということは、大変タイミングがよく、素晴らしいことと思います。

しかしながら、東京歯科大学が東京に戻ってきたということで、東京にあります他の、特に私立の歯科大学は一斉に、校舎の新築、あるいは病院等の充実等を図っておりまして、今後ますます歯科大学間の競争は激しくなってくると思います。そのようなことから是非、同窓の皆さま方の大学への

ご支援が必要だと思っております。

以前よりお願いしております、今日、皆さんお集まりの血脇記念ホールへの寄附ですが、本当に多くの方々からご支援を賜わりました、このように立派な血脇記念ホールが完成しております。しかしながら、当初の予定よりもご寄附賜わった金額が多少少ないということもございまして、寄附の受け付けは8月が締め切りだったのですけれども、来年3月まで血脇記念ホールへの寄附のお願いを継続することとなりました。全国にお帰りになりまして、同窓の方々には是非ともお声がけをよろしくお願い申し上げます。

この血脇記念ホールだけではなくて、これから大学としましては、研究棟、あるいは病院施設の充実を図るということもございまして。そのためにも同窓が恒久的に大学を支援するような、機構を作らなくてはと思っております。皆さま方のご支援で、今後とも東京歯科大学が日本一の歯科大学として輝き続けるよう、よろしくお願い申し上げます。

2年前ですが、この評議員会で皆さま方の推薦を得まして、名誉会長であります大山先生の跡を継いで同窓会の会長に就任させていただきました。皆さまの協力での2年間、何とか順調に会務が運営できたものと思っております。

その中で一番の問題は、現在、若手の会員が同窓会、あるいは歯科医師会に入らないなどの、組織離れを起こしていることです。これに対しまして、同窓会といたしましては、若手ネットワークシス

テム、あるいは大学と協力いたしまして、学生のと時から同窓会のことをよく理解してもらうように、学生を同窓会の準会員として、歯学体、あるいは大学祭、あるいは各種の支援等を通じて、学生に同窓会の意義などについて説明させていただいております。また、卒業して5年目までを新進会員といたしまして、大幅な会費の減額、あるいはセミナーや学年会等を開催するなど、若手の同窓会員に対しまして種々の働きかけをしております。

また、ホームページには、若手ネットワーク委員会の先生に協力していただきまして、メールボックスを設置し、その中で若手の会員が同窓会に対する質問、あるいはアルバイトの紹介等のことを頼んでくるような動きも出ております。

また、地域によりましては、東海地区あるいは四国地区のように、支部で若手のための勉強会を開催していただきまして、その機会にある程度若手の会員が支部に入ってきてくれるというような実績も上がっております。しかしながら、まだまだ緒についたばかりでございます。今後とも若手の会員との連携を推し進めていくつもりです。

日本歯科医師会におきましても、若い歯科医師の歯科医師会離れが起きておりまして、例えば55歳ですと現在、2,400人ぐらいの会員がいますが、40歳では1,000人には達しておりません。このまま移行していきますと、日本歯科医師会やその地域の歯科医師会もそうですが、財政的にも大変困難

な状況に陥ります。日歯は、来年度につきましてもは経費を約2割削減するというような方針も打ち出しております。

同窓会としても、支部会員が減るとことは同窓会の財政状態も大変厳しくなるということもございまして、われわれも一層努力しますけれども、各支部の先生方、あるいは評議員の先生方に若手の会員が支部に入るように是非ともご協力を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。

既にご案内のように、2年後でございまして、平成27年に同窓会創立120周年を迎えることになっております。現在、その準備会を立ち上げまして、種々準備に入っております。創設者であります高山紀齋先生、血脇守之助先生たちは、本当に強い向学心に燃えておりまして、歯科医師というものは学識を積むことによって人々を幸せにすることができ、それによって歯科医師が尊敬を得ることができるという、強い信念のもとに学生教育に取り組んでおられました。

東京歯科大学の同窓会として、この創立120周年を記念し、テーマを決めようということで、準備委員会で種々検討してまいりました。テーマといたしまして、「同窓会創立120周年 医はこれ濟生ひとへに仁なり 伝統そして未来への飛躍」と決めました。共に助け合い、学び合い、人間性を高め合っていく血脇イズムを、これから続く後輩たちに伝えていきたいと思っております。

今日は、同窓のお二人の国会議員にご出席いただいておりますけ

れども、島村 大先生は夏の参議院選挙におきまして、全国の皆さま方の支援を受けて全国1位の得票数を得て、見事当選しております。また、昨年の総選挙におきましては、千葉県の平成12年卒業の白須賀貴樹先生が見事衆議院に当選しております。現在、お二人とも議員活動を大変活発に行っておられます。

お二人の同窓会員を衆参両院におられる同窓会は他にございません。同窓会としましても、また同窓の皆さまも、今後とも是非この

お二人へのご支援を賜りたいと思っております。

今後の同窓会の活動ですけれども、同窓会の活動の精神的支柱になるためにということで、現在、同窓会アカデミア構想というのを立ち上げております。これからの歯科界でますます活躍してもらう人材を育てるということを主たる目的として、活動が始まっております。是非ともこのアカデミア構想を充実させまして、今後の同窓会を担う人材を育てていきたいと思っております。

先程お話ししましたように、財政状態は、支部会員が減少したことにより同窓会本部の財政状態も、大変厳しくなってございます。しかしながら、経費を削減しながら、なおかつ同窓会活動はさらに活発化しようと思っております。それには皆さま方の絶大なるご支援が必要でございます。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

本日はお集まり、どうもありがとうございました。(拍手)

東京歯科大学の現況 大学法人の使命

金子 譲理事長



15分というお時間をいただいておりますので、それに沿っていききたいと思います。

昨年の内容はお手元にある議事録に記載されていますので、併せて読んでいただきたいと思います。

法人の役割は、学校の経営ということですが、経営をどう解釈するかで、法人の役割が機能的にもだいぶ変わってくる可能性がございます。基本的には財務、人事ですが、財務戦略の中でも、大学の

運営をどのように考えるかという、非常に大きな、根源的なテーマがございます。私立学校法に明確に謳われてはおりますが、運営の仕方は各大学によって違うという実態がございます。可及的永続性のある、大学としての機能がニュートラルになる仕組みをつくるのが大事だろうと思っております。

大学の役割は、教育、研究、東京歯科大では診療と、三つありますが、先程専務理事からも国家試験の良い成績のことをお話しいただきましたが、国家試験の成績は、教育そのものとイコールではありません。国家試験は歯科医師になること、あるいは研究者になること、その両方の目的のため、言ってみればその手前のハードルにすぎないのです。

今日の制度により国家試験の難

度が非常に高くなっていますが、学生さんを預かる大学の役割としては、それをクリアしなければ、次に行けないということです。これが目的になっては予備校と同じになりますので、大学は国家試験の合格は一つの手段だということをはっきりしておかなければならないと思います。

教育においても、学生は研究力のある大学、あるいは臨床力のある大学で学ぶということが大事で、もともと大学は知の伝達と知の創造の場と言われていますが、どちらかというとなら国家試験は知の伝達ということになります。そしてもう一つの大事なことは創造です。この創造は、学んだ知を基にして創られるものですから、本学としてはこの充実が非常に重要だと思っております。教育力、研究力、臨床力を高め、更に国際的な

力をつけていくということです。

お手元にお配りした資料に1月から今日までの事業の主だったものが記載してあります。人事では井出吉信学長の再任があり、石井拓男副学長、一戸達也副学長、井上孝千葉病院長、西田次郎市川総合病院長、矢島安朝水道橋病院長、田崎雅和大学院研究科長が寄附行為に基づく学務役職者でございます。

移転事業で今までに支出した費用が、一番後ろのページの前面のところに出ています。そこには、一次計画、二次計画の予定にはない、ビルも含めた土地の購入も記載してあります。現状では、約196億円でございます。その中の鶴屋ビルが22~23億ですが、これは今後30~40年たつと、現TDCビル（本館校舎）も建て替えということになりますので、その事を見据えて鶴屋ビルの購入を決めました。坪数にしてあと200坪位を購入すれば、そこに大きな建物が建てられるだろうと考えています。

大事なことは、稲毛の今後のことですが、病院は現状のまま数年維持していくということになるかと思えます。ただ、最終的な形態というものは、まだ決まっておりません。病院以外の部分についても決まっておりません。二次計画の目処がたちましたから、それを組上に載せていく段階になるかと思えます。

いずれにせよ大きな借金はいたしません。今後の経済を考えると、借金は非常に不安定な要素になりますので、基本方針を決めた上で、いろいろな情報を、いろいろな面から精査・検討した上で、

理事会として決定していきたいと思っております。

資料の2枚目に24年度決算がございますが、収入が約265億です。これは例えばある単科歯科大学と比べると、およそ3倍近い額だと思います。この中で、学生さんの納付金は、東京歯科が一番高く、45億であります。総収入に占める割合では2割を切っています。前述の歯科大学は、学生さんの納付金は、たしか総収入に占める割合が6割ぐらいだと思います。一般大学では7割、8割です。東京歯科は、単科の大学ですが、市川総合病院が、きわめて大きな収入をあげています。反面、大きな投資も必要ですから、この運営に関しては非常に細心の注意が必要だろうと思っています。

同時に、歯科病院は、教育施設と付随したもので、赤字は当たり前だと先生方も思っていたりもするかもしれませんが、やはり病院は単独の施設としての収支が合わないといけません。法人としては今後の課題と位置づけております。

広報活動は法人として大事だと思っております。資料の最後に、「週刊東洋経済」の記事について記載がありますが、全国の国公立大学の総合評価として、東京歯科はなんと20位です。考えられない順位です。この考えられない順位、実は間違っていました、やはり考えられなかったのですけれども（笑）、何が間違っていたかと申しますと、独自の事業収入に本来は除外されるべき病院収入を入れて計算しています。70数%となっていますが、20数%位になり

ます。

しかし、11項目の中の1項目ですから、最終的な総合評価はそれほど落ちないと思っています。ポイントをどう数えるかは記載されていませんが、800校中、トップ50には入っているだろうと思っております。従来からしっかりした大学という評価はいただいております。

先ほど井出学長からもお話がありました。まだまだ研究、診療の面でも行わなければいけない点が多々あるということです。先生方からも忌憚のないご意見をいただきたいと思っています。これからが出発ということです。

特に東京歯科大学の受験生の多くは、国立と医学部を併願しています。この点でも競争があります。さらに、将来の歯科を考えると、医師の増加により、口腔外科や歯科麻酔等の重複した診療の領域は非常に強く主張してくると思います。これは歯科が自分たちで守らないといけないところですから、それには教育を支えるための研究が基盤になります。歯科医療の発展にどうしても必要なところですから、大学から研究を除くわけにはいきません。今後の戦略ということも考えて、市川総合病院での歯科の充実が、将来の競争という面で非常に大きな役割があるかと思っています。

以上です。どうもありがとうございました。（拍手）

東京歯科大学の現況

水道橋移転とこれからの東京歯科大学が目指すもの

一戸達也副学長



金子理事長に続いて井出学長がお話をされるのですが、本日は公務のため、代役でお話をさせていただきます。

本題に入る前に、11月9日(土)に行われた推薦入学選考についてご報告させていただきます。推薦入学選考は一般公募と指定校推薦を合わせて例年よりも20名程志願者数が減ってしまいました。しかし、平均点は昨年をかなり上回る結果となり、優秀な学生が集まってきたのではないかと考えています。推薦入学選考の場合、合格すると他の大学へは行けません。東京歯科大学の入学試験に上位で合格できる受験生は医学部にも合格する学力がありますので、推薦入学選考で合格すると医学部には行けなくなってしまうことも志願者が減ったことにつながっているのではないかと分析しています。

さて、本題に入ります。「水道橋移転とこれからの東京歯科大学が目指すもの」というタイトルではありますが、本日は、現在、わが国が歯科医学教育に対してどんなことを考え、どのようなことを

行おうとしているのか、また導こうとしているのか、そして東京歯科大学はどのように対応していく必要があるのか、というお話をさせていただきます。大学評価・学位授与機構 荻上紘一先生が、平成21年4月30日に日本学術会議の「質保証枠組み検討分科会」において「高等教育の質保証」という講演をされました。その際の資料を参考にしながら説明させていただきます。

ご存じのように、現在は大学全入時代と言われており、大学としてどのように教育の質を保証し、有為の人材を世の中に出していくかが問われるようになっていきます。その昔は、大学が自己点検や評価をしていれば良かったのですが、最近ではそれでは足りないということで、第三者評価を含めた色々な取組が行われています。その中に認証評価制度があります。認証評価制度とは、平成16年4月に施行され、国公私立のすべての大学、短期大学、高等専門学校は定期的に文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けるという制度です。最初に大学等が自己点検・自己評価を行い、それを基に第三者評価を受けるということから、認証評価制度と呼ばれています。評価結果を踏まえて大学等が自ら改善を図ること、また、評価結果が公表されることにより大学等が社会による評価を受けることが目的として挙げられています。大きく分けて機関別認証

評価と分野別認証評価があり、最初は機関別認証評価から始まりました。8月31日の水道橋校舎竣工記念式典に来賓としてご出席いただいた明治大学の前学長の納屋廣美先生は文部科学省から認証された評価機関の一つである大学基準協会の会長で、東京歯科大学は大学基準協会の機関別認証評価を7年に1回受けています。しかし、総合大学では多数の学部があるために、機関別評価だけではそれぞれの学部に対する自己点検・自己評価や第三者評価はどうしても内容が薄くなってしまいます。そのために専門分野別認証評価が注目されるようになりました。専門分野別認証評価制度は、最初は法科大学院がその対象となりました。

現在、「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」を文部科学省が設置しています。歯学教育の質向上を目的として様々な取組を行っています。その中で、歯学教育認証評価の試行ということで、平成24年度から5年計画で歯学教育に関しても専門分野別の認証評価の仕組みを作ることがトライアルで始まっています。東京医科歯科大学・新潟大学・九州歯科大学・大阪歯科大学・東京歯科大学の5校が幹事校となり、認証評価のスタンダードの案を考えているところです。今年度中に2大学がトライアルでの認証評価を受けますが、恐らく来年度には東京歯科大学もトライアルでの認証評価を受けることになると思

ます。

歯学教育の認証評価制度と比べてもっと切羽詰った状況なのが、医学教育の認証評価制度です。アメリカでは、国外の医学部卒業生に対してアメリカの医師国家試験の受験資格を審査する ECFMG (Educational Commission for Foreign Medical Graduates) が、米国の医師国家試験については、10年後の平成35年からアメリカ医科大学協会または世界医学教育連盟の基準によって認証を受けた医学部卒業生以外の受験を認めないとの通知を出しています。これを受けて、昨年、東京女子医科大学が日本では初めて、海外の評価者を招いて第三者評価を受けたという経緯があります。卒業した大学によってはアメリカで医師国家試験を受けられなくなるという可能性が出てくるため、すべての医学部が共同して急いで対応を進めています。

歯科の方はまだそこまでの状況ではないものの、イギリス・ドイツ・アメリカは認証評価の仕組みがありますし、マレーシア・香港などアジアの各国や地域も独自の認証評価制度を作っています。韓国ではアメリカの認証評価制度にそのまま乗っかってしまおうというような動きもあります。そのような中で、日本はまだ認証評価をトライアルで行っているところですので、早急に歯科医学教育の認証評価制度の仕組みを作っていかなければいけないところに来ているのが現状です。つい先日、日本経済新聞朝刊に、東京工業大学の学長がカリフォルニア工科大学に行っ

て単位互換を申し入れたところ断られたという記事が掲載されました。工学系の教育は JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) という認証評価制度があり、この JABEE で認証されている東京工業大学ですらアメリカの基準に照らして不十分であったということです。このように、世界は分野別認証評価という第三者評価制度を極めて重要視しているのが現状です。

各国が教育のプログラムの中で特に前面に出しているのが患者の保護、あるいは患者のケアです。その一方で、それぞれの国の保険制度や歯科医療の状況が異なります。アメリカであれば、学生が診療すればほとんど無料に近いような金額で診療が受けられ、東南アジアに行けば学生の手を借りてでも虫歯の治療をしなければいけないので、学生は多くの症例を経験できます。背景となる社会情勢が異なり、日本ではそのまま受け入れられないと思いますので、日本の実情に合った仕組みを考えていかなければいけないと考えています。

アメリカの場合には、CODA (Commission on Dental Accreditation) という機関があります。これはアメリカ歯科医師会の中にある機関ですが、連邦政府が認めた唯一の歯学教育認証評価機関です。つまり、アメリカ歯科医師会が歯学教育の認証評価制度を請け負っているということになります。先日、文部科学省からの派遣で、CODA のミーティングに参加するためルイジアナ州ニューオ

リンズに出張しました。CODA の場合、卒業時に最も重要視するのがコンピテンシーです。コンピテンシーというのは、歯科医師の歯科医師たる資質というか、すべての能力を含んだ全体像です。高いコンピテンシーを持った歯科医師を輩出するためのプログラムを大学が責任を持って構築しているのかどうかを CODA が評価して、その大学の歯学教育プログラムを認証するということです。

日本が世界から取り残されガラパゴスの歯科医学教育となってはなりません。日本版の適切な歯学教育の認証評価システムを早急に構築しなければならないと感じています。文部科学省も本腰を入れています。まだトライアルの段階ですので、これからいろいろと変化や動きがあるかと思えます。機会のある際にご報告させていただきます。

東京歯科大学はお陰さまで、2年連続で国家試験の総合一位をとっております。コンピテンシーということを考えれば、国家試験に受かるのは当然で、それだけでなく、歯科医師として高い資質を備え、地域の、或いは日本のリーダーになる歯科医師を輩出するのが東京歯科大学の使命であるはずです。この精神は、高山紀齋先生、血脇守之助先生の時代から脈々と続いている姿勢だと思えますので、われわれ教職員もなお一層の努力をして参りたいと思えます。同窓の先生方も、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

第60回「全歯懇」が開催されました



矢崎会長（右）と宮地副会長



懇話会会場風景



懇親会で挨拶する島村 大先生

平成25年10月26日（土）、パシフィコ横浜 アネックスホールにおいて、鶴見大学歯学部同窓会の当番で、「第60回 全国歯科大学同窓・校友会懇話会（全歯懇）」が、石井みどり参議院議員・日歯・日歯連盟・大学からのご来賓の先生方を含め約140名の出席者で開催されました。「全歯懇」は、S53年秋より全国の同窓会・校友会（全国29校の28同窓会・校友会）が一堂に会し、当番校の主催によりH15年の「第50回」まで年2回開催され、H16年からは年1回開催されております。

本同窓会から、矢崎秀昭会長・宮地建夫副会長・臼井文規常任理事が出席し、午後1時30分より5

時30分まで懇話会が開催され、「歯科界の総力結集のために一歯科医師会・連盟組織と同窓会・校友会の連携について」をテーマとし、1)趣旨説明 2)アンケート報告 3)日歯・日歯連盟の会員対策についての後、協議に入り、18校から現状説明等があり、本同窓会からは、矢崎会長より、現況報告等がなされました。組織率を向上させるには、関係団体（大学を含む）の連携が必要との意見の一致が確認されました。

昭和大学歯学部同窓会が、H26年4月19日に、創立30周年（帝国ホテル）、東北大学歯学部が、H27年5月24日に大学創立50周年・同窓会創立40周年（仙台）、北海

道医療大学歯学部同窓会が、H26年9月13日に、創立30周年（札幌）、広島大学歯学部が、H27年10月10日に創立50周年、九州歯科大学同窓会が、H26年5月10日に、創立100周年祝賀会を開催する旨の報告がありました。

次々回（H27年）の当番校は、大阪歯科大学同窓会に決定し、今回は、大阪大学歯学部同窓会の当番で、H26年11月8日（土）に開催予定です。

6時より、懇親会が開催され、来賓として、同窓でもある横浜市歯科医師会会長の杉山紀子先生、参議院議員の島村 大先生が挨拶をされました。



杉山紀子先生・村田鶴見大学歯学部同窓会会長・矢崎会長



懇親会にて、宮地副会長（中央）



懇親会会場風景

会務アラカルト

医はこれ濟生ひとへに仁なり
伝統そして未来への飛躍

同窓会創立120周年記念事業のメインテーマです。平成25年度評議員会での冒頭会長挨拶で矢崎秀昭会長より発表されました。準備委員会（高橋利武委員長）ではメインテーマの候補を数多く上げ、さらに投票により6つに絞り、最終決定を会長にゆだねていました。『発表は評議員会の会長挨拶で』となり、評議員会当日、会長より肅々とメインテーマが発表されました。これから2年間、9,000同窓の目がこのメインテーマに集り、平成27年度には全国で創立120周年を祝ってもらいたいものです。

東京歯科大学同窓会創立120周年記念事業

さて120年前に戻ります。江戸から明治、虫歯も歯周炎もありました。抗生物質、麻酔もない時代、歯の治療は口中医、開業歯科医、大道芸人、香具師などいろいろな人が携わっていました。しかし、中には立派な医術を提供する人もいましたが、大方は武士崩れであったり、まやかしのものがほとんどで、今から思うと歯の痛みがどれだけ多くの人々を悩ませたか想像できます。明治16年頃になり医術開業試験制度が始まり、以前までの徒弟制度とか個人教授の時代から講習をうけて試験に臨むようになると変わってきました。そんな時代背景に高山紀齋先生が登場します。明治の早い時期からア

同窓会創立120周年記念事業のメインテーマ

医はこれ濟生ひとへに仁なり
伝統そして未来への飛躍

歯科医師・同窓から見た先生の功績

「歯科医学」

高山歯科医学院として歯科医学教育研究の道

「歯科医療」

日本歯科医師会の母体をつくり国の制度の
シンクタンクへ

「歯科医師の地位」

歯科医師法制定により確立し高める

メリカにわたり歯科医業を身につけ免許を取得して明治11年日本に帰ってきました。銀座に開業し、当時の最先端の歯科医学を日本に持ち込んだのです。そして、明治23年高山歯科医学院を設立し、単に歯科医としてのみではなく、歯科医業を歯科医学の形で教育、研究として広く日本に広めていったのです。まさに現代の歯科の発展は高山先生なしでは語れないのです。

高山歯科医学院が設立して5年後の明治28年6月、血脇守之助先生らの働きかけで高山歯科医学院友会がスタートしました。会則や役員をさだめ同窓会としてスタートし、120年の歴史の流れにのって今の東京歯科大学同窓会につながってきます。初代院友会会

長である高山先生、その後長い間会長、会頭を務められた血脇先生は東京歯科大学の創始者というだけでなく、歯科界にとってその偉業は計り知れないものです。先に述べたように歯科医学として歯科を確立し、大日本歯科医会を結成し当時の日本の歯科医療制度にとってのシンクタンクの役割を果たせるようにし、また明治39年の歯科医師法の制定により、当時まったくゼロであった歯科医の地位を高め現代の我々歯科医の立ち位置を築いていただきました。

高山先生と血脇先生のスピリッツは歴史上の話ではなく、今日の東京歯科大学を卒業した同窓の血にも伝わっています。「血脇イズム」、「私学の力」、「高尚な歯科医学」、「歯科医師の前に人間た

れ」, どれをみても, ほとんどの同窓が自分にも伝わっているのに気がつき誇りに感じることを思います。同窓会創立120周年記念事業準備委員会では, 脈々と伝わる高山・血脇スピリッツをもう一度見つめなおし, 若い先生方にも伝え, 未来への飛躍へとつなげてもらいたいと期待します。準備委員会では記念誌の発行, 記念式典, 記念講演, 祝賀会を予定しています。日時は平成27年11月29日(日)を予定しています。血脇記念ホールでの式典と記念講演会。そして東京ドームホテルで記念祝賀会を開催する予定にあります。平成27年に全国各地域で同窓会120年の歴史を祝う企画が開催されるようお願いいたします。

TDCA アカデミア構想

創立120周年記念を機に新しい同窓会事業がスタートします。アカデミア構想です。簡単に言いますと, 同窓会は同窓の相互の親睦や大学への協力を主たる目的としていますが, これに加えて「人材育成, すなわち歯科界をリードする歯科医づくり」も目指そうというものです。“制度に関わる分野で活躍する人材, 品格と高い技術をもった歯科医を育てよう”という具体的な目標のもと, 同窓会が一種の学び舎として, そして生涯研修を応援する場として, 同窓会自体がアカデミアになれるようにという構想です。血脇先生の挨拶の中で同窓会について「一種の学術的研究団体と致して毎年一回同窓の者が寄集って互いに研究し合ったところで発表するとか若しくは討論などを致し…、重ねてこ

我々に伝わる高山・血脇スピリット

脱封建制度、学問、
チャレンジ、私学の力、
海外へ、社会性、
先導性

教育、研究、啓発、
高尚の歯科医学、
歯科医としての品格

血脇イズム、家族主義、
五分の真味、二分の俠気、
三分の茶目、野口英世への
思い、歯科医師の前に
人間たれ

東京歯科大学同窓会120周年記念事業について 準備委員会案

事業内容

- 1) 記念誌の発行
 - ・平成27年度の会報2号にわたり120周年記念特集のページを設ける。
 - ・平成28年度に記念誌を発行。
- 2) 記念式典・講演会の開催
 - ・平成27年11月29日(日)(評議員会翌日)、血脇記念ホールにて行う。
 - ・講演会は同窓会の歴史、メインテーマ等にふさわしい内容とする。
 - ・表彰など
- 3) 祝賀会の開催
 - ・記念式典・講演会に引き続き東京ドームホテルで行う。
 - ・550名規模 会費制
- 4) 東京歯科大学同窓会アカデミア構想の実現。
 - ・高山・血脇スピリットによる品格を持つ歯科医や歯科界を創る人材を育成することを目的とした新しい生涯研修支援事業を、同窓会の一つの新しい役割としてスタートする。

の機会を利用して東西南北に散在しておられる同窓が集まって昔話を語り合うという組織にしたい」とありますように, このアカデミア構想こそが高山・血脇両先生がもっていた同窓会の設立の思いに近いのではと考えられます。特に母校では2年連続国家試験合格率第一に輝き, また合格者数も約130人と他校では果たせない素晴らしい教育を行い歯科医を社会

に送り出しています。この若い金の卵を輝く歯科医として成長できるように生涯応援をしてゆこうという使命を背負います。まだ構想でして, 年々夢は膨らみ, その企画もはっきりとしてくるでしょう。そんなアカデミア構想を2年後の同窓会創立120周年記念事業として「アカデミア宣言」を予定しています。光輝く同窓会の将来にむかって各委員会が動き出しまし

た。具体的な内容について少し触れてみます。

歯科医政のプロフェッショナルづくり

今まで保険情報を提供してくれました保険委員会を社会保障制度研究委員会と改名し、健康保険制度に限ることなく社会保障制度という大きな視点で歯科保健・医療のあり方を研究し、将来のあり方を考えるようにしてもらいます。歯科保健・医療制度についての専門家集団を構成し、シンクタンク的な機能のみならずそこに参加する同窓がいろいろな専門分野で活躍できるよう目指します。“東歯〇〇塾”なんて噂され、同じ様なものが他校同窓会にも誕生するようになれば願うところであります。インターネットの時代であり、全国多くの同窓がかかわりを持ってよう思案中です。

臨床家づくり

“大学卒業後の何年かの臨床・社会経験がその後の歯科人生に大

アカデミアをインターネットで調べると

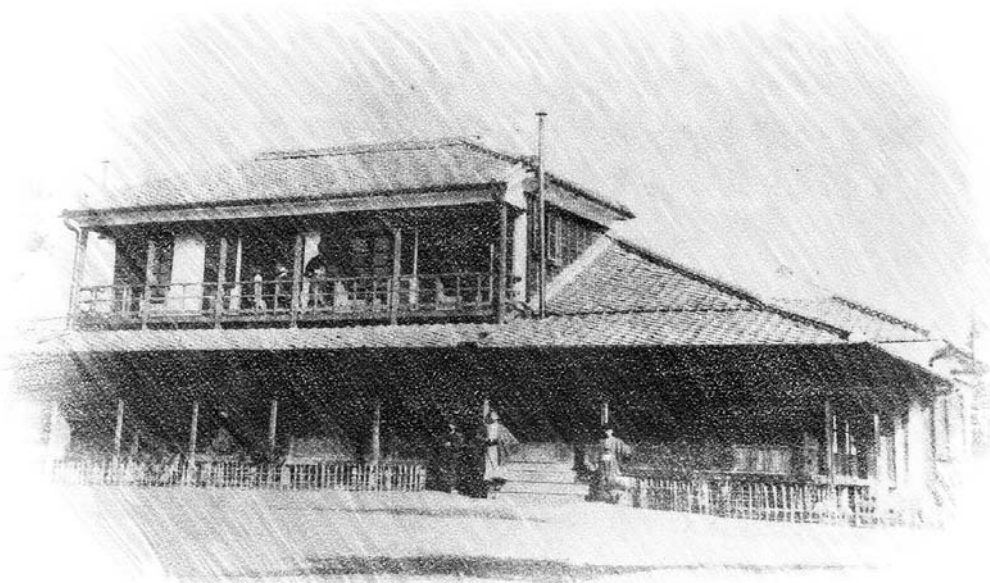
三省堂大辞林によれば [(ラテン) academia] とあり、その意味は

- (1) 学園。学究生活。
- (2) ⇒アカデメイア

とあり、アカデメイアをさらに調べると、本来古代ギリシアのアテナイ北西部郊外にあった神域であり、紀元前387年、プラトンがここに学園を開設したため、この地名「アカデメイア」がそのまま学園名として西暦529年までその歴史は継承されたそうです。その後アカデメイアが学校として有名だったことから、ヨーロッパでのネオプラトニズムの隆盛と相まり、高度な研究ないし教育機関をこれに因んでアカデミー (academy)、アカデミカ (Accademica) などと名付けられるようになったとのことです。(フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) より』)

きな影響を持つ”と言われていま
す。同窓会アカデミアに来れば、
臨床を教われるし、いい先輩に出
会えるし、その他いろいろな情報
もゲットできる。こんな生涯臨床
研修の場としても考えています。
準備委員会では、いろいろな少人
数制の研修コースを企画していま
す。単にセミナーを開催するだけ

ではなく、目的をもったカリキュ
ラムを考え、同窓個々に接し手の
ぬくもりをお互いに感じながら
トップデントイスへと導きます。
現在、症例検討会、医療トピック
ス、リベラルアーツ、同窓オフィス
見学などいろいろな候補があげ
られています。



高山歯科医学院

理事会のうごき

第4回理事会

平成25年9月14日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 30名

議長 矢崎会長

会長挨拶

猛暑もやっと落ち着いてきた。新校舎竣工式の出席ご苦勞様でした。2020年のオリンピックが東京開催に決まり、日本の状況が上向くことが期待されるが、母校の移転がその動きに合わせたものとなるよう願っている。日本歯科医師会、東京都歯科医師会に対して、母校が水道橋に戻ったことを、今後大きくアピールしていきたい。

現在、都内の歯科大学は、どこも苦しい状況が続いている。その中で母校が確かな地位を保っていくためには、さらなる寄付の協力が必要である。募金の締め切りを来年3月まで延長することにしたので、各支部に対し周知とお願いをしていただきたい。

11月には評議員会を迎える。本日は今執行部の重点テーマである若手支援の拡充に向けた予算案を提出するが、緊縮財政の中でいかに事業を活性化していくか、ご意見をいただきたい。本執行部が有終の美を飾れるよう、ご協力をお願いします。

黙 禱

世田谷支部・森田敏弘氏はじめ9名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

会務報告ならびに承認

- 1) 平成25年7月28日から平成25年12月24日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
 - (1) 総務・厚生部：①逝去会員について、規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。②平成25年度支部別会員数の報告。③会費、共済負担金納入免除願いが4件提出され受理した旨の報

告。④罹災報告が1件提出され、罹災共済金を支給する旨の報告。⑤厚生委員会報告。⑥ゴルフ大会委員会報告。⑦母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑧情報ネットワーク推進会議報告。⑨会務検討特別委員会報告。⑩同窓会・会務運営協議会報告。⑪東日本大震災対策部会報告。⑫会員管理システム検討委員会報告。⑬同窓会創立120周年記念事業準備委員会報告。⑭会則第24条第3項による参与について説明および報告。

- (2) 会計部：①原監事より平成24年度東京歯科大学同窓会監査会について報告。②地域支部連合会学術講演会助成金の支出について1件報告。③支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について4件報告。④支部加入促進費の支出について3件報告。⑤東京歯科大学水道橋キャンパス竣工のお祝い金について報告。⑥平成25年度8月末現在現況報告。
 - (3) 渉外部：①渉外部委員会報告。
 - (4) 広報部：①広報部委員会報告。②同窓会HPアクセスレポート報告。
 - (5) 事業推進部：①事業推進部全体委員会、企画会議報告。②学術委員会報告。③TDC卒後研修セミナー2013報告。④TDC卒後研修セミナー2014について説明、報告。⑤全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会報告。⑥学術事業交流についての協議会報告。⑦保険委員会報告。⑧大学連携委員会報告。⑨シンクタンク委員会報告。⑩若手ネットワーク委員会報告。
- 以上の会務報告について、全て承認。

各地域選出理事報告

四国・久保田理事、九州・田部理事より書面にて報告。北海道・佐藤理事、信越・阿部理事、東海・太田理事、北陸・加藤理事より地域支部連合会開催のお知らせ。

協議事項

- (1) 推薦会員退会願いについて1件承認。
- (2) 財産（備品）廃棄処分について処分案を承認。
- (3) 平成26年度入会金・会費について承認。
- (4) 平成26年度共済負担金について承認。
- (5) 次年度の理事会・常任理事会の日程を承認。
- (6) 評議員選出の際の経過措置および評議員のあり方について、会務検討特別委員会の答申および提案を協議。執行部の考え方を取りまとめる方向で継続審議。
- (7) 東京歯科大学同窓会緊急時代診制度について、今後の方向性について見直しを提案，承認。
- (8) 血脇記念基金，同窓会基金二つの基金を一元化し，新名称とそれに伴う会則改正案を提案，承認。
- (9) 同窓会創立120周年記念事業について，準備委員会での進捗状況と次年度に組織される実行委員会に引き継がれる内容を承認。
- (10) 同窓会アカデミア構想について，27年度実施に向けて準備委員会を組織して実現化を図る旨の提案，承認。
- (11) 東京歯科大学同窓会平成26年度事業計画（案）を提案，承認。一部文言の訂正については会長一任。
- (12) 次年度より旅費日当を変更することを提案，承認。役員については，本年度10月1日より実施するものとする。
- (13) 東京歯科大学同窓会平成26年度収支予算（案）について，一部修正のうえ承認。ただし，今後多少の変更もありうるので，最終的には会長一任とする。
- (14) 名誉会員推薦案を承認。
- (15) 平成25年度東京歯科大学同窓会評議員会・総会日程（案）について承認。
- (16) 平成25年度東京歯科大学同窓会評議員会議案について承認。ただし，文言等の修正については，趣旨を逸脱しない範囲で会長一任。
- (17) 平成25年度東京歯科大学同窓会評議員会協議題について承認。
- (18) 平成25年度東京歯科大学同窓会総会議案について承認。

第5回理事会

平成25年10月12日（土）午後2時30分
 於 特別会議室
 出席 29名
 議長 矢崎会長

会長挨拶

あと1か月後に評議員会が迫ってきた。同窓の6割が千葉校舎の出身者となった今日，以前と比べて同窓会，歯科医師会に対する考え方が変わってきているように思われる。本執行部の大きなテーマ若手連携は，難しい問題をはらむ中，今後の同窓会の在り方に大きな影響を及ぼすことなので，今後ともさらに推進に努めてもらいたい。理事，委員の努力によって，次第に目に見えた形になって来ているものと確信している。

今年度も各地域支部連合会，支部総会等にお招きいただいたが，地域支部連合会長，支部長各位が会員をよくまとめておられることを実感している。大学を支援していく姿勢に改めて御礼申し上げる。新入会員対策も地域で具体的な取り組みをして成果を上げているところも見受けられる。今後ともよろしく願います。

大学はすでに水道橋で動き始めている。来週には東歯学会が，10月下旬には東歯祭が催される。東歯祭については同窓会からも支援していく。また今後も大学に対する寄付のお願いも継続していきたい。

評議員会が恙なく終わられるよう協力をお願いする。

黙 禱

世田谷支部・伊奈敏生氏はじめ10名のご逝去を悼み，謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

会務報告ならびに承認

- 1) 平成25年9月17日から平成25年12月24日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
 - (1) 総務・厚生部：①逝去会員について，規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。②会費，共済負担金納入免除願いが1件提出され受理し

た旨の報告。③共済負担金納入免除願いが1件提出され受理した旨の報告。④厚生委員会報告。⑤ゴルフ大会委員会報告。⑥母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑦情報ネットワーク推進会議報告。⑧会務検討特別委員会報告。⑨同窓会・会務運営協議会報告。⑩東日本大震災対策部会報告。⑪会員管理システム検討委員会報告。⑫同窓会創立120周年記念事業準備委員会報告。⑬アカデミア構想準備委員会報告。⑭平成25年度評議員会議案、協議題について説明および報告。

- (2) 会計部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について2件報告。②地域支部連合会ゴルフ大会カップ代の支出について1件報告。③支部加入促進費の支出について2件報告。④東函祭のお祝い金支出について報告。⑤歯学体同窓会会長賞支出について報告。⑥平成25年度9月末現在現況報告。
- (3) 渉外部：①渉外部委員会報告。
- (4) 広報部：①広報部委員会報告。②同窓会HPアクセスレポート報告。
- (5) 事業推進部：①事業推進部全体委員会、企画会議報告。②学術委員会報告。③TDC卒後研修セミナー2013報告。④TDC卒後研修セミナー2014について説明、報告。⑤学術事業交流についての協議会報告。⑥保険委員会報告。⑦大学連携委員会報告。⑧シンクタンク委員会報告。⑨若手ネットワーク委員会報告。

以上の会務報告について、全て承認。

各地域選出理事報告

東海・太田理事、北陸・加藤理事より書面にて報告。

協議事項

- (1) 新進会員の会費徴収に銀行口座自動引き落としを次年度より積極的に導入したい旨の提案があり、承認。
- (2) 評議員選出の経過措置および評議員のあり方について執行部の意見を集約する旨の提案があり、承認。内容については継続審議。
- (3) 平成26年度事業計画、特にアカデミア構想につ

いて未確定な部分があり、執行部として具体的な内容を固めていくために、関係委員会の取り組み状況を見極めたうえで、理事会で協議を重ねる旨提案、承認。内容の検討は継続審議。

- (4) 平成25年度評議員会・総会前日の準備、当日に運営について提案、承認。
- (5) 同窓会創立120周年記念式典・祝賀会の開催日について提案があり、承認。
- (6) 大学への移転協力金の扱い、および同窓会120周年記念積立に関する会計処理の変更について、前回理事会で承認された事項の一部を変更する提案があり、承認。
- (7) 評議員会に提出する予算案は消費税5%で計算されており、その後26年4月から8%となることが決定したため、その対応について提案があり、承認。
- (8) 「現職同窓会議員国会議員を支える会（後援会）」の提案があり、継続審議。

第6回理事会

平成25年11月16日（土）午後2時

於 特別会議室

出席 33名

議長 矢崎会長

会長挨拶

早くも2年間が経過し、明日評議員会を迎える。この間に大学の水道橋移転があり、役員各位にはご苦勞をおかけした。また事務局もこれから引っ越しとなり、次のステップに進むことになる。大学移転に対する同窓会の寄付の協力は、役員各位の努力により、一定の効果が得られた。しかし目標にはまだ隔たりがあること、また大学に対してさらに協力が必要なことから、締め切りを延期しているので、地域支部を回られた折にはもう一度協力をお願いをしてほしい。

若手会員の支部離れが目立つことから、支部と連携して、若手会員対策を行ってきた。今後とも若手ネットワークの輪を広げていってもらいたい。少しずつでも成果が見えるようになってきているものと確信しているが、さらに大学とも連携して準会員の

うちに対策が施せるよう検討していきたい。人材育成を目的とした所謂アカデミア構想も是非推し進めていきたい。

120周年記念事業の準備も進められており、メインテーマは明日の評議員会の冒頭の挨拶でご披露する予定でいる。評議員会のご協力、よろしく願います。

黙 禱

愛媛県支部・中西憲正氏はじめ11名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

会務報告ならびに承認

- 1) 平成25年10月12日から平成25年12月21日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
 - (1) 総務・厚生部：①平成25年秋の叙勲受章者について4名報告。②逝去会員について、規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。③罹災報告が1件提出され、罹災共済金を支給する旨の報告。④厚生委員会報告。⑤ゴルフ大会委員会報告。⑥母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑦情報ネットワーク推進会議報告。⑧会務検討特別委員会報告。⑨同窓会・会務運営協議会報告。⑩東日本大震災対策部会報告。⑪会員管理システム検討委員会報告。⑫同窓会創立120周年記念事業準備委員会報告。⑬アカデミア構想準備委員会報告。⑭同窓会 HP 執行部あてご

意見箱への投稿について報告。⑮次期執行部への申し送り事項を取りまとめる旨の報告。

- (2) 会計部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について5件報告。②支部加入促進費の支出について1件報告。③東函祭のお祝い金支出について報告。④平成25年度10月末現在現況報告。
- (3) 渉外部：①渉外部委員会報告。
- (4) 広報部：①広報部委員会報告。②同窓会 HP アクセスレポート報告。
- (5) 事業推進部：①事業推進部全体委員会、企画会議報告。②学術委員会報告。③TDC 卒後研修セミナー2013報告。④TDC 卒後研修セミナー2014について説明、報告。⑤学術事業交流についての協議会報告。⑥保険委員会報告。⑦大学連携委員会報告。⑧シンクタンク委員会報告。⑨若手ネットワーク委員会報告。

以上の会務報告について、全て承認。

各地域選出理事報告

四国・久保田理事より愛媛県支部に係る同窓会報掲載記事に対する支部内の反応と、今後の事業について報告。

協議事項

- 1) 平成25年度評議員会、第119回定時総会、懇親会の運営について協議、承認。



東日本大震災対策部会

大山執行部で設置された東京歯科大学同窓会東日本大震災対策部会は矢崎執行部にも引き継がれ、その基本方針として

- 1) 被災県同窓、支部との情報交換
- 2) 同窓会報に情報掲載
- 3) 支援金

を打ち出してまいりました。

平成25年11月22日現在、東歯同窓会大震災支援金口への振込件数および振込金額は以下の通りです。

振込件数	344件
振込金額	18,103,927円

平成23年度には第1回支援を6～7月に総額950万円、第2回支援を10月に500万円、平成24年には第3回支援を3月に260万円、第4回支援を12月に80万円支援させていただきました。そして本年度におきましては10月に18万2,227円を福島県支部に支援することが出来ました。全国同窓からの熱い支援に対し心よりお礼申し上げます。

さて、平成25年度評議員会において、福島県支部佐藤正矢支部長よりお礼の言葉を頂きました。ここではその時のご挨拶を掲載させていただきます。

更に鈴木一雄先生(昭和48年卒)と佐藤 晶先生(平成10年卒)からいただいた二編を掲載させていただきます。



支援のお礼

福島県支部支部長 佐藤 正 矢
(昭和53年卒)

福島県支部 佐藤正矢です。
東日本大震災及び原発事故に対する福島県へのご支援に対し、お礼を述べさせていただきます。

現在までに同窓会本部より、7,232,247円のご送金を福島県支部にいただきました。

また、2名の会員へ、1,500,000円が直送されましたので合計8,732,247円の支援金を被災程度に応じて、会員へお渡ししております。

また、井出学長におかれましては、本校在学中の避難された会員

のご子息に対し、震災直後に学費免除を含み、手厚い保護をいただきましたことにも合わせて感謝申し上げます。

震災より、2年8カ月が経過しましたが、今なお、2名の会員が県外に避難されています。お2人のお住まいがある双葉郡大熊町は現在、月に2回の一時帰宅が許可されていますが、1回の帰宅時間は5時間と制限されています。

原発事故の責任を明確にしない東電に対して、また、これだけの大事故なのだから、高濃度の汚染

水が多少、太平洋に流出しても仕方がない等の東電や国の対応に対して私達、福島県民は憤りを感じております。

今後の震災など、大規模災害への対応に引き続きご尽力いただきますよう同窓会にお願い申し上げます。

全国の同窓会員の皆様方からの温かいご支援やお見舞いに対し、心より厚く厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



震災前と震災後のお話し

宮城県気仙沼市 鈴木 一雄
(昭和48年卒)

柿盗人

震災前の気仙沼では水産加工場で某国の研修生が研修しながら働いていました。そして私の自宅近くに水産加工場が借り上げたアパートがありました。

某国の若者が増えるに従って畑の被害が話題になり一晩で馬鈴薯が一畝消えていたとか田圃の畔道に置いていた物が消えたとかでした。我が家では春に竹林の筍被害が増えたのです。道路沿にあるのを盗られるのは気にしていなかったのですが今までと違う盗人はきれいに皮を剥いて中身だけ持って行くのです。それも堂々と中に入って広範囲に被害が及んでいたのです。

秋になると柿の実が被害に遭っていました。近所にも干柿用に分けていたので皆さん気にかけている日ご近所さんから電話がありました。「女性二人が柿の実を盗っている」とのこと。家内が見たところ二人組は柿の実をリュックとレジ袋に詰めていたそうです。

家内が「この柿の実是我が家の物なので盗ってはいけない」と話したところ、二人は「私達は記念写真を撮っていたのです」と一人が柿の木を指さし一人がカメラを出してはいポーズとやったそうです。

家内が「その袋の柿の実はどう

したの」と言ったら袋の分だけ竹藪の中に放り込んで逃げたとのこと。

帰宅した私が家内に「その二人組の女性はどんなだった」と聞いたところ「背がすらりと高い美人だ」とのこと。私が「俺だったら持って行っていいよと言ったな」と言ったら、家内が怒ること怒ること。私はとんだ被害者です。

震災後某国の人々はあっという間に帰国しその後畑その他の被害は全くなくなりました。

畑

震災後我が家の近所の畑に新築のアパートが立ちました。10世帯で駐車場内に10個の物置付きです。

約半年で完成し昨日から入居者を見かけるようになりました。そして昨年从我が家に入れ替わり立ち替わりアパート経営のセールスマンが来るようになりました。断っても断っても同じ会社の別のセールスマンが又来る始末。

内訳は相続対策のアパート経営を勧める会社が2社でめげることなくせっせと笑顔でやって来ます。

今年9月大手建設会社の社員が2人訪れました。我が家が宮城県に無償で貸した畑に仮設住宅を建てた会社でした。大手建設会社の訪問内容は仮設住宅が建っている



同窓会の高橋専務と高橋理事がお見舞いに来た時の写真です。
2011年8月25日撮影



今年9月から第18共徳丸は解体リサイクルされ10月にその姿を消しました。
2013年9月20日撮影

土地も含めた畑全体を売って欲しいということでした。

この話しには家内共々顔を見合わせて驚きました。話しを聞いたところ気仙沼市が建設会社に依頼した内容が「災害公営住宅を土地の買収から建設までを建設会社が行い」これを気仙沼市が買い上げるということでした。

売却はしないがどうしても、というなら賃貸を考えると返事をしました。しかし気仙沼市は土地の賃貸は認めない方針が堅くて無理とのこと。ちなみに仙台市は賃貸は良いとのことなのでこれは各自



秋空のもとたくさんの重機が動いています。
2013年9月27日撮影

治体の問題です。という訳でこの話しは無事（←これ本音）お断りしました。

仮設住宅の隣の畑は友人知人3人に無償で貸して皆さん様々な作物を作っています。その中のダイバー仲間は作った作物を隣の仮設住宅に配って喜ばれていました。ちなみに災害公営住宅も高台移転も後数年進まない為仮設住宅の借地1年延長が決まり宮城県は延期分から借地料を支払うそうです。

その後あそこなら地主さんが売られるかもしれないと私が紹介した土地に災害公営住宅が建つことになりました。

気仙沼市で民間委託の災害公営住宅を建てることになったのは大手2社だけです。

山のお話し



現在瓦礫は撤去され電信柱が立ち仮設道路が出来。
土地の高上げ工事が始まっています。
2013年10月18日撮影



東日本大震災の復旧で一番の問題は地盤沈下です。
気仙沼で約74センチの地盤沈下です。
ここでは満潮時冠水するので道路だけ仮の高上げをしています。
住宅の基礎はまだそのまま残っています。
遠方の建物は高上げ工事のため全部撤去される予定です。
2013年10月10日夕方撮影

家内の父は若いころ将来孫が生まれてその子の花嫁衣装になればと杉の生長に夢をもって岩手県の山を購入していました。勿論当時国策の「杉の木」を植えてしばらくは山の手入れをしていましたがその後安価な輸入木材に押され杉の木は出番を失い長い間放置されてきました。そして孫達は私を含め杉花粉症に悩まされることになったのです。

震災後家内に電話がありました。家内名義になった山の隣接地が「震災稲わらの保管場所になったので承知して欲しい」というものでした。



基礎を取らないと高上げは出来ません。
2013年10月31日撮影

震災後山の話題はつきません。家を流された人は高台移転の為の道路作りと切り土が出来る近隣の山を探しました。これには山の持ち主の協力が必要です。現在市内の高台ではあちこちで伐採が行われ大型の重機が入って宅地造成が普通に見られます。

ところで宅地造成地に貝塚が見つかるとう教育委員会がアルバイトを雇って小さなシャベルでこつこつと発掘作業が始まります。

と言うわけで大昔の人が住んでいた場所に今の人が住むのは難しくそうです。



ただいま高上げ中です。
2013年10月31日撮影



「二年半が過ぎて…」

宮城県気仙沼市唐桑町 佐藤 晶
(平成10年卒)

東日本大震災に際し、皆様に温かい御支援を賜りましたことを、この場をお借りして、深く心より感謝申し上げます。そして、犠牲になられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。被災された方々の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今日も電線の額縁から見上げる空には、飛行機雲の不自然さが空を濁していく。コンクリートの額縁に仕切られた大地では、雑草抜きの小さき花が名もなき微生物と共に、切り裂かれた原子の哀しみを黙々と受け止め続けている。

ここ被災地もあれから二年半が過ぎ、ようやく瓦礫も片付きわずかだが復興の気配を感じてはいるものの、長引く仮設住まい、百年単位の計が問われる防潮堤問題、進まぬ町づくり計画、加速する人口減少、風評被害等々あげたらき

りがないほど課題は多く、日々の暮らして精一杯の暗中模索が続く。

一方、権力者は被災地どころか国民をもよそに的外れな招致活動、特定秘密保護法案でお口にチャックの隙に、再稼働、TPP、NSC、改憲、戦争へとシナリオどおり事を運ぶ。

あの日私達は地獄絵図の中でおむすび一つと世界中の温かいお心で今日も生かされていると体中の細胞で理解したのに。

灯り一つない真っ暗闇で見たあの満天といつもと変わらぬ穏やかな波音は無力な私に無条件の赦しと生き方そのものを見つめ直せと問うたのに。

月日が経ち元の生活に戻るにつれ、下座を忘れ、分かったつもりになっていただけだったと益々、己の無知、無力を思い知る日々だ。このやるせない想いのひとつ



太古より変わらぬ風景

ひとつを何とかしてあやしてやりながら、またもう一步踏み出そう。

量子論の仮説「人間一人一人の意識、行動が宇宙全体に、瞬間瞬間関わりあっている」を信じて。

追記：震災後、地元有志でNPO法人を立ち上げ子供たちの未来が明るくなるよう活動しています。ホームページをご覧くださいましたら幸いです。

NPO法人 あすわ(ASWA)
<http://aswa-as-world.jimdo.com/>



震災当日の近所



2年半後の同じ場所

保 険

東京歯科大学同窓会全国社会保険指導者懇談会



同窓会全国社会保険指導者懇談会は、厚生労働省・日本歯科医師会共催の社会保険指導者研修会終了後に毎年開催されているが、今年も平成25年9月27日(金)に東京・一ツ橋の如水会館において開催された。前日まで心配された台風も通過し清々しい秋晴れの下、全国各地で社会保険指導に活躍する62名の同窓会員が出席した。

蛭谷剛文事業推進部常任理事の開会の辞に続いて、矢崎秀昭同窓会会長が挨拶され、若手同窓の歯科医師会未入会や同窓会費未払い対策にも保険請求の指導が役立つとお言葉をいただいた。続いて富山雅史日本歯科医師会常務理事にご挨拶いただいた。

続いて、関川嘉昭事業推進部保険委員会委員長を座長に、社会保険診療報酬支払基金北海道支部・副審査委員長の内田智幸先生（S



44卒)を講師にお招きし、「保険診療と審査について」と題してご講演をいただいた。審査における公平性、中立性の重要性と3者構成のもつ意味について、支払基金における支部間差異に対する取り組みと社保・国保間での審査取扱いの違いへの対応について、算定日情報を中心とした電子レセプトと紙レセプトでの差異など、いま審査の現場でなにご問題となっているかを分かり易く説明していただいた。

引き続き行われた懇親会では、相庭常人事業推進部保険委員会委員の司会により、最初に井出吉信学長にご挨拶をいただき、9月よ



り水道橋校舎での学生教育が本稼働状態となった旨ご報告いただいた。続いて中島信也日本歯科医師会常務理事にご挨拶をいただき、黒須 誠東京歯科大学臨床教授のご発声で乾杯の後、懇親会が開会された。

懇談会の熱気は懇親会でも続いており、和やかな雰囲気の中にも保険診療のあり方や審査のあり方について活発な意見交換がなされていた。

浮地文夫同窓会副会長の閉会の辞によって、懇親会は盛会のうちに終了となった。

(事業推進部保険委員会委員
南保秀行)



TDC 卒後研修セミナー2014のご案内

TDC 卒後研修セミナー2014

臨床で身につけておきたい「知識」・「技術」・「観点」



TDC 卒後研修セミナー2014のプログラムが決まりましたのでお知らせいたします。

2014の卒後研修セミナーは臨床で身につけておきたい「知識」・「技術」・「観点」をメインテーマとしました。

歯科医療に対する社会的な注目は、良きにつけ悪きにつけ増してきております。そのような中、私たちの取り組む歯科臨床においては「知識」「技術」「観点」という3つの要素があると考えてみました。

「知識」と「技術」は歯科医療を施すうえで必要不可欠であります。しかし、「知識」「技術」とは別の視点に立った、ものの見方、感じ方、考え方といった「観点」も医療には大切なことです。それらが、それぞれ充実していくことで、患者さんと信頼関係を得て、QOLを高めていくことができるのではないのでしょうか。TDC 卒後研修セミナー2014では、これら



3つの要素をしっかりとお伝えしていきたいと思っております。

最初のセミナーは、4月20日(日)に開催されます「極めよう!! 外科小手術と顎顔面の解剖学」です。日々の診療で、ちょっとした外科処置に不安や悩みのある先生方もいらっしゃると思います。本セミナーは、そのような先生方を対象に口腔外科の臨床と解剖学をリンクさせ、外科小手術を基本からブラッシュアップしていただくために企画しました。外科小手術と、その部位の実際の解剖標本をリンクさせることで、より理解を深めることができる画期的なセミナーです。

5月18日(日)にはベーシックセミナー「初診時に求められる診

査・診断のスキル」～X線写真から始まる歯科診療のベーシック～を開催いたします。スモールグループディスカッションを通して、個の多様性、診査診断、経過観察の重要性、生涯研修に対する取り組み方などについて、自分から考えを述べ、他の人の意見を聞くことで新たな気づきを得るという形で、今年のテーマの中でも特に「観点」を研いいただく参加型のセミナーです。また、日常の診査に必要な“良いX線写真”について十分に理解し、治療頻度が高く画像診断との関連が深い歯内療法についての講演もあり、明日からの臨床ですぐに活かせるセミナーです。主に、卒後5年以内の若い先生方を対象として

企画しました。

6月22日(日)の「診療の基本技術」～日常臨床のHow to～、9月21日(日)に開催される「困った…! 義歯の悩み解消します」～あんなこと, こんなこと…実際の症例を通して考えていきましょう～, この二つのセミナーでは, 日常臨床で遭遇するさまざまな治療上のポイントについて, 具体的な解決法や手技などを学びます。毎日の私たちの臨床における対応力を高め, 治療のバリエーションが広がる内容のセミナーです。

7月27日(日)の「どうして定期健診を受診してくれないの?」～行動科学を知ろう～は, コ・デントタルスタッフの方々とご一緒にぜひとも受講していただきたいセミナーです。「なぜブラッシングが定着しないのか」, 「なぜ定期健診に応じしてくれないのか」という疑問を「患者さんが口への関心が低いから仕方がない」と, 原因を患者さんの責任にしてあきらめがちです。そんな日々の臨床でみなさんが感じていることを, 行動科学という視点でひもといていきます。

10月12日(日)「MTM新時代」～歯科矯正用アンカースクリューの有効性を検証する～では, 近年一般臨床家からの注目の高まっている歯科矯正用アンカースク



リューに対し, 従来のMTMと比較してどの様なメリットがあり, どの様な難しさ, 危険性があるのか, その有効性を検証いたします。口腔外科・矯正科連携診療を通して, 多くの症例を手掛けていらっしゃる第一線の講師から, 歯科矯正用アンカースクリューの極意にふれていただきます。これを機会にMTMの基本から日常臨床において, 安全かつ有効に利用するための知識と技術を修得してください。

また今年度は, 特別企画としてインプラントセミナーを4日間コースで開催いたします。このセミナーでは「Evidence-Based-Clinical Practice for Implant (科学的根拠をもったインプラント臨床を実践するために)」と銘打ち, 「臨床から基礎へ, 基礎から臨床へ」というアプローチから, 今までのインプラントセミナーとは全く違う, 討論形式主体のセミナーを開催します。臨床家からの疑問を基礎研究者にぶつけることにより, エビデンスの存在する臨床術式とそうでないものを区別できるような内容です。また, 基礎研究者から臨床家に対しては, 基礎科学から考える臨床の矛盾点を指摘していただきます。まさに, 「臨床 V.S 基礎」の大討論会を企画いたしました。日程は6月28日

(土)29日(日), 7月26日(土)27日(日)です。毎回テーマを限定し, 臨床家と基礎研究者, それぞれ第一人者による討論をお送りいたします。基本的には4日間コースとして受講されることが効果的ですが, 単発受講も可能なセミナー構成になっております。各回の内容については, 注目される最新のテーマを選んでいきますので, 今後の同窓会報並びに同窓会HPなどのご案内をご注目ください。東京歯科大学が誇るインプラント関連のスペシャリストによる討論, 今から非常に楽しみなセミナーです。

以上, 2014年も様々なセミナーを通して日々の臨床対応力の向上につながる, 「知識」と「技術」のレベルアップを図り, 「観点」を研いいただく内容となっております。

「水道橋回帰元年」である今年は, 大学の全面協力を得て新しい施設を活用し, さらに充実したセミナーを企画いたしました。みなさまの今後の歯科臨床のお役に立てれば幸いです。本同窓会報に同封のプログラムをご覧になり, ぜひとも東京歯科大学の息吹にふれる水道橋にいらして下さい。委員一同心よりお待ちしております。

(TDC 卒後研修セミナー2014
プログラム委員長 山本雅通)



卒研レポート2013

実習セミナー

「ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析」

第3日目

平成25年9月19日(日), TDC 卒後研修セミナー2013「ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析」全3回シリーズの第3回目がTDCビル13階で開催された。

午前中は立木千恵講師による「分析から症例をどのように捉えるか」の講演の後、前回に引き続き、立木講師と西井講師の説明のもと、症例3「叢生」のケースに対してセファロトレーシング実習を行った。

実習時間も十分用意されていたため、受講生達はじっくりと実習を行っていた。



その後、安村敏彦講師による「分析ソフトについて」の講演にて、代表的な診断ソフト「Quick Ceph」の解説がされた。このソフトは、東京歯科大学水道橋病院の矯正科で使用されているソフトでもあり、取り込んだセファロ、顔貌の写真からPC上のポイントをプロットしていくと、分析までを自動で行ってくれるもの。また、術後の予想される顔貌も写真で示すことが可能である。

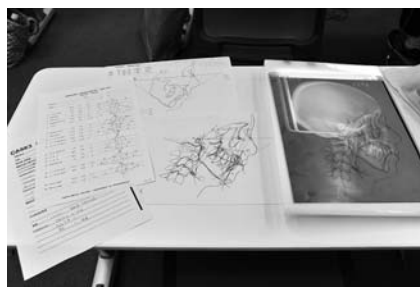


昼食後、西井 康講師による「分析から診断へ」の中では、午前中にセファロ分析をしたものを元に診断、つまり上下顎骨格関係 (Skeletal Pattern)、上下歯列関係 (Denture Pattern)、基準平面 (FH Plane)、SN基準から行っていく。セファロ分析とは、複雑な骨格の要素を分析により単純化していくことであり、顎顔面の形態分析、成長評価、治療計画立案、治療経過、治療結果の評価に広く用いられ、規格写真をもとに定量的な計測をしたもので、個体間比較および個体内比較を行うことができる。



セファロ分析の流れは、頭部X線規格写真によるデータ採得、トレースによるデータ抽出、セファロによるデータ分析、ポリゴン表によってそれらを視覚化していく。そしてプロブレムリストから診断、治療へと繋がっていく。

次に、午前中のセファロ分析からセファロメトリックディスクレパンシーの計測を実習し、今回の症例3「叢生」について Tweed



分析により、抜歯か非抜歯かを判定した。



最後に末石研二教授による「分析、診断、治療、まとめ」の講演をいただき、先の3つの症例についてのセファロ分析と、診断に基づき治療し、治療の流れを知る上で有意義であった。セファロで治療前と治療後を重ねることで、その結果をわかりやすい解説により締めくくられた。



この度のセミナーにおいても、東京歯科大学矯正学教室の全面的な協力を得ての研修は、マンツーマンに近く受講生に対する懇切丁寧な指導もあり、明日からの臨床を行うにあたり内容のとても充実した1日となった。

(取材・広報部 山口雅史)



臨床セミナー

「歯科疾患!! どこから手をつける?」

～病態の理解とタイプ別臨床診断／治療計画～



演題は「歯科疾患!! どこから手をつける?」～病態の理解とタイプ別臨床診断／治療計画～、にて行われた。

講師は鈴木 尚先生でした。先生は1967年に日本大学歯学部を卒業され現在日本橋小伝馬町にて、ナオ歯科クリニックを開業され、若い先生の育成にも力を注がれています。

講演は朝10時から4時まで以下の表題に分け順序立てて行われた。

- 1：企画主旨
- 2：全ては主訴から展開
- 3：疾患を見て，病態を見る
- 4：病態から多様性を理解する
- 5：疾患のタイプ別を理解する
- 6：病態を理解する

講演の主旨は，どの様な単純な疾患でもその背景を理解することが重要で，主訴を聞き単純な「病名診断」が習慣化している。

たとえば食べ物が詰まるという

主訴に対して，隣接面カリエスを見つけインレーを入れて治療する。私たちが日常行っている治療です。

しかし，この単純に思われる疾患にも落とし穴があると先生は説明された。

なぜカリエスになってしまったのか症例を読み解き，適切な治療にどのように導くかを，順を追って説明して頂いた。

虫歯はただの状態にしか過ぎない，病態の理解が重要でなぜそこにカリエスがあるのか，疾患に関連して起こる変化（現症）を観察することにより原因の解明をする診断法を解説いただいた。

先生は，ただ漠然と治療するだけではなくタイプ別に考え対応していく事を推奨されていた。



その3タイプは

- ① カリエスタイプ
 - ② ペリオタイプ
 - ③ パワータイプ
- であった。

口腔内を十分に観察し問診も含め多くの情報を収集する，疾患の病態がどの様に成り立っているかを理解することが正しい診断につながるかと熱く語られた。

最後に実際の症例でどの様に病態を解析してどのように診断し，治療を進めて完治させるかを解説し講演を締めくくった。

講演の終了後に修了書が代表で秋田から出席された平成元年卒の金内洋光先生に渡され，先生から「明日からの臨床に役立てたい」とのお言葉を頂いた。



セミナーにたびたび参加させていただいているが，いつもセミナーの完成度には驚かされる，今回の演題は基本を見つめ直すものであったが若手，ベテランを問わず参考になる講演であった。

(2013年10月13日)

(取材・広報部 西村哲雄)

母校だより

「台北医科大学における Elective Study」

引率・阿部伸一（解剖学講座・教授）

山本 仁（口腔超微構造学講座・教授）

第1学年から第3学年までの Elective Study は一昨年、昨年と同様に台北医科大学および2つの病院を含む施設を中心に行われた。前年度の学業成績が上位35名の中の希望者から「平成25年度 Elective Study 選考委員会」で選考された学生12名（昨年までは各学年2名ずつだったが、今年から各学年4名に増員された）と引率2名を加えた総勢14名での研修となった。参加学生は出発前に数回ミーティングを行い、団長として第3学年の倉澤 馨君、副団長として第3学年の小池将人君を選出した。また台湾の文化、歴史や風習などを調べるとともに、Elective Study の GIO や SBO を設定し、各自が Elective Study の目的を明確にした。

羽田空港を夕刻に発ったため台北松山空港に到着したのが午後9時を過ぎていたが、空港で鄭 信忠歯学部長、張 維仁先生および台北医科大学の学生6名の出迎えを受けた（写真1、2）。空港からは台北医科大学の学生がエスコートする形で本学の学生をタクシーに乗せてホテルに向かい、ホテルのロビーで短い時間であるが、自己紹介をして別れた。その後遅い時間であったが、これまでの Elective Study にもご尽力いただいている林 哲堂先生主催の夕食会が催され、長旅の疲れを忘れて本 Elective Study で初めての台湾料理に舌鼓を打った（写真3）。翌朝、台北医科大学の学生とホテルロビーで待ち合わせ、台北医科大学校舎へと向かった。昨年

までは現地の公共交通機関（バス、地下鉄など）を利用していたが、本年は参加人数が増えたことからバスをチャーターし、移動手段とした。台北医科大学では昨日空港までお迎え頂いた鄭先生、張先生の他、これまでの Elective Study でお世話になっている蔡 恒恵口腔医学院副病院長が出席して歓迎会が開かれた。学生たちはそれぞれ自己紹介や記念品の交換を行い本格的な学生交流が始まった（写真4）。団長の倉澤君は2回目の Elective Study であり、また台北医科大学の学生にも2回目の参加となる学生がいたことから例年に比べ学生間の交流がスムーズに開始された印象を受けた。学内見学ではマネキンが設置された実習室などを見学したが、参加学生が第1-3学年であり、まだ臨床科目の授業をほとんど受けていないのでマネキンの並ぶ実習室にかなり強烈な印象を受けたようだった。大学見学後、故宮博物館で悠久の歴史の遺産に触れたのち、烈忠祠で衛兵交代式を見学した。夜には鄭先生主催の夕食会が開かれ、台湾料理を満喫するとともに、日台双方の学生・教員の親睦が深まった（写真5）。3日目は雙和醫院（Shuang Ho Hospital）で台湾における歯科医療の状況や台北における雙和醫院の役割などの講義を受けた。講義の一部は一昨年台北医科大学が本学学生を最初に受け入れてくれた時に参加した学生が担当した（写真6）。翌朝には台南に向かうことから、台北医科大学のほとんどの学生との交流がこの日で最後になり、学生たちは各学年でグループに分かれて夜市を散策し、台北での最後の夜を楽しんだ。この時も昨年本学学生を迎え



写真1 行ってきます



写真2 松山空港でお出迎えを受けました

てくれた台北医科大学の学生が飛び入りで参加し、今年で3年目を迎える台湾の Elective Studyでの学生交流が着々と身を結んでいる印象を受けた。4日目、台北最後の朝、台北医科大学の学生と本学学生は台北駅へと向かった。松山空港で出迎えを受けたのがほんの数日前とは思えないほど学生たちは親密になり、別れを惜しみ、再会を約束していた。張先生、台北医科大学の学生1名と我々は新幹線に乗り、台南に向かった。台南での訪問先は奇美醫院 (Chi Mei Medical Hospital) である。我々が病院に到着すると邱仲慶病院長を始めとした奇美醫院の教授が参加して歓迎会が行われた。歓迎会は単なるセレモニーではなく、本学学生からの質問に答える形で奇美醫院と奇美醫院が台南地方で果たす役割

や意義について説明が行われ、学生が理解しやすいように配慮していただいた (写真7)。また我々の訪問に合わせて顔 欽培口腔外科主任の手術が行われ、学生たちは手術室に入りこれまでの見学とはまた別の意味で緊張して手術見学を行った。手術後の昼食時にも顔主任が同席され、先ほどの手術について図を書きながら説明をしてくださり、学生からの質問にも丁寧に対応していただいた。夜には邱病院長を始めとする奇美醫院の先生方により食事会が開かれた。先生方は学生たちと気さくに談笑し、台北医科大学の学生たちとの交流とは別の良い交流ができたと思う。5日目の早朝、ホテルから高雄空港に向かい帰路についた。

引率して感じたのは、一昨年、昨年の Elective Study により台北医科大学と本学の友好が台湾の地で確実に育まれている事であった。特に一昨年、昨年に我々を迎えてくれた学生がいろいろな形で参加してくれたこと、台北医科大学、雙和醫院、奇美醫院のいずれでも大変な歓迎を受け、学生たちのために新しい企画を考えてくださっていることがなによりそれを証明していると思う。台北医科大学、雙和醫院、奇美醫院の先生方、学生たち、関係された皆様、特に Elective Study の期間をずっとご一緒してくださった張 維仁先生に感謝を申し上げます。



写真3 林 哲堂先生との夕食会



写真4 台北医科大学口腔医学院前で



写真5 鄭先生と盛り上がった夕食会



写真6 一昨年の参加学生が説明をしてくれました



写真7 奇美醫院での歓迎会後の記念写真

「コロンビア大学における Elective Study」

引率・阿部伸一（解剖学講座・教授）

第4～6学年の各2名，合計6名に対する Elective Study が2013年8月18～8月23日の日程で開催された。このプログラムは同窓会からも援助を受け，昨年とは場所を変え，ニューヨークにおいて主にコロンビア大学において開催された。

教務部主催という形で，国際交流部が立案およびコーディネートをした「Elective Study」プログラムの目的は，海外の大学での施設見学，特にUSAと日本の歯科医学教育の違いを学ぶために行うもので，東京歯科大学では一昨年，昨年に引き続き3回目の試みであった。参加メンバーに関しては，各学年前年度の成績が上位35名に参加資格が与えられ，希望する学生が集められた。希望者に対し昨年までのテキサス大学，アルバータ大学における研修の様子をスライドで説明し，昨年度参加学生の感想をま

とめた冊子などを閲覧させた。コロンビア大学側でも東京歯科大学の学生の研修を補佐してくれるレジデントによって準備が進められた。出発前に東京歯科大学側の学生6名を集め話し合いの場を設けた。ここではチームワークの構築と，リーダーを選出し目標を定め，目標達成のためのいくつかの行動目標を作り上げた。さらには英語による自己紹介の練習など，渡米までに行うべき事項についても確認させた。

研修先としてはコロンビア大学付属の歯科病院を設定していただいた。初日にニューヨーク市内の会議室で，約3時間程度のレクチャーを歯周・補綴科のレジデントに行っていた。ここでは事前に依頼していた「コロンビア大学およびアメリカの他大学における歯科医学教育，卒業教育制度，専門医獲得のためのコースとその条件」などについての講義内容であった。特に海外からのアメリカで専門医

という資格を獲得したい歯科医師の受け入れ態勢も整っており、東京歯科大学の学生達は特に興味を示していた。病院見学では、多くの歯科学生が臨床実習を行う様子を見学でき、また気軽に声をかけてくる友好的な態度にも感動していたようであった（写真1）。特に歯学部学生が担当する患者を指導医の指導を受けながら、学生が直接診療していることに驚いていた。その診療内容もレベルが高く、例えば写真2は前歯部にインプラント治療を行うため、骨増生の手術をしている4年生の診療風景である。

見学の合間のランチタイムには、Ronnie Myers 学部長と学部長室でランチ会議を開催していただいた。東京歯科の学生からの質問に対し Ronnie Myers 学部長は、親切にわかりやすく多くのことを解説していただいた（写真3）。さらには今回の研修を事前に快く引き受けていただき、様々な便宜を図っていただいた Geri 副学長も学生達に会いに来てくれ、色々な話をしていただいた（写真4）。

コロンビア大学は、全米で5番目に古いアイビー・リーグの一角である。世界的な研究大学で、ノーベル賞受賞者を98名輩出したことでも知られている。オバマ大統領が卒業生であることも有名な話である。メインキャンパスは荘厳で、東京歯科大学の参加学生達は東の間のアイビー・リーグの風を満

喫しているようであった（写真5）。ニューヨークの歯学部では、ニューヨーク大学歯学部が一学年300名を超える最も学生数の多い大学であり、臨床研究、専門医制度などでもレベルが高いことで知られる。コロンビア大学歯学部も実績のある有名教授がニューヨーク大学から移籍した事情などもあり、専門医制度がさらに充実し、世界から優秀な学生が集まってくるようになってきたとの事であった。

参加学生は、アメリカにおける歯科臨床体系の概要、歯科医学教育などについて習得でき、歯学部学生として積極的に海外の歯科事情へも目を向けるグローバルでアカデミックな意識を獲得できたのではないかと考えている。この場を借りて東京歯科大学同窓会のサポートに感謝の意を表したい。



写真1 診療室で談笑するコロンビア大学の学生と東京歯科の学生達



写真2 コロンビア大学の学生の診療風景

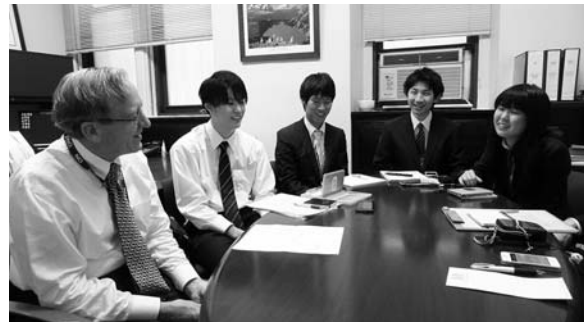


写真3 Ronnie Myers 学部長とのランチ会議の様子



写真4 今回の研修で様々な便宜を図っていただいた Geri 副学長と記念撮影



写真5 コロンビア大学のメインキャンパスでアイビー・リーグの風を満喫する学生達

第45回東歯祭「フェスティバル2013」、第45回歯学体成績報告会

今年度の東歯祭は9月に水道橋へキャンパス移転した直後で、準備期間が不十分ということもあり、中止することも見据えていたが、開催を切望する学生達の思いが通じ、平成25年10月26日（土）に、例年より規模を縮小した「フェスティバル2013」と銘打って4年生の杉浦貴則実行委員長を中心に少数精鋭のスタッフの頑張りで開催が実現された。

当日は台風27号の上陸で開催が危ぶまれたが、学生たちの熱意が天に伝わったかの如く、大した影響もなく無事にスタートされた。

催物は真新しい水道橋校舎新館の血脇記念ホールにおいてMLS部、管弦楽部、Big Band Jazz部、

ダンス部のライブ並びに演劇部による公演が実演され、観客を魅了した。また、展示部門は同館7階において美術部、写真部、コンピュータ部、国際医療研究会が日頃の活動実績や成果を、歯科学生交流会から「延世大学校歯科大学との学生交流」のポスターが出展され、熱心に来訪者へ説明していた。なお、今年は準備不足のため、各講座・研究室等への展示出展依頼を断念していたが、生理学講座が特別に協力参加してくださりポスターを出展くださった。

また、移転のため開催を延期していた歯学体成績報告会も東歯祭後夜祭と併催する形で実施され、文化系、運動系すべての部が一堂

に介し、全国29歯科大学・歯学部の中から総合第3位という栄誉ある成績を祝った。

井出吉信学長から「本学は教員も職員も一体となって学生をサポートしている。学生諸君もそれに応える形で好成績を収めたことは非常に悦ばしい。東歯祭の方も台風をも吹き飛ばし、素晴らしい発表を見る事が出来た。」と評価をいただいた。

また、歯学体で入賞したクラブに対し、学長賞、父兄会長賞、同窓会長賞が、東歯祭に協力したクラブにも参加賞が授与され、今年度を例年とは違う形で盛会裏に祝宴が実施された。



支部のうごき

東京地域支部連合会

平成25年度城北支部役員連絡協議会開催のご報告

平成25年9月28日午後6時半よりホテルベルクラシック大塚14F「オーブ」にて平成25年度東京歯科大学同窓会東京地域支部連合会城北支部役員連絡協議会を豊島支部主管にて開催いたしました。

城北支部は荒川（会員数15名）、板橋（37名）、北（21名）、滝野川（10名）、豊島（33名）、練馬（47名）からなっており、今回は10名の来賓の先生と42名の会員の先生の計52名の先生方にご出席いただきました。

当日は来賓として井出吉信学長、矢島安朝水道橋病院病院長、浮地文夫東京地域支部連合会会

長、山口雅庸先生（東京都健康長寿医療センター）、市川雄二先生（東京都保健医療公社豊島病院）、市ノ川義美先生、花上伸明先生、田邊陽子先生（帝京大学医学部附属病院）、茂木伸夫先生（都立駒込病院）、伊藤亜希先生（都立大塚病院）の先生方にご出席いただき、あわせてお話をいただきました。

井出学長の「キャンパス水道橋移転と東京歯科大学の近未来への展望」と題したお話をはじめとして、来賓の先生方の楽しいお話で時の経つのも忘れ、若干盛りすぎてしまった感もあり、小林俊雄先生の乾杯の後の会食が時間に押されて、落ち着きのないものになってしまった点、司会者としてお詫



び申し上げます。しかしながらご参加いただいた皆様のおかげで素晴らしい会になりました。

豊島支部一同は寺田支部長を中心に今後とも東京歯科大学、同窓会、地域医療の発展に力を注いでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（大多和昌彦 記）



写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。

東海地域支部連合会



平成25年度東海地域支部連合会 総会

平成25年9月29日(日)午後1時半より名鉄グランドホテルにて平成25年度東海地域支部連合会総会・記念講演及び懇親会が開催されました。今年の夏は猛暑が続きました。今年の夏は猛暑が続きました、この日もたいへん暑かったです。すが好天にも恵まれ、愛知・静岡・三重・岐阜の会員総勢79名が集まり盛大に開かれました。

ご来賓として、大学から井出吉信学長、同窓会本部から矢崎秀昭会長、財部正治常任理事、太田昭二地域選出理事、懇親会より愛知県歯科医師会会長の渡邊正臣先生、記念講演講師として愛知県弁護士会会長の安井信久先生をお迎えしました。

総会は、愛知県支部専務理事の橋本雅範先生の司会進行のもと、東海地域支部連合会長の成瀬健先生の挨拶に始まり、物故会員への黙祷を捧げたあと、来賓の井出吉信学長、矢崎秀昭同窓会長にご



挨拶をいただき、日々変革している大学及び同窓会の現状をわかりやすく説明していただきました。

そのあと昭和34年卒牧野健司先生を議長に選出し、財部正治同窓会常任理事より同窓会本部報告、日比浩樹愛知県支部常任理事より会務報告、原崎充弘静岡県支部会計担当理事より前年度決算報告があり、次年度からの支部拠出金の増額など議事すべてが承認され、最後に次期開催県を岐阜県に決定し、岐阜県支部長の西尾有生先生よりご挨拶をいただき総会は滞りなく終了いたしました。

続いての記念講演は、愛知県弁護士会会長の安井信久先生に「憲法改正を問う」と題して講演をして頂きました。安井先生は成瀬連

合会長の高校時代からの親友で、巷間話題になっている憲法96条、憲法9条の改正を「人権」を切り口として興味深く大変勉強になるお話をしていただきました。

懇親会では、愛知県歯科医師会会長の渡邊正臣先生をお迎えし、ご挨拶いただいたあと、現在もオーケストラで活躍されている鈴木祥夫愛知県支部常任理事の紹介による女性サクソフォン奏者からなるOrange Saxophone Quartetの生演奏を優雅に楽しみながら和やかに有意義な時間を過ごすことができました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、名残惜しい雰囲気。来年の再会を約束し散会いたしました。(竹内英樹 記)



北陸地域支部連合会

平成25年度学術講演会・総会開催報告

去る平成25年9月21日、石川県金沢市のANAクラウンホテル金沢に於きまして、「平成25年度東京歯科大学同窓会北陸地域支部連合会学術講演会・総会」が開催されました。今年度は東京歯科大学同窓会石川県支部の主幹で行われ、福井県支部、富山県支部、石川県支部から合計37名のご出席を頂きました。

総会に先立ち開催されました学術講演会では、東京歯科大学副学長で歯科麻酔学講座主任教授の一戸達也先生をお招きし「事例に基づく全身偶発症の対応トレーニング」との演題でご講演いただきました。

最近問題となっている「アナフィラキシー・ショック」など、歯科の診療中に起こる様々な全身偶発症の見分け方や対応についての最新の情報や、大学の現場で教

育されている最新の知識を問題形式で解説され、専門的で難しい内容も非常にわかり易くうかがうことができました。会員の皆様も日々の診療にも有用な内容の数々に熱心に耳を傾けておられました。

総会は、高井勇学石川県副支部長の開会宣言で始まり、加藤成俊石川県支部長が昨今の北陸地域の状況やこれまでの活動の報告、今後の見通しなどについて挨拶いたしました。そしてご来賓の矢崎秀昭同窓会会長のご挨拶では、東京歯科大学同窓会の結束を再確認すると同時に同窓の絆を新たに感じることができました。その後、寺田仁志同窓会常任理事からの会務報告を経て、東京歯科大学学長代理としてご来賓の一戸達也副学長より、ご挨拶と大学の近況報告を賜りました。本校を取り巻く状況や学生の様子、教育システム、設備に至るまで、スライドを用い

て詳しいご説明を受けましたが、時代や学舎が変わっても、そこに映し出された学生の顔には我々の時と何ら変わりのない希望に満ちた表情があり、我々同窓会員も愛校の思いを新たに致しました。

協議事項では、北陸地域支部連合会の次期会長及び次期地域担当理事に伊藤 透福井県支部長が承認されました。温かく、力強い言葉で挨拶を述べられ、我々の士気が大いに高められたところで閉会の運びとなりました。

様々な世代の会員の皆様にご参集いただいた本会でしたが、我々にとって、北原白秋先生の遺された「醫はこれ濟生ひとへに仁なり」という詞は、世代を超えた共通の価値観であるのだと確信致しました。この尊い思いを次の世代に引き継いでいかなければいけないと強く自覚致しました。(石川県支部会員 角 大輔 記)



神奈川県支部連合同窓会

10月6日（日）に、本年度の会員家族レクリエーションが行われた。今回は、夏の参議院選挙で神奈川県選挙区から出馬し、見事トップ当選された本会副会長・島村 大先生（昭和60年卒）の新しい仕事場を見に行こう！と題して、国会ツアーを企画した。

前日までの雨もどうにか上がり、やや蒸し暑い曇り空の中、35名の参加者を乗せたバスは川崎、横浜を經由して10時過ぎには国会議事堂付近に到着した。参議院会館向かいの議員面会所で、警備員の指示に従い行儀良く2列に整列しツアーの出発を待っているところに島村議員が駆けつけて合流し、ツアースタート！日曜日の国会見学は、議員の紹介が必要なことと、国会閉会中の第1第3日曜日に限られているので日程には注意が必要だが、普段は秘書でも立

ち入れない参議院本会議場に入ることができるという特別な配慮がある。係の衛視さんの誘導で秘密の通路を通り、まずは議場へ。

（残念ながら国会内は撮影禁止のため、この先は想像しながらお読みください。）

赤い絨毯は思ったほど深くなく歩きやすい。しばらく進むと重厚な扉の向こうに、国会中継でおなじみの議場が広がっていた。警備員さんが気を利かせて、「島村議員の席はこちらです」と名札を指さして教えてくれるおもてなしぶり。議長席から見て右中段付近の良い位置であることを皆で確認した。「場所は覚えました！寝ていたら分かりますよ〜」の声あり。議員席の座り心地をこっそり確認する者より「眠たくなる気持ちも分かる」とコメントあり。座り心地はよさそう。



つづいて上の傍聴席から議場全体の説明で、参議院のいろいろな特色を勉強した。最も特徴的なのは、天皇陛下の御席があるのが参議院。もう中継見ただけでどちらの議場かすぐ判る。国会通になった気分で議場を後にした。さらに、御休所（天皇陛下の休憩所）、中央広間といったゴージャスな場所を見学し前庭へ進む。全国の47都道府県から送られた木々でできた林を通して、議事堂正面で集合写真を撮影し見学終了！ほぼ1時間半弱だが内容の濃いツアーであった。

その後、正門前で待ち構えるバスに乗り込み、新橋・新橋亭へ移動して懇親会を開始した。行きのバスでは国会見学ということもあり、アルコールを自粛していたのでまずは乾杯！選挙前の緊迫感溢れる表情とは打って変わり、穏やかで明るくやる気に満ちた島村 大先生を激励する楽しい会となった。

食後は、東京タワーへと移動し展望台から国会議事堂を探して、島村議員のこれからの活躍を祈念した次第である。その後バスは、横浜を經由し、川崎で解散した。

（川越元久 記）



千葉県支部

千葉市水葉会

9月29日、千葉市同窓会：水葉会の定例会は、日本歯科大学千葉市同窓会との共催で開催されました。水葉会では、昨年より他校との親睦の意味から研修会の共同開催を実施しており、今回は日本歯科大学との2度目の共同開催でした。法花堂会長から、歯科界のために、今後もこのような共催を続



けていきたいとお話の後、日本歯科大学附属病院心療歯科診療センターの大津光寛先生をお招きし「歯科領域にみられる精神疾患と対処方法」の講演会を開催しました。

顎関節症を疑ったメンタルケアが必要な症例、うつ病で、死にたいと診療室で訴える患者さんの症例、口の中から糸が出てくる、口の中で風船が膨らんでいる…と訴える統合失調症の患者さんなど、様々な症例の提示とその対応の注意点などとても興味深いお話を聞くことが出来ました。

大学の枠を超え他大学の先生のお話を身近に聞き、臨床に対する色々な意見を聞くことが出来て、



日本歯科大学 大津光寛先生

臨床的にも、交友にとっても、とても良い企画なので、是非ずっと続けてほしい…というご意見が多く寄せられ、11月には、合同のゴルフコンペも企画しています。水歯会では今後もまた、様々な企画を開催したいと考えています。

(佐々木葉子 記)



掲示板

*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日時	演題及び講師 又は事業内容	会場	主催 連絡先	外部より 参加可否
総会 学術講演会 平成26年 3月2日(日) 午後2時30分～ 5時	最近のテクノロジーを応用した歯冠 補綴修復治療(仮題) 佐藤 亨教授 (東歯大 クラウンブリッジ補綴学講座)	ホテルポストンプラザ草津 びわ湖 滋賀県草津市草津駅西口 ポストンスクエア内 TEL 077-561-3311	滋賀県支部 連絡先 担当・尾松素樹 尾松歯科医院 TEL・FAX 077-522-3210	同窓会員お よびそのス タッフ、関 係者

横浜鶴見支部

敬老の日の連休を利用して、7名参加のもと湯河原方面に出掛けた。本年めでたく傘寿を迎えた香山欣哉先生のお祝い会を兼ねた会員旅行である。

川崎駅から特急で真鶴へ。海鮮料理「うに清」で昼食。「真鶴出身の先生から差し入れです」と絢爛豪華な「船盛り」が運ばれる。神奈川西湘支部の山田 貢先生（昭和34年卒）が「私の出身地、真鶴に来てくれるなんて嬉しい。大いに盛り上がってください」とのコメント付き。粋な計らいとお心遣いに一同大感動。まさに「鯛や平目が舞い踊る」気持ちで鮮度抜群の「鯛の活き造り」に濃厚な甘みの「生うに」脂の乗った「鰻のたたき」コリコリ感がたまらない「あわび」「生きざえ」に舌鼓を打った。メは熱々の鯛茶づけを啜り満腹。今宵の宿「山翠楼」



へ。早速、露天風呂につかりのんびりした。

お祝い会は午後6時30分より旅館内宴会場で行われた。はじめに佐藤秀夫会長が挨拶。釣り好きな香山先生から「最近はなかなか出るのが億劫になって」とお聞きしていたので、ご自宅でのんびり釣りに行った気分を味わって頂こうと「海、川の魚の水中での生態を記録したDVDセット」のお祝い品が贈られた。次いで先生から「こうやって何とか健康で皆さんからお祝いして頂けることは何より光



栄です。ありがとうございます」と謝辞が述べられた。

綺麗処も揃ったところで大庭靖士先生の乾杯で祝宴が始まった。元々「湯葉」で有名な宿。「自家製引き上げ湯葉」の先付に始まり、眼でも楽しめる色とりどりの「前菜」、お昼には味わえなかった北海道の真蛸や三陸のもどり鰹の「お刺身」と続き「箱根西麓牛ロースの石焼き」と宿名物の蓋物「三ケ日三段肉の吉野仕立て」など秋の味覚満載のコース料理を堪能した。参加者から一言ずつお祝いの言葉が贈られ、「ご兄弟揃って健康で100歳目指して」と大きな拍手で祝福した。

翌朝は旬と地場産食材に拘った朝食後、部屋でのんびり過ごした。お昼は湯河原ご当地B級グルメ「坦々焼きそば」の1号店「餃子ショップ」で。その昔、怪我を負った狸が湯河原温泉で傷を癒したそうで「たんたん狸の…♪」から「坦々焼きそば」が誕生。

ピリッと辛い焼きそばに、餃子などみんなで仲良くシェアしてお腹も一杯になり、特急に揺られて帰路についた。（宇佐美貴弘 記）



横浜西部支部



一泊総会・懇親会

平成25年10月2・3日(水・木)、瀬谷区の、山之内正己君、辻村育郎君が幹事となり、熱海の「石亭」にて、総会が開催された。今回は16人の参加があった。

午後5時より、山之内正己君の司会により総会が開催された。まず、佐藤信之支部長から、開会の辞がなされた。その後、会員現況報告、会務報告、会計現況報告

が、辻村育郎君からなされた。次に、本部同窓会報告を、高階光博君よりなされた。また、連合同窓会報告、横浜市歯科医師会についての話、島村大君についての話が、杉山紀子神奈川県連合同窓会副会長よりなされた。

議題として、次期支部長が、満場一致で佐藤信之支部長の継続が決定した。また、今後の秋の総会についての話し合いがなされた。

その後、宴会場に場所を移し、菅原政道君の乾杯の発声で宴に入った。宴会は、皆笑顔が絶えず終始和やかな雰囲気であった。宴会は楽しく続いたが、時間も押しせまり、宴もたけなわではあったが、杉山紀子神奈川県連合同窓会副会長の閉会の辞を持って終了となった。(渡瀬秀彦 記)



浅草支部

浅草支部恒例の親睦会は平成25年10月19日(土)屋形船での遊覧をおこないました。地元の浅草橋から出船するとあって20名の会員の出席があり大変盛り上がりしました。今回は浅草橋から乗船し、はじめに東京ゲートブリッジまでクルージング、そしてお台場にて停泊をしながら料理を堪能し、その後浅草橋まで戻るルートでした。途中、ららぽーと豊洲の脇を通りとても幻想的なイルミネーションに感動し、新スポットの東京ゲートブリッジを見ながらお台場に行きました。

7年後の東京オリンピック開催までにこの地も大きく様変わりするのでしょうか。新支部長の中野正博先生の挨拶の後、宴会に先立ちまして本年3月に逝去された



船坂 豊先生(昭和22卒)、6月に逝去された鬼久保小百合先生(昭和31卒)に対しての黙祷をおこないました。また懐かしいエピソードなどの思い出を語りました。その後揚げたての天ぷらを堪能し参加者全員が近況を発表するなど楽しい時を過ごしました。台

風が去った直後で船は少し揺れましたが、楽しい屋形船での宴会はあっという間に帰港の時間となり参加された皆様は大変満足そうでした。

来年も多くの先生が参加できるような企画を考えたいと思います。(庶務 田 昌文 記)



クラス会だより

八 紫 会

昭和35年卒

2013年10月12日(土)～14日(月)、今年度のクラス会は東日本大震災の現状を見て、何とか自分達に出来る事はないだろうか考えて見たいとゆうことで、被災地の宮城県に住む花岡が幹事に指名されました。

今回は三陸海岸を中心に回る事にして、仙台駅に集合、岩手県盛岡市で昼食、龍泉洞を見て、浄土ヶ浜で一泊、久しぶりの親交を温めることができました。

二日目は浄土ヶ浜を海からの見学とゆうことで、遊覧船で奇岩、奇石を見ることが出来天気にも恵まれ素晴らしい景観に一同大いに盛り上がりました。又少しでもお金を使って帰ろうと宮古市の漁業

市場に寄り、出来るだけたくさん買い物をしようと持ちきれないほどの買い物をした会員もいたほどでした。

宮古市のあとは出来るだけ被災の大変だったところを見たいとの希望で、バスに回ってもらいましたが、ガイドさんの説明でここは震災前は何千人がにぎやかに住まわれていた町です、とか、とても漁業の盛んな美しい漁村で何人も人がなくなりました、との説明で全員が言葉を失い、バスを止めてもらい合掌しました。

遠野市では「あえりあ遠野」で昼食、南部曲がり家を見学、そのあとこの日の宿泊場所志戸平温泉にはいりました。温泉に入り宴会

になれば何時ものようになるのはいうまでもありません。

最後の日は世界遺産平泉「中尊寺金色堂」「毛越寺」の見学をしました。世界遺産になってからの平泉はいつにもまして賑やかになったようにみえました。

仙台には15時30分に着き再会を約束して全員無事解散することができました。

今回は連絡も遅くなり、徹底も十分されなかった、とゆうことで参加者も11名と少ない結果となりましたが、小生にとっても充実したクラス会でした。

(花岡十弘 記)



踏 志 会

昭和41年卒

猛暑、竜巻そして土砂災害など自然の猛威に翻弄され、被害も多発している昨今です。皆様、如何お過ごしでしょうか。災害に遭われた方には心より御見舞い申し上げます。

第48回踏志会が10月19日ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにて開催されました。ご婦人方を伴っての会員を含めて総勢48名、受付終了後記念撮影、午後6時30分より1F「シルク」で総会が開かれ藍原君の挨拶、次いで今年5月に亡くなった河野雅光君に対して全員黙祷をし、ご冥福をお祈り致しました。続いて上竹会長の報告があり新血協記念ホールが完成するにあたり、母校への寄付金に今一段のご協力ご支援をお願いしたいとの要請があるとの話をしていました。その後総会の各議案が了承され終了。

高橋君の司会で懇親会が開かれ来年の踏志会が決定した愛知の

山本芳隆君の乾杯の挨拶の後は食べたり、飲んだりの歓談となり各テーブルを囲んでの盛り上がった宴会も21時でお開きになり、その後場所を30F「ルグラン」に移動しホテルからの素晴らしい夜景（となるはずでしたが残念ながら）を眺めながら二次会がもたれました。

翌20日雨の中、ホテルを9時30分出発市内観光。先ず神奈川県歯科医師会館内の「歯の博物館」見学。横浜の地は近代歯科医学発祥の地とされここには日本だけでなく西洋の史料も含めた古今東西の歯に関するものが集められています。40年以上も前の実習当時を思い出し懐かしい一時となったようです。次いで「横浜港クルージング」海上からの港の風景は期待外れとなってしまいました。「赤レンガ倉庫」で一休みしたあと「山手西洋館めぐり」、外国人居留地として海港当時山手の丘の上に

建っていた歴史と深く関わっていた西洋館を、横浜市がその幾つかを保存公開している地区ですが、これもバスの車窓から雰囲気味わうだけとなりました。その後中華街「菜香新館」にて昼食。

今回のクラス会は雨にたたれた会となってしまいましたが、中華料理を食べながらも話が弾み集まった皆様の笑顔が、最後までたえることが無かったのが励みになりました。それ相応の年齢になり皆なんらかの不都合は抱えているようですがクラス会に参加出来るうちはまだまだ――などとも思っています。来年は山本君をはじめ愛知県の皆様にお世話になります。皆元気でお待ちしましょう。

二日間の日程でしたが各先生方のご協力により無事第48回踏志会が散会出来た事に感謝申し上げます。
(角田達彦 記)



志 学 会

昭和42年卒

平成25年10月19日（土）25年度志学会総会が、信州安曇野市穂高ビューホテルで、総勢51名（ご婦人12名を含む）が参加して盛大に開催されました。

卒業して46年、全員が古稀以上になりましたが、みな笑顔の再会です。

高橋利武君の議長のもと、小生の歓迎の挨拶、大岡紀一郎会長の挨拶、宮地建夫同窓会副会長より、大学及び同窓会本部の近況報告があり、同級の矢崎同窓会長も出席を楽しみにしていたが、公務

で九州に出張の由、同級諸兄の血脇ホール建設への多額な寄付に対して心より感謝しており、皆さんにくれぐれもよろしくとの伝言がありました。記念撮影をして無事終了しました。

続いて上田の村居正雄君の進行で懇親会となり、地元桂 聡子さんのフルート演奏に始まり、松茸はじめ地の食彩を堪能し、地酒を酌み交わすうちに会話が弾み学生時代にタイムスリップしたかのようでした。

この日行われたゴルフコンペの

表彰が合わせて行われ、信州産松茸を優勝した中川勝洋君がゲットしました。

2次会はカラオケルームと地酒ルームに分かれ、夜の更けるまで続きました。

翌日はあいにくの雨でしたが、バスに乗って安曇野観光が計画され、ちひろ美術館、碌山美術館、大王わさび農場を見学して、午後3時来年の再会を約して松本駅で解散となりました。

（飯島和彦 記）



八 実 会

昭和53年卒



総会・特別講演会・懇親会

台風27号の接近により開催が危ぶまれた八実会総会，特別講演会も，会員の熱い思いが天に通じたのか何の影響もなく，10月26日（土）午後4時から35年前に巣立った思い出の水道橋，移転開校して間もない水道橋校舎本館6階会議室で開催されました。今回は残念ながら都合で，学年主任であった浅井名誉教授はじめ副主任の先生方には出席頂けませんでした，全国から40名近い会員の出席がありました。今回は特に，現在米国・シアトルで開業している山口修一君が5年振りの帰国，白髪が増えていたものの八実会には元氣

に十数年振りの出席でした。

総会では大井誠一会長より本会会費や役員改選の件について説明がありましたが，次回の八実会までの継続審議となりました。

特別講演では山口君が現在のアメリカの歯科事情や民間医療保険の現状を紹介したあと，実際オフィスで行なっているインプラントやデンチャー，CAD/CAM等について多くの症例を提示しながら詳しく解説して頂きましたが，彼の日頃のバイタリティを垣間見ることの出来る講演でした。

その後会場を東京ドームホテルに移しての懇親会。この度母校千葉病院長に就任した井上 孝君よ

り挨拶を頂いたあと，山口君が乾杯の発声をし和やかにスタートしました。現役で入学した会員は来年3月までに全員還暦を迎えるため，八実会も平均年齢が60歳台に突入します。懇親会での話題も学生時代の思い出や歯科界の話はもちろんですが，健康問題や子供の結婚，孫の話まで及んでくると，さすがに各々均等に歳だけは食ってきたなあと感じました。最後に富山の野田 修君から北陸新幹線が金沢まで開通する二年後，富山での八実会開催が提案され全員の賛同を得ました。その後二次会を同ホテル43階で，更に別れを惜しんで？思い出多い三崎神社界限まで足を延ばした連中も10名近くいました。

先人は「50，60は鼻たれ小僧」と言われました。八実会の皆さん，まだまだ老いることなく人生を謳歌しましょう。

（永江健一 記）



写真が同窓会ホームページ<<<http://www.tdc-alumni.jp>>>に掲載されています。

破竹会

昭和59年卒



第13回弘前総会・懇親会報告

台風18号が日本列島に大きな爪痕を残した1週間後の平成25年9月22日青森県弘前市の岩木山を望む百沢温泉郷にある「アソベの森いわき荘」に会員21名が飛行機・新幹線、中には東京からはるばるバイクでと思い思いの方法で参集し、第13回破竹会弘前総会懇親会が開催されました。

総会では鈴木代表から今回の会は本来平成23年9月に開催される予定だったが、東日本大震災の影響で2年間延期になった事、その間に一番参加を望んでいた副代表の渡邊武之君が亡くなった（平成23年11月29日没）事、また、同級生の櫻井学君が朝日大学の教授になった事等の報告がありました。そして来年は卒後30周年の記念総会を東京で開催する事が決定



しました。

総会后記念撮影が行われ、一番遠方の広島から参加した川口慶子さんの乾杯の発声で懇親会が始まりました。久々に会う友もいましたがそこは学生時代を一緒に過ごした仲間だからこそで、すぐうち解け合い大いに盛り上がりました。

一次会の後ロビーにて津軽三味線の力強い生演奏を聴き、その後二次会用の部屋に全員が集まり、地元幹事角倉君から地酒の説明があり再び乾杯。時のたつのも忘れて膝をつき合わせて語り合いさらに親交を深めました。

翌日は晴天に恵まれ、全員で屋

上に上がり津軽のシンボル岩木山をバックに記念写真を撮りました。その後チャーターした観光マイクロバスを利用してほぼ全員で市内観光に出かけました。弘前りんご公園では試食したりんごの美味しさに感動し早速お土産にする者が続出。禅林街にある藩祖津軽為信の菩提寺である長勝寺では山門から真っ直ぐに延びる通りの両側に32件ものお寺が整然と立ち並んでおり、ここでしかみられない光景に驚きました。また、ねぶた村では弘前ねぶたのその大きさと前面に書かれた武者絵の勇壮さ、後面の津軽の短い夏に別れを告げる美人画の妖艶さに圧倒されしばし見入ってしまいました。最後は地元的新鲜な海産物たっぷりの昼食を頂き解散となりました。

現地幹事の角倉君の細部にまで行き届いた正に「お・も・て・な・し」いっぱい配慮に一同大感謝し、弘前の街に後ろ髪引かれながら、来年の東京総会での再会を約束して帰路につきました。

(黒田美智代 記)



彗星会

昭和61年卒



彗星会クラス会は、昨年の事になります。平成24年12月1日(土)に帝国ホテル東京において開催されました。

ホテルロビーには、大変きれいで豪華なクリスマスツリーが飾られ、街も年末を感じられる中で諸般の事情もありまして、前回より6年ぶりの開催となりました。

そんな年末迫る気ぜわしい中を、お陰様で62名の参加となり賑やかな会になりました。

司会是小川 浩さんが、その人その人にじっくりと練り上げられた心温まる進行のお陰で終始なごやかな雰囲気の中で、浅井先生の受章のお祝いも遅ればせながらささやかに行いました。気合いの入ったご挨拶を高野伸夫先生に頂きまして富山の山田雅敏君のお祝いの言葉に続き、浅井先生からは、学生時代をほうふつさせるダジャレ

も連発して大いに和むご挨拶を頂き、会場内がぐっと和らぎました。また、静岡よりお越しいただきました田中丸先生よりは、心温まるご挨拶を頂き乾杯をしました。

当クラス会の誇るご重鎮が司会、ご挨拶したせいか、ご来賓の先生方が卒業してから大分経っているのに余りお変わらない様に見えたのは、私だけでしょうか。

若かったつもりでいても、皆50を廻り同窓会会員名簿も気がつけば中程になってしまいました。子供も大学生とか最後の診療所の改装などの話しも、ちらほらと聞こえておりました。近況報告として、岩手の宮田右京君、鳥根の加藤伸次君、小林正子さん、大平洋志君、新潟の常木哲哉君、佐賀の松尾潤子さん、滋賀の岡野克也君、鶴岡裕亮君、新潟の佐藤浩之君の万歳三唱で中締めとなりました。

た。

また3年後の卒後30周年を初めての地方開催を新潟で開催する話が進み、常木哲也君、佐藤浩之君、金子真人君、小林由明君、加茂芳江さん、内山郁子さんらが幹事を大変快く務めてくれる事になり、嬉しい限りでした。

そして2次会へと場所を移しましたが、お陰様で62名中51名が2次会に参加、幹事の予想をはるかに覆す盛況で会場は熱気むんむんで手狭で申し訳なかつたです…。

最後になりますが、浅井先生より君たちのクラス会は名前の通り消えてどこかに行ってしまったかと思うとまた現れ輝く、まあ～不思議な会だねと言う言葉が身に染みみました…そして、この度のクラス会を通じ、改めて母校東京歯科大学と先輩方恩師の有難さを痛感しました。(高橋裕幸 記)



爽 翔 会

昭和62年卒

92期同窓会報告

今年の9月28日、横浜中華街の重慶飯店にて爽翔会を開催、副担任の保坂 誠先生にも来ていただき、総勢48名の参加にて行われました。爽翔会は卒業以来4年毎の開催でしたが、稲毛のキャンパスで学んでいた若き同期も今や全員50歳台になったので、今後は2年に1度の開催にしようという運びになり、そのはじめとしての横浜での開催です。まずは、研修会講師として同級生の田村 元君に「矯正歯科医の視点から見た咬合と顎位」の演題で講演、矯正学の立場からの咬合論を語っていただきました。田村君の臨床観察から、口腔機能上の問題や不良な咀嚼習慣を抱えた子供の増加を近年

感じているとのこと、その原因を生活環境の変化や時代の変遷からテレビを見る姿勢・噛まない・歩かない・足組みなどの生活習慣一しつけと考察され、実際の臨床でもその指導を取り入れているとのことでした。そしてその考えや自身の臨床理論をもとにした、生理的機構に調和した安定度の高い咬合をめざした「フルパッシブ矯正治療の理論と臨床」も紹介していただきました。田村君の学生時代からの変わらない鋭い追求心を参加者一同は確認しつつ、改めて同期の歯科界での活躍を誇りに思ったものです。講演終了後、恩師・保坂先生の挨拶からはじまった懇親会が執り行われ、秋の横浜の中華の味を堪能しつつ、歓談のひと



時をすごしました。集まった同級生の多くは、地域や組織などで責任ある地位との様子、欠席者の多くも歯科医師会などの会合で来れない連絡でしたので、「責任」を背負っている我々の年代であることを更に感じたものでした。次回の爽翔会は再来年に木村祐士君が幹事で大阪周辺での開催、再会が楽しみです。（浜野弘規 記）



OB会・グループ・サークルだより

バスケットボール部

OB会総会が開催、新OB会長に村田憲一郎先生が就任

平成25年7月14日(日)午後6時より、飯田橋エドモンドホテルにおいてバスケットボール部OB・OG会総会が開催された。高野智史先生(平18卒 有床義歯補綴学講座)の司会進行のもと、勝保正之先生(昭55卒)を議長に選出し、議事に入った。まず、現役主将より昨年の成績および歯学体の日程についての報告があった。次いで、事務局から昭和49年(1974年)のOB会発足以来、永年OB会長を務めて頂いてきた初代大塚弘介先生(昭36卒)より退任の申し出があったことの報告があり、協議した結果、次期のOB会長に村田憲一郎先生(昭50卒)にお願いすることになり、了承された。



また、大学が稲毛から水道橋に移転する際に、現役の部活は稲毛の体育館を使用している関係上、水道橋から稲毛までの交通費の負担がかかるとの報告があり、水道橋で部活が定着するまでの間はOB会から交通費の援助をすることが提案され、了承された。さらに、水道橋に完全移転した場合、都内の体育館を借りての部活となるので、現役から申し出がある場合はOB会からの資金援助も考慮することが話し合われた。

このように今後は現役の部活の継続にはOB会からの支援がさらに必要となってくる。OB・OGの先生は是非ともOB会費や支援金の納入を是非お願いしたい。この記事を読まれて、今回の総会の案内や寄付の依頼が届いていない



OB・OGの先生は事務局までご連絡いただき、後輩への援助をして頂きたい。

総会の後、懇親会に入り、新たにOB会長に就任された村田先生からはOB会の組織を更に充実させ、OB会も歯科界のリーダーとして君臨したいという力強い抱負を語られた。

さらに、恒例となった還暦を迎えたOBに対して、記念のユニフォームが贈呈された。

今年は、野田 修先生(昭53卒)、玉手 収先生(昭53卒)、尾松素樹先生(昭54卒)に贈呈された。

なお、本会の名称はOB会となっているが、OGの方々を含めた会なので、OGの先生方も大いにご参加頂きたい。

問合せ先(事務局): 高野智史
takanotomofumi@tdc.ac.jp TEL 043-270-3933/FAX 043-270-3935 (有床義歯補綴学講座)、
古屋克典 mailto:kfuruya@tdc.ac.jp TEL 03-5275-1760/FAX 03-3262-3420 (水道橋口腔インプラント科)

(昭和54年卒 尾松素樹 記)

すいどうばし

平成25年度関東女性歯科医師の会が開催されました。

平成25年10月20日(日)奥村享子先生(昭和45年卒)黒田由紀子先生(昭和57年卒)が活躍する「ぐんま女性歯科医師の会」が主幹となり、群馬県のホテルメトロポリタン高崎において、「平成25年度関東女性歯科医師の会」が開催されました。

台風の接近にも関わらず多くの女性歯科医師が集まり、午前中に全体会が行なわれました。ここでは、各県の活動報告の他、協議が行なわれ、全体会の開催地については当番県に一任すること、また、現在の関東女性歯科医師の会を関東甲信越他近県に拡大することについては、まずは、このまま関東女性歯科医師の会の充実をはかり、今後の拡大については順次検討することとなりました。

この会の立ち上げの際に尽力された群馬県の奥村先生や神奈川県杉山先生より、女性同士の親睦はもとより、女性歯科医師の視点からの情報発信、意見交換の場として広く門を広げること。そして、歯科医師会や政治連盟とも分け隔てなく交流し活動していこうとお話がありました。

その後、大阪歯科大学歯科医学教育開発室教授・王 宝禮先生による「美しく生きるための口腔漢

方の知識・漢方、サプリメント、プラセンタ」の講演会が行われ、H24年4月より歯科の保険に導入された立効散・半夏瀉心湯・黄連湯・茵陳蒿湯・五苓散・白虎加人參湯・排膿散及湯7種の漢方薬の処方方法を教えていただきました。例えば不定愁訴の患者様や義歯があたって痛いとおしゃっているが、実は口腔乾燥により擦れて出来る傷で痛みを訴えている患者様へ五苓散・白虎加人參湯を処方をしてみようと思いました。また、私達女性が何歳になっても興味のあるアンチエイジングについては、免疫力を向上させるサプリメント「プラセンタ」が有効であると御教授いただきました。参加した80名の女性歯科医師が「美」について考えさせられた楽しいひと時でした。

昨年の講演会では「リーダーの条件」が大変印象に残っていますが、今年は、「分け隔てなく」という言葉が、大変印象に残った一日でした。近頃の情報社会では、競争の原理がついて回り、何をすすめるにも、順番をつけて整理することが効率的ではあると思いますが、この女性歯科医師の会は男女の区別をすることが目的の会ではなく、皆で協力し合い、同じ方向



を向いて進んで行くことを目指しているものです。近年では、女性歯科医師が卒業生の半数を占める時代です。老若男女其々の立場や資質を活かし「分け隔てなく」一丸となって歯科界を盛り上げていきたいらと思いました。

来年は、本学出身の坂入道子先生(昭和59年卒)が会長を務める栃木県が主幹です。昨年度主幹の神奈川県では小笠原美由紀先生(昭和56年卒業)が会長を務めるなど、関東女性歯科医師の会でも、本学出身の先生方が大変多く活躍されています。是非、これからも、本学出身の若い女性の先生方のご入会・ご活躍をお待ちしています。(佐々木葉子 記)



庶務日誌

11月

1) 理事会

11月16日(土) 第6回理事会

2) 委員会

11月1日(金) 会員管理システム検討委員会

6日(水) 広報部広報委員会(12月号取材)

8日(金) 事業推進部学術委員会(研究部)

8日(金) アカデミア構想準備委員会

11日(月) 同窓会・会務運営協議会

11日(月) 広報部広報委員会

13日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)

14日(木) 総務関係打合せ会

19日(火) 事業推進部若手ネットワーク・大学
連携合同委員会

22日(金) 総務・厚生部ゴルフ大会委員会

25日(月) 事業推進部(企画会議)

26日(火) 事業推進部学術委員会(企画)

27日(水) 総務・厚生部厚生委員会

27日(水) 事業推進部学術委員会(プログラム
委員会)

29日(金) 事業推進部保険委員会

3) 出張

11月9日(土) 東京地域支部連合会城西ブロック講
演会, 懇親会 矢崎会長出席

13日(水) 東京地域支部連合会支部長会
矢崎会長, 早速理事出席

19日(火) 板橋支部学術講演会 講師・古澤
成博教授(母校)

21日(木) 東京地域支部連合会保険講習会
矢崎会長出席

4) 事業

11月10日(日) TDC 卒後研修セミナー2013 卒研セ
ミナーNo.5 実習セミナー2 「CAD/
CAMを極める」～初めてのオール
セラミックス・支台歯形成の基本か
ら合着まで～

14日(木) TDC 卒後研修セミナー2013卒研セ
ミナーNo.6 イブニングセミナー2
「今日からはじめる こだわりのペ

リオ」～歯根膜の臨床観察と歯周治
療～

5) 評議員会

17日(日) 平成25年度評議員会・第119回定時
総会

12月

1) 理事会

12月21日(土) 第7回理事会

2) 委員会

12月2日(月) 事業推進部学術委員会(研究部)

2日(月) 総務関係打合せ会

3日(火) 広報部広報委員会

9日(月) 事業推進部学術委員会(プログラム
委員会)

11日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)

13日(金) 渉外部渉外委員会

13日(金) 事業推進部学術委員会(インプラ
ントセミナー2014プログラム委員会)

14日(土) 事業推進部学術委員会(全体委員会)

16日(月) 同窓会・会務運営協議会

17日(火) 事業推進部学術委員会(企画)

18日(水) 事業推進部若手ネットワーク委員会

19日(木) 学術事業交流についての協議会

3) 出張

12月1日(日) 千葉県支部総会 佐瀬副会長出席
学術講演会 講師・一戸達也教授
(母校)

1日(日) 神奈川県支部連合同窓会総会
矢崎会長出席

1日(日) 栃木県支部総会 浮地副会長出席
学術講演会 講師・内山公男先生
(NHO 栃木医療センター 歯科口腔
外科部長)

5日(木) 父兄会役員・大学幹部との懇談会
矢崎会長出席

7日(土) 東京地域支部連合会総会
矢崎会長, 佐瀬副会長, 早速理事出席

7日(土) 愛媛県支部総会 臼井常任理事出席

- | | |
|--|--|
| 学術講演会 講師・矢島安朝教授
(母校) | 8日(日) 愛知県支部総会
梅村副会長, 財部常任理事出席 |
| 7日(土) 茨城県支部総会 高野常任理事出席
学術講演会 講師・坂本輝雄講師
(母校) | 学術講演会 講師・酒井 優先生
(愛知県開業) |
| 7日(土) 熊本県支部総会 小池常任理事出席
学術講演会 講師・細矢由美子先生
(長崎大学歯学部小児歯科准教授) | 13日(金) 日本橋支部総会 早速理事出席 |
| 8日(日) 静岡県支部総会 矢崎会長出席
学術講演会 講師・佐藤 亨教授
(母校) | 14日(土) 山梨県支部総会 浮地副会長出席
学術講演会 講師・上田貴之准教授
(母校) |
| | 14日(土) 神奈川西湘支部学術講演会 講師・
山根源之名誉教授(母校) |

同窓会創立120周年記念事業にあたり広報部よりお願い！

東京歯科大学同窓会創立120周年記念事業において準備委員会が示した案のなかで記念誌の発行が予定されています。平成27年度の会報誌2号にわたり120周年特集のページを設け、また平成28年度に記念誌を発行することとなりました。準備委員会では120周年記念事業のメインテーマとして幾つか候補が上がりましたが今回評議員会で発表された「医はこれ濟生ひとへに仁なり 伝統そして未来への飛躍」と決定されました。記念誌として「温故知新」古きをたずねて新しきを知るのように、歴史を振り返りしっかりと認識して未来への足がかりを見つけられたらと思います。

東京歯科の生みの親である高山先生、また育ての親である血脇先生にスポットを当て、高山・血脇スピリットを考えお二人の人物像に迫ればと思います。お二人が育った環境または社会状況や関わった人々の人物像、同窓会との関わりなども同時に探ってみたいと思っています。そこで高山先生、血脇先生にまつわるエピソード、手紙、書、写真等の資料の情報を求めています。心あたりのある方はぜひ同窓会あてにご連絡お願いしたいと思います。

広報部広報委員会委員長 白田 準

同窓会創立120周年記念事業準備委員会



逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 54 卒	吉 田 伸 幸 (59歳)	北海道小樽市	25. 10. 7
●昭 31 卒	中 西 憲 正 (81歳)	愛媛県新居浜市	25. 9. 29
●昭 32 卒	三 宅 淳 一 (81歳)	福井県福井市	25. 10. 16
●昭 33 卒	相 庭 昇 一 (81歳)	神奈川県横浜市	25. 10. 17
●昭 24 卒	長 尾 盈 (85歳)	静岡県沼津市	25. 10. 22
●昭 38 卒	菅 田 博 子 (75歳)	富山県富山市	25. 10. 31
●昭 23 卒	駒 田 進 (86歳)	愛知県尾西市	23. 5. 19
●昭 38 卒	永 井 秀 明 (76歳)	群馬県安中市	25. 11. 1
●昭 34 卒	杉 村 仁 (79歳)	北海道苫小牧市	25. 11. 6
●昭 22 卒	船 本 達 世 (89歳)	北海道札幌市	25. 11. 6
●昭 32 卒	原 田 淳 也 (83歳)	北海道浦河郡	25. 11. 8
●昭 53 卒	諸 星 裕 夫 (59歳)	神奈川県平塚市	25. 11. 9
●昭 29 卒	萩 原 昭 男 (84歳)	福島県いわき市	25. 11. 22
●昭 38 卒	栗 田 英 明 (76歳)	東京都小金井市	25. 11. 24
●昭 38 卒	水 口 立 夫 (76歳)	神奈川県藤沢市	25. 11. 17
●昭 27 卒	小 畑 典 也 (86歳)	東京都目黒区	25. 10. 14
●推 薦 会 員	篠 塚 水 竿 (102歳)	神奈川県横浜市	25. 11. 29
●昭 38 卒	野 沢 讓 (78歳)	新潟県胎内市	25. 10. 7

追 悼

永井秀明君を悼む

歯士会(昭和38年卒)



永井君が食道癌に侵されて、年明けに手術をして闘病生活に入るとい知らせをくれたのは、昨年の12月末だった。今年になってからは1月の手術に続く抗癌治療で、副作用の痛みに加え、死と対峙する厳しい日々に君らしい穏やかさで耐えてきた。

そんな君に敬意を表し、早いお別れになってしまったことが本当に残念でならない。

闘病中は優しい輝子奥さんの献

身的な介護に支えられて、6～7月頃は白馬方面の山にも登ったと手紙をくれた。8月に浅間連山で長年探していたリンネソウ(日本名～メオトバナ)を発見できたと、多分奥さんと二人で喜んでカメラに収めた写真を同封してくれて、その先に「病んで近頃思うことは、愛する者は愛し、美しいものは愛で、寿命を全うすることが大切だと考えます。今は「終わる時には終わるもよし、の心境です」とあり、今思えば君はその頃から覚悟を決めていたのだと、胸が痛みます。

君がいなくなってしまった現実
に直面し、改めて「時」を取り戻す
ことができない切なさを痛感し、
君と一緒に過ごしたあの懐かしい
思い出が鮮明に蘇ってきます。

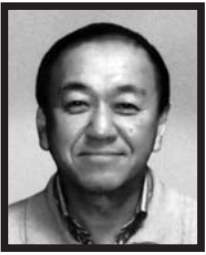
いずれは私たちも君のそばに行く
時が来る。その時は先輩として
三途の川の渡り方などをこの世と
同じように、にこにこ穏やかな
顔で教えてほしい。

私たちは君のことをいつまでも
忘れない。さようなら。心からご
冥福を祈ります。

合掌
(昭和38年卒・犬飼康元 記)

天国のクラチャンへ

弥生会(昭和54年卒)



君が盲腸内分
泌腫瘍で余命半
年と宣告され、
夫婦で抱き合っ
て泣いた話を僕
に語ってから一
体どのくらい経ったのだろう。

吉田伸幸君は僕と学生番号が隣
で水道橋の階段教室も実習室も隣
同士。君はよく中央ホールで卓球
を、僕はJAZZ研でサクスを
吹いていた。

君は卓球で培った勝負根性でい
つも泰然自若としていた。僕らは
学究肌ではなかったが、ノートを
借りて一夜漬けの勉強で試験をク
リヤーした。「国家試験受からな
きゃ話にならんからな」が君の口
癖だった。

卒業間際に同じ小樽出身で小児
歯科勤務の敦子さんと運命的に出

会い、結婚して君は札幌、僕は熱海
で研修した。先に開業した君は会
務の傍ら、徐々にゴルフ道を極め
た。名門小樽カントリーへの入会
し、3度もクラブチャンピオンに。

去年9月30日、札幌での学会に
合わせ君とのゴルフを計画した。
その頃は体調が良さそうだった。
だがその一週間前に入院したとい
う。その日は病院の外泊許可をと
りご家族と小樽駅まで迎えにきて
くれた。相変わらず背が高く、助
手席から降りてサッサッと歩いて
みせてくれた姿がうれしかった。

時は過ぎ行き人は無常にも誕生
してはやがて滅びる。しかし魂は
不滅だ。昨晚から小樽へ来てご家
族や歯科医師会の先生方にお会
いして確信した。君の59年の人生は
大成功。正に18ホールのナイス
ゲーム。来春結婚されるご長女や

間もなく出産されるご次女。最近
プロポーズされたご三女。当時つ
いに男の子が誕生したと喜んでい
た子は北大卒の歯科研修医。君の
魂は間違いなく彼らに伝わり宿っ
ている。

卒業アルバムを開くと、D班の
寄せ書きに君は「皆さん卓球を練
習して下さい」「あー疲れた」と
あった。僕はその隣に中国語で二
文字だけ。その二文字で今日の弔
辞は終わりにしよう。昨晚から多
くの方が君とのお別れを惜しんで
いる。これ以上君を独り占めする
わけにはいかない。でも僕らの間
にさよならはない。また天国のク
ラチャンこと吉田伸幸君に会いた
い。

「再見」

(昭和54年卒・呂 正博 記)

前岡一夫君を悼む

翔蜻会(昭和55年卒)



学年でもとり
わけ健康的で澁
刺としていたあ
の前岡が、9月
26日、とうとう
逝ってしまった。

癌と分かった時には、既に広く
転移していた由。以来1年余り、診
療を続けながらの闘病生活だった。

友人の苦境でも何もできず、見
守るだけであった。過酷な状況な
のによくも1年も弱音を吐かず頑
張って、彼らしいと思う。まだ59
歳、さぞ無念だったろう。

彼との付き合いは、入学し空手
部入部から始まる。毬栗頭で学ラン、
下駄ばき姿の彼はユニーク

だった。高校でラグビー、大学で
は空手と硬派一筋の彼は、空手へ
の思いが篤く、自然中心的存在と
なり、主将となって我々を引っ
張ってくれた。

卒業後、彼は高名な臨床家の門
を叩き、歯科医としての道を歩き
始める。そして勤務先で素敵な奥
様との出会いがあって目出度く結
婚、一宮の実家に入り開業医生活
がスタート。

勉強家の彼は、多くのスタディ
ーグループに所属し、学会や勉強
会で忙しい奴だなと思っているう
ち、いつの間にかあちこちで講演
を依頼されるまでになっていた。

開業医として高い評価を受ける

だけでなく、温かい家庭を築き、
家族から愛された前岡。

先日、空手部の仲間でお参りに
伺い、診療室を見せてもらった。
彼が如何に患者さんを大切にし、
真摯に診療に臨んでいたか分かる
気がした。

真面目で硬派で謙虚だった。虚
飾を嫌い、都会の空気や風潮にも
流されることのない個性の強さが
あった。外見も人柄も学生時代か
ら少しも変わらず、何事も飾らな
い前岡流は一貫していた。

個性際立った好漢、前岡は多く
の人の心の中で、生き続けるだろう。

前岡、ありがとう。 合掌

(昭和55年卒・伊藤博之 記)

◆投稿規定

※平成24年度より、偶数月発行から年間5回（2，6，8，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投稿字数

投稿欄	内容	文字数, 備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想, 詩, 短歌, 時評など	1編1,700字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,700字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当、数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

投稿送付書

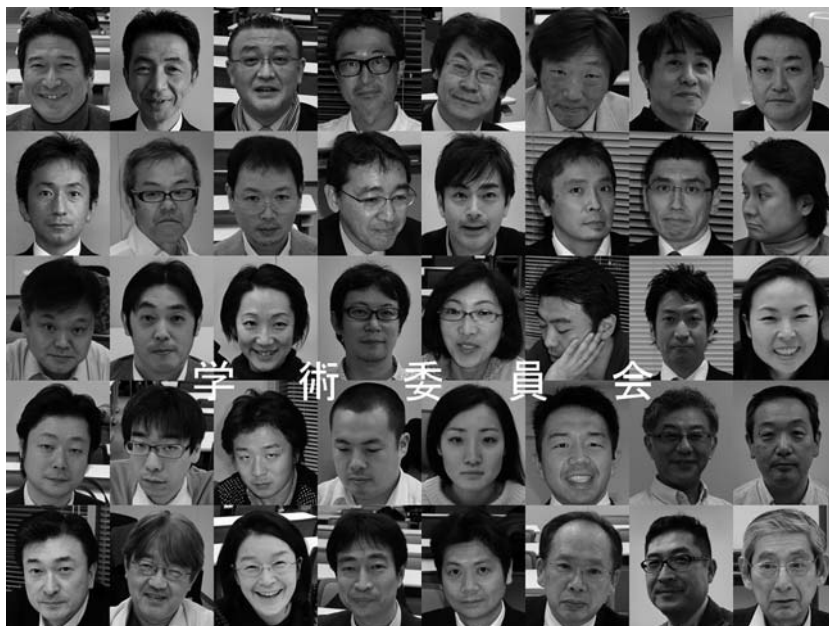
郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	-	-	FAX 番号	-
投稿先 <input type="checkbox"/> に <input checked="" type="checkbox"/> 印チェック	同窓会会報	<input type="checkbox"/> カラーグラビア	<input type="checkbox"/> 追悼	<input type="checkbox"/> 支部のうごき
		<input type="checkbox"/> ふるさと自慢	<input type="checkbox"/> すいどうばし	<input type="checkbox"/> いなげ
		<input type="checkbox"/> クラス会だより	<input type="checkbox"/> OB, グループ・サークル	
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

いいんかいしょうかい

学術委員会は現在30名の学術委員と数名の協力委員で構成されています。

各委員は、同窓会員のみなさまに生きた学術情報を発信するために、卒後研修セミナーの企画・運営のみならず、若手支援委員会、大学連携委員会、シンクタンク委員会、研究部、など同窓会活動の根幹を担う委員会活動に兼務しており、まさに八面六臂の活躍をしております。1975年に経団連ホールから始まった卒後研修セミナーは、その時々の歯科医学の進歩、社会情勢や「ヒポクラテスとの決別」、DOSからPOSへ、バイオエシックス、EBM、といったキーワードに代表されるような、医者と国民の医療意識の



変化などに、あるときは先取りし、またあるときは歩調を合わせながらセミナープログラミングをおこなってきました。今年で38年経過した卒後研修セミナーは10年程前から、医療技術のスキルアップをねらった実習付き「臨床実技セミナー」や、受講者がディスカッションすることで気づきが生まれる、「臨床における重要技術」習得のための「ベーシックセミナー」などを企画してまいりました。その根底には、学生時代習得した各科別の知識を、さまざまな個人差、個体差、のある患者に包括的に応用できるようになる、といった一般・行動目標があります。再来年同窓会創設120周年を迎え、新たにアカデミア構想が検討されています。学術委員会でも現在、将来を見据えた、より良い学術情報発信のために、委員会構成やセミナー構成などについて鋭意検討しているところです。今後ともみなさまのご理解ご協力をお願いいたします。

学術委員会委員長 藤関雅嗣

◆へんしゅうこうき

★ 今号の会員往来は、準会員の直井友紀さんです。学生の会員の登場は初めてです。これからも若い会員の登場にご期待ください。

現執行部も今月で任期満了を迎えます。この2年間の間、さまざまな本会の活動や、支部や会員の情報を皆様にお届けしてまいりましたが、至らぬ点もあったことと反省しております。さきの平成25年度評議員会及び第119回総会で、現会長の矢崎秀昭先生が再選されました。第2期矢崎執行部においても、より良い広報活動を目指します。これからもさらなるご協力ご鞭撻をお願いします。

それでは、よき新年をお迎えください。

(小池 修 記)

広報部広報委員会

委員長 白田 準
副委員長 福井 雅之
山口 雅史
委員 古澤 成博
佐々木 葉子
志村 圭子
渡邊 宇一
島田 篤
西村 哲雄
宇佐美 貴弘
小貫 飛鳥
横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成25年12月20日 印刷

平成25年12月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第394号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 小 池 修

編集人 白 田 準

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)

平成25年度 評議員会・定時総会

(報告)

平成25年11月17日(日)
於 東京歯科大学 血脇記念ホール

平成25年度東京歯科大学同窓会評議員会 (午前10時00分～午後4時00分)

- | | | |
|--|--------------------------------|---|
| 1. 開会の辞 | 第10号議案 | 評議員選出の際の経過措置 |
| 1. 点呼 | 第11号議案 | 共済規程の一部改正 |
| 1. 会長挨拶 | 第12号議案 | 同窓会基金および血脇記念基金に係る会則と規程の改正 |
| 1. 来賓挨拶 | 第13号議案 | 過年度分会費徴収の一部中止 |
| 1. 議長, 副議長選出 | 第14号議案 | 平成26年度 事業計画 |
| 1. 議事録署名人指名 | 第15号議案 | 平成26年度 入会金 |
| 1. 黙祷 | 第16号議案 | 平成26年度 会費 |
| 1. 報告 | 第17号議案 | 平成26年度 経常部収支予算 |
| (1) 平成25年度 会務報告 | 第18号議案 | 平成26年度 共済負担金 |
| (2) 平成25年度 会計現況報告 | 第19号議案 | 平成26年度 特別会計収支予算
(同窓会基金, 血脇記念基金, 高山・血脇記念同窓会基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金, 同窓会創立120周年記念事業積立金) |
| 1. 東京歯科大学の現況 | 第20号議案 | 平成26年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支予算 |
| (1) 大学法人の使命 | 第21号議案 | 平成26年度 時局対策費積立金会計収支予算 |
| (2) 水道橋移転とこれからの東京歯科大学が目指すもの | 第22号議案 | 平成26年度 名誉会員の推薦 |
| 1. 議事 | 第23号議案 | 役員改選 |
| 第1号議案 平成24年度 経常部収支決算 | 1. 協議 | |
| 第2号議案 平成24年度 特別会計収支決算
(同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金) | (1) 東京歯科大学同窓会会員緊急時代診制度の見直しについて | |
| 第3号議案 平成24年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支決算 | (2) その他 | |
| 第4号議案 平成24年度 時局対策費積立金会計収支決算 | 1. 名誉会員推戴式 | |
| 第5号議案 平成24年度 財産目録
(監査報告) | 1. 叙勲, 褒章受章者顕彰式 | |
| 第6号議案 財産(備品)廃棄処分 | 1. 閉会の辞 | |
| 第7号議案 総会に係る会則の改正 | | |
| 第8号議案 役員を選任に係る会則の改正 | | |
| 第9号議案 選挙規則の制定 | | |

第119回東京歯科大学同窓会定時総会 (午後4時10分～午後5時00分)

- | | | |
|---|---------|---|
| 1. 開会の辞 | 第3号議案 | 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金)
平成24年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支決算 |
| 1. 会長挨拶 | 第4号議案 | 平成24年度 時局対策費積立金会計収支決算 |
| 1. 議長, 副議長選出 | 第5号議案 | 平成24年度 財産目録
(監査報告) |
| 1. 議事録署名人指名 | 第6号議案 | 財産(備品)廃棄処分 |
| 1. 報告 | 第7号議案 | 総会に係る会則の改正 |
| (1) 平成25年度 会務報告 | 第8号議案 | 役員を選任に係る会則の改正 |
| (2) 平成25年度 評議員会報告 | 第9号議案 | 同窓会基金および血脇記念基金に係る会則の改正 |
| (3) 平成26年度 経常部, 特別会計, 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金, 時局対策費積立金会計収支予算 | 1. 協議 | |
| 1. 議事 | 1. 閉会の辞 | |
| 第1号議案 平成24年度 経常部収支決算 | | |
| 第2号議案 平成24年度 特別会計収支決算
(同窓会基金, 血脇記念基金, 共 | | |

平成25年度東京歯科大学同窓会会務報告

(自 平成24年9月1日)
(至 平成25年8月31日)

1. 現在会員数	9,096名	3日(月)	事業推進部大学連携委員会
内		8日(土)	TDC インプラントセミナー・マスターコース2012
名誉会員	32名	9日(日)	TDC インプラントセミナー・マスターコース2012
共済負担金免除会員	800名	10日(月)	同窓会・会務運営協議会
高齢会員	464名	10日(月)	広報部広報委員会
不明会員	738名	11日(火)	事業推進部学術委員会(運営委員会)
2. 会員の移動		11日(火)	事業推進部シンクタンク委員会
新入会員	144名	12日(水)	事業推進部学術委員会(研修委員会)
	(本年度卒業生 131名)	13日(木)	東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会懇親会
	(他 13名)	13日(木)	事業推進部学術委員会(運営委員会)
逝去会員	128名	13日(木)	事業推進部・若手支援セミナー(運営委員会)
退会会員	0名	14日(金)	第44回歯学体成績報告会 矢崎会長出席
3. 会議		14日(金)	広報部広報委員会
定時総会	1回	18日(火)	事業推進部(企画会議)
評議員会	1回	21日(金)	若手同窓との懇談会
学年代表者会	1回	23日(日)	渉外部渉外委員会
新進会員のつどい	1回	24日(月)	同窓会・会務運営協議会
東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯会長と同窓会役員懇談会	3回	24日(月)	事業推進部学術委員会(企画)
理事会	5回	25日(火)	事業推進部大学連携・若手ネットワーク合同講演会運営委員会
常任理事会	5回	27日(木)	同窓会主催全国ゴルフ大会
監査会	1回	27日(木)	事業推進部保険委員会
各種委員会	172回	27日(木)	事業推進部学術委員会(インプラントセミナー開催準備会)
卒後研修セミナー	11回	28日(木)	事業推進部学術委員会(運営委員会)
連絡会・打合せ等	22回	29日(土)	第5回理事会
4. 役員出張	73回(99名)	29日(土)	長野県支部合同総会 梅村副会長, 阿部理事出席
5. 支部数	108支部		学術講演会 講師・片倉 朗教授(母校)
6. 地域支部連合会数	11地域支部連合会	10月1日(月)	事業推進部(保険委員会 全国社会保険指導者懇談会・懇親会)
北海道地域, 東北地域, 関東地域, 東京地域, 信越地域, 東海地域, 北陸地域, 近畿地域, 中国地域, 四国地域, 九州地域		1日(月)	事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
7. 会務報告		2日(火)	京橋・日本橋支部合同学術講演会(京橋支部担当) 講師・真坂信夫先生(神奈川県開業)
平成24年		2日(火)	渉外部渉外委員会
9月2日(日)	関東地域支部連合会総会・支部長会(神奈川県担当) 矢崎会長, 高橋専務理事, 杉山理事出席 学術講演会 講師・嶋田昌子先生(横浜シティガイド協会)		
2日(日)	東海地域支部連合会総会・支部長会(静岡県支部担当) 佐瀬・梅村副会長, 太田理事出席 学術講演会 講師・安部龍太郎先生(歴史小説家)		

- 2日(火) 事業推進部学術委員会(研究部)
- 3日(水) 事業推進部学術委員会(インプラントセミナー開催準備会)
- 6日(土) 全国歯科大学同窓・校友会懇話会
矢崎会長, 宮地副会長, 高橋専務理事, 小林理事出席
- 6日(土) TDC インプラントセミナー・マスターコース2012
- 7日(日) TDC インプラントセミナー・マスターコース2012
- 9日(火) 事業推進部若手ネットワーク委員会
- 10日(水) 広報部広報委員会
- 10日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
- 10日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 11日(木) 六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会
- 11日(木) 事業推進部シンクタンク委員会
- 13日(土) 九州地域支部連合会総会・支部長会(熊本県支部担当)
矢崎会長, 高橋専務理事, 田部理事出席
- 13日(土) 北海道地域支部連合会学術講演会
講師・一戸達也教授(母校)
- 15日(月) 事業推進部大学連携・若手ネットワーク合同講演会運営委員会
- 16日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)
- 17日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 18日(木) 東京地域支部連合会支部長会
矢崎会長, 早速理事出席
- 19日(金) 同窓会・会務運営協議会
- 20日(土) 東京歯科大学台湾同窓会創設記念会
矢崎会長出席
- 22日(月) 事業推進部学術委員会(事業検討会)
- 23日(火) 事業推進部学術委員会(企画)
- 24日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 25日(木) 総務関係打合せ
- 25日(木) 事業推進部学術委員会(保険委員会)
- 27日(土) 北多摩支部学術講演会 講師・佐藤亨教授(母校)
- 27日(土) TDC 卒後研修セミナー2012 卒研セミナーNo.5 イブニングセミナー3
「開業医が取り組む摂食嚥下リハビリテーション(入門編)」～診療室からはじめる口腔機能向上へのアプローチ～
- 28日(日) TDC 卒後研修セミナー2012 卒研セミナーNo.6 臨床実習セミナー2
「たったこれだけ! MTM!」～タイポドントでマスターする基本の『き』～
- 27日(土) 岡山県支部学術講演会 講師・氏平徹先生(岡山県開業)
- 28日(日) 東歯祭視察 矢崎会長出席
- 29日(月) 総務関係打合せ
- 30日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)
- 31日(水) 総務・厚生部厚生委員会
- 11月2日(金) 第6回理事会
- 3日(土) 平成24年度評議員会・第118回定時総会
- 6日(火) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
- 6日(火) 事業推進部学術委員会(研究部)
- 6日(火) 東京歯科大学・同窓会広報連携打合せ会
- 12日(月) 広報部広報委員会
- 12日(月) 渉外部渉外委員会
- 13日(火) 事業推進部・若手支援セミナー(運営委員会)
- 14日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
- 14日(水) 事業推進部シンクタンク委員会
- 15日(木) 東京地域支部連合会保険講習会
矢崎会長出席
- 16日(金) 日本橋支部学術講演会
講師・清水洋利先生(パールデンタルクリニック院長)
- 17日(土) 東京地域支部連合会城西ブロック懇談会(四谷牛込支部担当)
矢崎会長出席
- 18日(日) 東信支部総会
学術講演会 講師・水口 清教授(母校)
- 19日(月) 事業推進部大学連携委員会
- 19日(月) 事業推進部学術委員会(インプラントセミナー開催準備会)
- 22日(木) 事業推進部シンクタンク委員会
- 23日(金) 近畿地域支部連合会総会・支部長会(京都府支部担当)
矢崎会長, 高橋専務理事, 永田理事出席
- 学術講演会 講師・片倉 朗教授(母校)
- 25日(日) 東北地域支部連合会支部長会(宮城県支部担当)
矢崎会長, 高橋理事出席
- 26日(月) 同窓会・会務運営協議会
- 27日(火) 事業推進部学術委員会(企画)
- 27日(火) 事業推進部・若手支援セミナー(運営委員会)
- 28日(水) 総務・厚生部ゴルフ大会委員会

29日(木) 事業推進部(企画会議)

12月1日(土) 東京地域支部連合会総会
矢崎会長, 高橋専務理事, 早速理事出席

1日(土) 山梨県支部総会 宮地副会長出席
学術講演会 講師・井川雅子先生
(静岡市立清水病院口腔外科)

1日(土) 愛媛県支部総会 小林理事出席
学術講演会 講師・末石研二教授
(母校)

1日(土) 全国歯科大学同窓会・校友会日歯連盟
盟参与会議 梅村副会長出席

2日(日) 栃木県支部総会 白井理事出席
学術講演会 講師・井上 孝教授
(母校)

2日(日) 茨城県支部総会 佐瀬副会長出席
学術講演会 講師・石田 瞭准教授
(母校)

2日(日) 神奈川県支部連合同窓会総会
矢崎会長出席

2日(日) 静岡県支部総会 梅村副会長出席
学術講演会 講師・石原和幸教授
(母校)

2日(日) 千葉県支部総会 浮地副会長出席
学術講演会 講師・阿部伸一教授
(母校)

2日(日) 愛知県支部総会 宮地副会長出席
学術講演会 講師・加藤久豊先生
(税理士・米国税理士)

3日(月) 広報部広報委員会

3日(月) 事業推進部大学連携・若手ネットワーク
ワーク合同講演会運営委員会

5日(火) 事業推進部保険委員会

6日(木) 父兄会役員・大学幹部との懇談会
矢崎会長出席

9日(日) 若手支援セミナー

12日(水) 第5回常任理事会

12日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)

14日(金) 日本橋支部総会 矢崎会長出席

15日(土) 事業推進部学術委員会(全体委員会)

15日(土) 島根県支部総会 矢崎会長出席

16日(日) 島根県支部学術講演会 講師・外木
守雄先生(日本大学歯学部口腔外科
教授)

17日(月) 事業推進部若手ネットワーク委員会

18日(火) 事業推進部学術委員会(企画)

19日(水) 大学支部総会 河田理事出席

21日(金) 総務関係打合せ

29日(土) 渉外関係連絡会

平成25年

1月7日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

8日(火) 事業推進部大学連携委員会

9日(水) 千代田支部新年会 矢崎会長出席

9日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)

10日(木) 広報部広報委員会

10日(木) 事業推進部ワークショップ

12日(土) 第1回理事会

12日(土) 東京地域支部連合会新年交歓会
矢崎会長出席

12日(土) 事業推進部若手ネットワーク委員会

15日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)

16日(水) 水道橋病院3階高度歯科医療セン
ター 保存科・補綴科完成式
矢崎会長出席

16日(水) 事業推進部学術委員会(研究部)

17日(木) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

18日(金) 芝支部総会・新年懇親会
宮地副会長出席

18日(金) 渉外部渉外委員会

19日(土) 杉並支部新年会 矢崎会長出席

21日(月) 事業推進部学術委員会(プログラム
委員会)

22日(火) 井出学長との座談会

22日(火) 事業推進部学術委員会(企画)

23日(水) 事業推進部若手ネットワーク委員会

23日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

24日(木) 会務検討特別委員会

25日(金) 下谷・浅草支部合同新年会
矢崎会長出席

27日(日) 広島県支部総会
学術講演会 講師・齋藤 淳教授
(母校)

27日(日) 三重県支部総会 佐瀬副会長出席
学術講演会 講師・石崎 憲講師
(母校)

28日(月) 同窓会・会務運営協議会

28日(月) 事業推進部学術委員会(事業検討会)

29日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)

30日(水) 事業推進部保険委員会

31日(木) 総務関係打合せ

2月1日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

3日(日) 滋賀県支部総会
学術講演会 講師・松久保 隆教授
(母校)

3日(日) 岡山県支部総会
学術講演会 講師・鈴木一雄先生
(宮城県開業)

5日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

- 7日(木) 事業推進部ワークショップ 矢崎会長, 宮地副会長
- 8日(金) 事業推進部シンクタンク委員会
- 12日(火) 事業推進部学術委員会(研究部)
- 13日(水) 第1回常任理事会
- 13日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
- 15日(金) 広報部広報委員会
- 16日(土) 北多摩支部総会 矢崎会長出席
- 18日(月) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
- 19日(火) 東京歯科大学・同窓会広報連携打合せ会
- 23日(土) 鹿児島県支部総会 矢島監事出席
学術講演会 講師・矢島安朝教授(母校)
- 23日(土) 事業推進部シンクタンク委員会
- 24日(日) 東京歯科大学同窓会フォーラム
「超高齢社会を迎えての、歯科医療におけるパラダイムシフト」
- 24日(日) 埼玉県支部新年会 佐瀬副会長出席
- 25日(月) 同窓会・会務運営協議会
- 26日(火) 渉外部渉外委員会
- 26日(火) 事業推進部学術委員会(企画)
- 28日(木) 事業推進部(企画会議)
- 28日(木) 総務・厚生部厚生委員会
- 3月1日(金) 新進会員のつどい運営委員会
- 2日(土) 青森県支部総会 矢崎会長出席
学術講演会 講師・石原和幸教授(母校)
- 4日(月) 事業推進部学術委員会(研究部)
- 5日(火) 広報部広報委員会
- 5日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 8日(金) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式 佐瀬副会長出席
- 9日(土) 群馬県支部総会 高橋専務理事出席
- 11日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 11日(月) 会員管理システム検討委員会
- 12日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 13日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
- 13日(水) 杉並支部学術講演会 講師・齋藤淳教授(母校)
- 14日(木) 新入会員オリエンテーション
- 14日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会懇親会
- 15日(金) 第118回東京歯科大学卒業証書・学位記授与式 宮地副会長出席
大学院修了式(会長賞授与)
宮地副会長出席
第118期卒業生主催謝恩会
- 15日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 18日(月) 水道橋病院臨床研修歯科医修了者オリエンテーション
- 18日(月) 同窓会・会務運営協議会
- 21日(木) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
- 22日(金) 同窓会創立120周年記念事業準備委員会
- 23日(土) 第2回理事会
- 25日(月) 千葉病院臨床研修歯科医修了者オリエンテーション
- 26日(火) 市川総合病院臨床研修歯科医修了者オリエンテーション
- 26日(火) 会務検討特別委員会
- 26日(火) 事業推進部学術委員会(企画)
- 28日(木) 事業推進部保険委員会
- 28日(木) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 30日(土) 北海道地域支部連合会臨時総会・支部長会
高橋専務理事, 佐藤理事出席
- 4月1日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 3日(水) 事業推進部(企画会議)
- 4日(木) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式 矢崎会長出席
- 4日(木) 新進会員のつどい運営委員会
- 5日(金) 東京歯科大学入学式 矢崎会長出席
- 8日(月) 東京歯科大学大学院入学式 矢崎会長出席
- 10日(水) 東京地域支部連合会支部長会 矢崎会長出席
- 10日(水) 広報部広報委員会
- 10日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 11日(木) 事業推進部学術委員会(研究部)
- 11日(木) 総務関係打合せ
- 12日(金) 事業推進部若手ネットワーク委員会
- 13日(土) 山形県支部総会 梅村副会長出席
学術講演会 講師・矢島安朝教授(母校)
- 13日(土) 宮城県支部総会 浮地副会長出席
学術講演会 講師・齋藤淳教授(母校)
- 13日(土) 横浜西部支部総会 加藤木副会長出席
- 14日(日) TDC 卒後研修セミナー開講式
TDC 卒後研修セミナー2013 卒研セミナーNo.1 ディスカッションセミナー
「最初に診ること, ずっと診ること」

～臨床記録の重要性を理解しよう！～

14日(日) 全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会準備会

15日(月) 事業推進部学術委員会(事業検討会)

16日(火) 同窓会創立120周年記念事業準備委員会

16日(火) 新進会員のつどい運営委員会

17日(水) 第2回常任理事会

17日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

18日(木) 総務・厚生部厚生委員会

18日(木) 「石井みどり支援総決起大会」幹事校会議 佐々木理事出席

19日(金) 同窓会・会務運営協議会

19日(金) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)

22日(月) 会員管理システム検討委員会

22日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

23日(火) 事業推進部学術委員会(企画)

24日(水) 新進会員のつどい運営委員会

25日(木) 水道橋新校舎竣工関係準備委員会
矢崎会長, 宮地副会長, 高橋専務理事出席

25日(木) 会務検討特別委員会

25日(木) 総務・厚生部ゴルフ大会委員会

26日(金) 渉外部渉外委員会

26日(金) 事業推進部保険委員会

27日(土) 大分県支部総会 宮地副会長出席
学術講演会 講師・宮地建夫先生(東京都開業)

5月1日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

7日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

8日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)

10日(金) 広報部広報委員会

10日(金) 新進会員のつどい運営委員会

10日(金) 事業推進部学術委員会(研究部)

11日(土) 四国地域支部連合会総会・支部長会(香川県支部担当)
矢崎会長, 佐瀬副会長, 久保田理事出席
学術講演会 講師・鈴木一雄先生(宮城県開業)

13日(月) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)

14日(火) 総務関係打合せ

14日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)

15日(水) 会務検討特別委員会

15日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

16日(木) TDC 卒後研修セミナー2013 卒研セミナーNo.2 イブニングセミナー1

「今日からはじめる こだわりの補綴」～補綴物に現れる基本の重要性～

18日(土) 秋田県支部総会 矢崎会長出席
学術講演会 講師・水口 清教授(母校)

20日(月) 会員管理システム検討委員会

20日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

21日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)

21日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

23日(木) 総務・厚生部厚生委員会

25日(土) 第3回理事会

25日(土) 福島県支部総会 佐瀬副会長出席
学術講演会 講師・片倉 朗教授(母校)

26日(日) 石井みどり・全国同窓・校友会の決起大会 矢崎会長出席

27日(月) 同窓会・会務運営協議会

27日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

28日(火) 事業推進部学術委員会(企画)

30日(木) 監査会

30日(木) 事業推進部保険委員会

6月1日(土) 中国地域支部連合会総会・支部長会(鳥取県支部担当)
矢崎会長, 財部・小徳理事, 原監事出席
学術講演会 講師・丸森英史先生(神奈川県開業)

3日(月) 事業推進部(企画会議)

3日(月) 事業推進部学術委員会(研究部)

4日(火) 大学との懇談会

7日(金) 事業推進部学術委員会(事業検討会)

9日(日) TDC 卒後研修セミナー2013 卒研セミナーNo.3 実習セミナー1
「ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析」1

9日(日) 神奈川県支部連合同窓会学術講演会
講師・宝田恭子先生(東京都開業)

10日(月) 広報部広報委員会

12日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)

12日(水) 渋谷支部総会 浮地副会長出席

13日(木) 総務・厚生部ゴルフ大会委員会

13日(木) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)

13日(木) 総務関係打合せ

14日(金) 同窓会創立120周年記念事業準備委員会

18日(火) Elective study Program 表彰式(1～2年生) 矢崎会長出席

20日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府

	県歯会長と同窓会役員との懇談会懇親会	8日(月)	Elective study Program 表彰式(3~6年生) 矢崎会長出席
22日(土)	TDC 卒後研修セミナー2013 インプラントの極意4日間コース①	8日(月)	事業推進部(企画会議)
22日(土)	東北地域支部連合会総会・支部長会(山形県支部担当) 矢崎会長, 白井・高橋理事出席 学術講演会 講師・齋藤 淳教授(母校)	9日(火)	同窓会アカデミア構想検討会
22日(土)	九州地域支部連合会支部長会(鹿児島県支部担当) 高橋専務理事, 田部理事出席	10日(水)	広報部広報委員会
22日(土)	川崎支部学術講演会 講師・石崎憲講師(母校)	10日(水)	東京地域支部連合会学術講演会 講師・小宮山彌太郎先生(東京都開業)
23日(日)	TDC 卒後研修セミナー2013 インプラントの極意4日間コース②	11日(木)	総務・厚生部厚生委員会
24日(月)	同窓会・会務運営協議会	11日(木)	事業推進部学術委員会(研究部)
25日(火)	事業推進部学術委員会(企画)	12日(金)	新進会員のつどい運営委員会
25日(火)	事業推進部保険委員会	16日(火)	同窓会創立120周年記念事業準備委員会
26日(水)	第3回常任理事会	16日(火)	事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
27日(木)	東京地域支部連合会主催都歯保険関係東歯同窓懇談会 矢崎会長出席	17日(水)	同窓会アカデミア構想検討会
28日(金)	事業推進部若手ネットワーク委員会	19日(金)	東京歯科大学水道橋校舎新館竣工式 矢崎会長出席
29日(土)	新潟県支部総会 矢崎会長出席 学術講演会 講師・齋藤 淳教授(母校)	20日(土)	東京歯科大学水道橋校舎新館竣工祝賀会 矢崎会長出席
7月1日(月)	事業推進部学術委員会(運営委員会)	20日(土)	TDC 卒後研修セミナー2013 インプラントの極意4日間コース③
3日(水)	会務検討特別委員会	21日(日)	TDC 卒後研修セミナー2013 インプラントの極意4日間コース④
5日(金)	渉外部渉外委員会	22日(月)	同窓会・会務運営協議会
5日(金)	会員管理システム検討委員会	22日(月)	事業推進部大学連携委員会
5日(金)	浅草支部学術講演会 講師・一戸達也教授(母校)	23日(火)	事業推進部学術委員会(企画)
6日(土)	埼玉県支部総会 浮地副会長出席 学術講演会 講師・井上 孝教授(母校)	24日(水)	第4回常任理事会
6日(土)	群馬県支部学術講演会 講師・宮地建夫先生(東京都開業)	28日(日)	新進会員のつどい
7日(日)	TDC 卒後研修セミナー2013 卒研セミナーNo.3 実習セミナー1 「ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析」2	30日(火)	事業推進部学術委員会(研究委員会B)
7日(日)	学年代表者会	8月1日(木)	総務・厚生部ゴルフ大会実行委員会
7日(日)	愛知県支部学術講演会 講師・加藤広之講師(母校)	4日(日)	事業推進部学術委員会(全体委員会)
7日(日)	静岡県支部学術講演会 講師・片倉朗教授(母校)	5日(月)	事業推進部学術委員会(研究委員会B)
		6日(火)	事業推進部保険委員会
		9日(金)	会務検討特別委員会
		21日(水)	会務検討特別委員会
		23日(金)	広報部広報委員会
		24日(土)	全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会 蛭谷理事出席
		25日(日)	全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会準備会
		26日(月)	同窓会・会務運営協議会
		30日(金)	事業推進部学術委員会(研修委員会)
		31日(土)	東京歯科大学水道橋校舎竣工記念式典・祝賀会 矢崎会長出席

平成24年9月1日より平成25年8月31日までに逝去された会員は次のとおりです。

(敬称略)

熊本	鈴木 梓	大分	立川 淳一	横須賀・鎌倉	飯嶋 謙治	新潟	長谷川 汎
南信	宮下 堯人	目黒	川上 正義	宮城	菊池 亮三	兵庫	保尾 五郎
広島	柏村 彰	芝	福田 信芳	栃木	屋代 義文	愛媛	長山 陽吉
千葉	立石 光	群馬	田部井 三雄	山口	梶山 泰人	墨田	湯浅 和海
静岡	三宅 佳伸	渋谷	大野 虎之進	茨城	堀江 伸美	神奈川湘南	三木 洋
神奈川相北	山本 輝雄	静岡	谷口 稔	静岡	木村 伯夫	神奈川西湘	重原 俊夫
埼玉	吉田 恭彦	千葉	茂木 正邦	芝	井上 昇	杉 並	高橋 秀雄
新潟	川崎 安則	新潟	佐藤 敏英	埼玉	和泉 潔	武蔵野	大村 光晴
墨田	稜川 汎史	愛知	桑ヶ谷 八郎	横浜北部	大久保 公晴	武蔵野	篠原 健一
広島	池田 治美	岡山	淵野 俊彦	横須賀・鎌倉	池田 満之	愛知	清水 宏
岡山	緒形 巧	愛知	磯 謙二	荒川	久木留 一廣	群馬	石岡 秀雄
北多摩	清水 昌好	横須賀・鎌倉	久和 総一郎	川崎	近藤 宏	札幌	伊藤 正彦
横浜西部	宮尾 昌典	愛知	西 武司	千葉	今井 祥浩	静岡	瀧上 徹
東信	花岡 章雄	練馬	中山 裕	鳥取	村松 恒久	宮城	齋藤 昇
本郷	堀内 實	岐阜	高木 博	東信	逸見 治之助	千葉	丸島 勝
中信	嶋居 智子	埼玉	関根 泰雄	千葉	宇野沢 秀樹	静岡	鶴見 祐三
練馬	西辻 良三	大森	永田 千鶴子	静岡	杉浦 宏	八南	鈴木 隆男
渋谷	片岡 利郎	横浜西部	間野 直樹	鹿児島	山下 佐命	墨田	市川 重彦
苦小牧	斉藤 郁郎	群馬	武安 正嘉	三重	谷崎 幸夫	千葉	水沼 等
練馬	中村 順一	神奈川湘南	長束 三千雄	横浜西部	水口 晃夫	浅草	船坂 豊
愛知	湯口 聡	空知	柳 義文	茨城	新井 清	京橋	田口 真也
福岡	高石 一秀	千葉	宍倉 潤子	静岡	坂本 豊美	千葉	岡田 孝枝
世田谷	三輪 裕二	大分	山本 みちる	蒲田	大杉 三郎	渋谷	横井 隆一
本郷	長谷川 正康	新宿	今西 孝博	三重	北野 晋一	横浜中央	佐藤 正
栃木	正岡 寿	宮崎	河野 雅光	四谷牛込	橋口 綽徳	目黒	赤松 英一
栃木	鮎瀬 洋一	浅草	鬼久保 小百合	埼玉	田崎 敬	茨城	大貫 英世
千葉	高橋 廉平	宮崎	嶽崎 寿太郎	愛知	坪井 義明	品川	大嶋 貴子
愛知	伊藤 敏夫	山形	尾形 新	群馬	鎗田 秀夫	麻布赤坂	大沼 勝男
世田谷	今井 豊享	荒川	秀 旭	埼玉	穂坂 直彦	大森	兵藤 佐一
京橋	太田 是男	秋田	武田 勤	埼玉	高野 恭	静岡	深谷 竹三郎
世田谷	森田 敏弘	横浜北部	西山 巖	江戸川	渡辺 郁夫	茨城	関本 英雄
静岡	足立 晟	目黒	大友 好	山形	山崎 聰	千葉	山崎 可夫

※必ずしも支部所属とは限りません。

(届出順 以上 128名)

総務・厚生部報告

(自 平成24年 9月 1日 至 平成25年 8月 31日)

1. 共済規程第6条第1項第一号に基づき弔慰金を支給した逝去会員は次のとおりです。

(敬称略)

熊 本	鈴木 梓	大 分	立 川 淳 一	横須賀・鎌倉	飯 嶋 謙 治	新 潟	長谷川 汎
南 信	宮 下 堯 人	目 黒	川 上 正 義	宮 城	菊 池 亮 三	兵 庫	保 尾 五 郎
広 島	柏 村 彰	芝	福 田 信 芳	栃 木	屋 代 義 文	愛 媛	長 山 陽 吉
千 葉	立 石 光	群 馬	田部井 三 雄	山 口	梶 山 泰 人	墨 田	湯 浅 和 海
静 岡	三 宅 佳 伸	浜 谷	大 野 虎之進	茨 城	堀 江 伸 美	神奈川湘南	三 木 洋
静 岡	谷 口 稔	静 岡	木 村 伯 夫	神奈川西湘	重 原 俊 夫	埼 玉	吉 田 恭 彦
千 葉	茂 木 正 邦	芝	井 上 昇	杉 並	高 橋 秀 雄	新 潟	川 崎 安 則
新 潟	佐 藤 敏 英	埼 玉	和 泉 潔	武 蔵 野	大 村 光 晴	墨 田	萩 川 汎 史
愛 知	桑ヶ谷 八 郎	横浜北部	大久保 公 晴	武 蔵 野	篠 原 健 一	広 島	池 田 治 美
岡 山	淵 野 俊 彦	横須賀・鎌倉	池 田 満 之	愛 知	清 水 宏	岡 山	緒 形 巧
荒 川	久木留 一 廣	群 馬	石 岡 秀 雄	横須賀・鎌倉	久 和 総一郎	川 崎	近 藤 宏
札 幌	伊 藤 正 彦	横浜西部	宮 尾 昌 典	愛 知	西 武 司	千 葉	今 井 祥 浩
東 信	花 岡 章 雄	練 馬	中 山 裕	鳥 取	村 松 恒 久	宮 城	齋 藤 昇
本 郷	堀 内 實	岐 阜	高 木 博	東 信	逸 見 治之助	千 葉	丸 島 勝
中 信	鴨 居 智 子	埼 玉	関 根 泰 雄	静 岡	鶴 見 祐 三	練 馬	西 辻 良 三
大 森	永 田 千鶴子	静 岡	杉 浦 宏	八 南	鈴 木 隆 男	浜 谷	片 岡 利 郎
横浜西部	間 野 直 樹	墨 田	市 川 重 彦	苫 小 牧	斉 藤 郁 郎	群 馬	武 安 正 嘉
三 重	谷 崎 幸 夫	千 葉	水 沼 等	練 馬	中 村 順 一	神奈川湘南	長 束 三千雄
横浜西部	水 口 晃 夫	浅 草	船 坂 豊	愛 知	湯 口 聰	空 知	柳 義 文
茨 城	新 井 清	京 橋	田 口 真 也	福 岡	高 石 一 秀	千 葉	穴 倉 潤 子
静 岡	坂 本 豊 美	世 田 谷	三 輪 裕 二	蒲 田	大 杉 三 郎	浜 谷	横 井 隆 一
本 郷	長谷川 正 康	新 宿	今 西 孝 博	三 重	北 野 晋 一	横浜中央	佐 藤 正
栃 木	正 岡 寿	宮 崎	河 野 雅 光	四谷牛込	橋 口 綽 徳	目 黒	赤 松 英 一
栃 木	鮎 瀬 洋 一	浅 草	鬼久保 小百合	埼 玉	田 崎 敬	茨 城	大 貫 英 世
千 葉	高 橋 廉 平	宮 崎	嶽 崎 寿太郎	愛 知	坪 井 義 明	品 川	大 嶋 貴 子
愛 知	伊 藤 敏 夫	山 形	尾 形 新	群 馬	鎗 田 秀 夫	麻布赤坂	大 沼 勝 男
世 田 谷	今 井 豊 享	荒 川	秀 旭	埼 玉	穂 坂 直 彦	大 森	兵 藤 佐 一
秋 田	武 田 勤	埼 玉	高 野 恭	静 岡	深 谷 竹三郎	世 田 谷	森 田 敏 弘
横浜北部	西 山 巖	江 戸 川	渡 辺 郁 夫	茨 城	関 本 英 雄	静 岡	足 立 晟
目 黒	大 友 好	山 形	山 崎 聰				

(届出順 以上 118名)

2. 火災罹災に対し、共済規程第6条第1項第二号に基づき罹災共済金（見舞金）を支給した会員は次のとおりです。

京橋支部 五百住守彦 氏（昭和63年卒） 平成25年6月24日発生

3. 風水害地震等罹災に対し、共済規程第6条第1項第三号に基づき罹災共済金（見舞金）を支給した会員は次のとおりです。

山口県支部 細田 裕 氏（昭和59年卒） 平成25年7月28日発生

第1号議案

平成24年度 経常部収支決算

自 平成24年1月1日
至 平成24年12月31日

収入の部

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
会費	97,450,000	96,570,400	879,600	99.1	平成24年度分 4,367人 78,606,000円 平成23年度分 670人 12,060,000円 平成22年度以前分 338人 5,904,400円 合計 5,375人 96,570,400円 平成24年度 18,000円×4,367人 平成23年度 18,000円×670人 昭和40～42年度 1,200円×2人 昭和43～47年度 1,700円×0人 昭和48年度 3,200円×0人 昭和49年度 3,500円×0人 昭和50年度 6,000円×0人 昭和51年度 7,000円×0人 昭和52年度 8,000円×1人 昭和53年度 8,000円×1人 昭和54年度 8,000円×0人 昭和55年度 10,000円×0人 昭和56年度 10,000円×0人 昭和57年度 10,000円×1人 昭和58年度 12,000円×0人 昭和59年度 12,000円×0人 昭和60年度 12,000円×1人 昭和61年度 12,000円×0人 昭和62年度 12,000円×0人 昭和63年度 14,000円×1人 平成1年度 14,000円×1人 平成2年度 14,000円×2人 平成3年度 14,000円×1人 平成4年度 14,000円×2人 平成5年度 14,000円×3人 平成6年度 14,000円×5人 平成7年度 14,000円×5人 平成8年度 14,000円×7人 平成9年度 14,000円×6人 平成10年度 14,000円×8人 平成11年度 20,000円×8人 平成12年度 20,000円×8人 平成13年度 20,000円×10人 平成14年度 18,000円×6人 平成15年度 18,000円×6人 平成16年度 18,000円×9人 平成17年度 18,000円×15人 平成18年度 18,000円×20人 平成19年度 18,000円×23人 平成20年度 18,000円×33人 平成21年度 18,000円×44人 平成22年度 18,000円×109人 合計 338人
入会金	740,000	640,000	100,000	86.5	新卒者 5,000円×128人 推薦会員 50,000円×0人
雑収入	1,700,000	1,597,904	102,096	94.0	
収入計	99,890,000	98,808,304	1,081,696	98.9	
前年度繰越金	10,000,000	22,736,867	△12,736,867	227.4	三菱東京UFJ銀行 普通預金 14,789,034円 三菱東京UFJ銀行 普通預金 2,889,523円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 4,000,000円 ゆうちょ銀行 通常貯金 1,058,310円
合計	109,890,000	121,545,171	△11,655,171	110.6	

支出の部

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
事務費	37,320,000 ^円	36,008,825 ^円	1,311,175 ^円	96.5%	
給与費	22,480,000	22,953,053	△ 473,053	102.1	事務職員 役員等の傷害保険、中退共掛金
福利厚生費	930,000	764,626	165,374	82.2	
地代家賃	4,230,000	4,230,000	0	100.0	
通信費	1,750,000	1,445,961	304,039	82.6	
印刷費	1,460,000	1,305,740	154,260	89.4	
備品購入費	600,000	0	600,000	0.0	
消耗品費	400,000	464,818	△ 64,818	116.2	
集束手数料	4,010,000	3,964,700	45,300	98.9	
保守管理委託費	1,190,000	713,121	476,879	59.9	
雑費	270,000	166,806	103,194	61.8	
事業費	62,200,000	60,239,718	1,960,282	96.8	
旅費交通費	24,280,000	24,954,475	△ 674,475	102.8	渉外活動費減 会報発行5回、カラーページ増 外部施設利用会議減
総務・厚生関係費	3,350,000	2,769,266	580,734	82.7	
渉外関係費	2,090,000	1,654,012	435,988	79.1	
広報関係費	13,770,000	14,997,557	△ 1,227,557	108.9	
事業推進関係費	5,330,000	4,419,547	910,453	82.9	
会合費	1,000,000	295,775	704,225	29.6	
連合会・支部関係費	3,450,000	2,726,620	723,380	79.0	
交際費	5,400,000	4,371,960	1,028,040	81.0	
慶弔費	1,930,000	2,063,250	△ 133,250	106.9	
雑費	1,600,000	1,987,256	△ 387,256	124.2	
会議費	2,750,000	2,154,379	595,621	78.3	
役員会費	100,000	0	100,000	0.0	平成24年11月3日開催 平成24年7月1日開催
評議員会費・総会費	1,700,000	1,888,354	△ 188,354	111.1	
学年代表者会費	600,000	28,410	571,590	4.7	
雑費	350,000	237,615	112,385	67.9	
特別会計繰入金	4,840,000	4,740,000	100,000	97.9	
同窓会基金	740,000	640,000	100,000	86.5	
血闘記念基金	100,000	100,000	0	100.0	
名簿積立金	2,000,000	2,000,000	0	100.0	
退職積立金	2,000,000	2,000,000	0	100.0	
予備費	2,780,000	0	2,780,000	0.0	
支出計	109,890,000	103,142,922	6,747,078	93.9	
次年度繰越金	0	18,402,249	△ 18,402,249		三菱東京UFJ銀行 普通預金 9,908,606円 三菱東京UFJ銀行 普通預金 3,435,075円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 4,000,000円 ゆうちょ銀行 通常貯金 1,058,568円
合計	109,890,000	121,545,171	△ 11,655,171	110.6	

第2号議案

平成24年度 同窓会基金収支決算

自 平成24年1月1日
至 平成24年12月31日

収入の部

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
	円	円	円	%	
繰入金	740,000	640,000	100,000	86.5	経常部より 預金利息
雑収入	30,000	6,516	23,484	21.7	
収入計	770,000	646,516	123,484	84.0	
前年度繰越金	29,150,000	28,613,650	536,350	98.2	三菱東京UFJ銀行 普通預金 4,320,177円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 12,000,000円 みずほ信託銀行 普通預金 143,473円 みずほ信託銀行 定期預金 12,150,000円
合計	29,920,000	29,260,166	659,834	97.8	

支出の部

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
	円	円	円	%	
支出計	0	0	0		
次年度繰越金	29,920,000	29,260,166	659,834	97.8	三菱東京UFJ銀行 普通預金 4,963,744円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 12,000,000円 みずほ信託銀行 普通預金 146,422円 みずほ信託銀行 定期預金 12,150,000円
合計	29,920,000	29,260,166	659,834	97.8	

平成24年度 血協記念基金収支決算

自 平成24年1月1日
至 平成24年12月31日

収入の部

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
	円	円	円	%	
繰入金	100,000	100,000	0	100.0	経常部より 預金利息
雑収入	10,000	1,083	8,917	10.8	
収入計	110,000	101,083	8,917	91.9	
前年度繰越金	5,080,000	5,034,867	45,133	99.1	三菱東京UFJ銀行 普通預金 1,034,867円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 4,000,000円
合計	5,190,000	5,135,950	54,050	99.0	

支出の部

科目	予算額	決算額	差額	対比	摘要
	円	円	円	%	
支出計	0	0	0		
次年度繰越金	5,190,000	5,135,950	54,050	99.0	三菱東京UFJ銀行 普通預金 1,135,950円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 4,000,000円
合計	5,190,000	5,135,950	54,050	99.0	

平成24年度 共済基金収支決算

自 平成24年1月1日
至 平成24年12月31日

収入の部

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予算額	決算額	差 額	比率	摘 要
共済負担金	18,140,000 ^円	17,804,600 ^円	335,400 ^円	98.2%	平成24年度分 4,783人 14,349,000円 平成23年度分 735人 2,205,000円 平成22年度以前分 357人 1,250,600円 合計 5,875人 17,804,600円 平成24年度分 3,000円×4,783人 平成23年度分 3,000円×735人 昭和40～42年度 300円×2人 昭和52～53年度 2,000円×2人 昭和56～63年度 4,000円×3人 平成1～20年度 4,000円×184人 平成21～22年度 3,000円×166人 合計 357人
雑収入	100,000	19,203	80,797	19.2	預金利息
収入計	18,240,000	17,823,803	416,197	97.7	
前年度繰越金	80,240,000	83,417,599	△ 3,177,599	104.0	三菱東京UFJ銀行 普通預金 4,730,775円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 75,000,000円 みずほ信託銀行 普通預金 236,824円 みずほ信託銀行 定期預金 3,450,000円
合 計	98,480,000	101,241,402	△ 2,761,402	102.8	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 額	比率	摘 要
共済金	18,350,000 ^円	17,100,000 ^円	1,250,000 ^円	93.2%	弔慰共済金 12,300,000円 (@100,000×123件) 罹災共済金 250,000円 (@100,000×2件, @50,000×1件) 80歳祝金 4,400,000円 (@50,000×88件) 100歳祝金 150,000円 (@50,000×3件)
事務費	240,000	144,760	95,240	60.3	弔慰金, 祝金送料 他
予備費	6,000,000	0	6,000,000	0.0	
給付準備金	73,890,000	0	73,890,000	0.0	
支出計	98,480,000	17,244,760	81,235,240	17.5	
次年度繰越金	0	83,996,642	△ 83,996,642		三菱東京UFJ銀行 普通預金 5,308,949円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 75,000,000円 みずほ信託銀行 普通預金 237,693円 みずほ信託銀行 定期預金 3,450,000円
合 計	98,480,000	101,241,402	△ 2,761,402	102.8	

平成24年度 名簿積立金収支決算

自 平成24年1月1日
至 平成24年12月31日

収入の部

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
	円	円	円	%	
繰入金	2,000,000	2,000,000	0	100.0	経常部より 預金利息
雑収入	10,000	528	9,472	5.3	
収入計	2,010,000	2,000,528	9,472	99.5	
前年度繰越金	4,020,000	3,990,094	29,906	99.3	三菱東京UFJ銀行 普通預金 3,990,094円
合計	6,030,000	5,990,622	39,378	99.3	

支出の部

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
	円	円	円	%	
支出計	0	0	0		
次年度繰越金	6,030,000	5,990,622	39,378	99.3	三菱東京UFJ銀行 普通預金 5,990,622円
合計	6,030,000	5,990,622	39,378	99.3	

平成24年度 退職積立金収支決算

自 平成24年1月1日
至 平成24年12月31日

収入の部

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
	円	円	円	%	
繰入金	2,000,000	2,000,000	0	100.0	経常部より 預金利息
雑収入	10,000	739	9,261	7.4	
収入計	2,010,000	2,000,739	9,261	99.5	
前年度繰越金	5,690,000	5,658,840	31,160	99.5	三菱東京UFJ銀行 普通預金 5,658,840円
合計	7,700,000	7,659,579	40,421	99.5	

支出の部

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
	円	円	円	%	
支出計	0	0	0		
次年度繰越金	7,700,000	7,659,579	40,421	99.5	三菱東京UFJ銀行 普通預金 7,659,579円
合計	7,700,000	7,659,579	40,421	99.5	

第3号議案 平成24年度 卒後研修セミナー収支決算

自 平成24年1月1日
至 平成24年12月31日

収入の部

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差 額	比率	摘 要
受講料	21,024,000	16,307,000	4,717,000	77.6	No.1 ベーシック 初診の患者さんをどうみるか 206,000円 [受講割引なし] 13,000×10人 130,000円 [受講割引あり] 11,000×6人 66,000円 10,000×1人 10,000円 No.2 イブニング1 有病者の歯科治療 245,000円 [受講割引なし] 5,000×49人 245,000円 No.3 イブニング2 重度歯周炎患者 495,000円 [受講割引なし] 5,000×99人 495,000円 No.4 臨床実習1 歯周外科実習 1,872,000円 [受講割引なし] 60,000×11人 660,000円 [受講割引あり] 58,000×14人 812,000円 40,000×10人 400,000円 No.5 イブニング3 摂食嚥下 315,000円 [受講割引なし] 5,000×63人 315,000円 No.6 臨床実習2 MTM 2,274,000円 [受講割引なし] 70,000×14人 980,000円 [受講割引あり] 68,000×8人 544,000円 50,000×15人 750,000円 インプラントセミナー 10,900,000円 [受講割引なし] 700,000×7人 4,900,000円 [受講割引あり] 600,000×10人 6,000,000円 合計 16,307,000円
雑収入	20,000	36,026	△ 16,026	180.1	セミナーテキスト代 他
繰入金収入	200,000	200,000	0	100.0	卒後研修セミナー積立金会計より
収入計	21,244,000	16,543,026	4,700,974	77.9	
前年度繰越金	5,000,000	2,860,815	2,139,185	57.2	三菱東京 UFJ 銀行 普通預金 2,860,815円
合 計	26,244,000	19,403,841	6,840,159	73.9	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 額	比率	摘 要
事務費	1,100,000 ^円	448,537 ^円	651,463 ^円	40.8%	
通信運搬費	800,000	422,355	377,645	52.8	プログラム発送 他
消耗品費	200,000	24,632	175,368	12.3	
雑費	100,000	1,550	98,450	1.6	
事業費	22,600,000	16,593,235	6,006,765	73.4	
講師謝礼費	5,000,000	4,924,500	75,500	98.5	テキスト作成 他
講師旅費交通費	1,500,000	762,000	738,000	50.8	
資料作成費	1,700,000	1,286,250	413,750	75.7	
役務費	1,900,000	551,250	1,348,750	29.0	
実習器材費	6,500,000	5,770,109	729,891	88.8	
設営費	2,500,000	1,377,908	1,122,092	55.1	
印刷広報費	900,000	406,455	493,545	45.2	
受講証関係費	100,000	156,330	△ 56,330	156.3	
広告費	1,600,000	668,850	931,150	41.8	
渉外費	700,000	489,583	210,417	69.9	
会場費	200,000	200,000	0	100.0	
大学施設利用料					
公租公課	400,000	457,700	△ 57,700	114.4	消費税
予備費	2,144,000	0	2,144,000	0.0	
支出計	26,244,000	17,499,472	8,744,528	66.7	
次年度繰越金	0	1,904,369	△ 1,904,369		三菱東京UFJ銀行 普通預金 1,904,369円
合 計	26,244,000	19,403,841	6,840,159	73.9	

平成24年度 卒後研修セミナー積立金収支決算

自 平成24年1月1日
至 平成24年12月31日

収入の部

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
雑収入	円 20,000	円 4,464	円 15,536	%	預金利息
収入計	20,000	4,464	15,536	22.3	
前年度繰越金	18,480,000	18,748,666	△ 268,666	101.5	みずほ信託銀行 普通預金 748,666円 みずほ信託銀行 定期預金 18,000,000円
合計	18,500,000	18,753,130	△ 253,130	101.4	

支出の部

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
通信費	円 0	円 840	円 △ 840	%	振込手数料 卒後研修セミナー会計繰入
繰入金支出	200,000	200,000	0	100.0	
支出計	200,000	200,840	△ 840	100.4	
次年度繰越金	18,300,000	18,552,290	△ 252,290	101.4	みずほ信託銀行 普通預金 552,290円 みずほ信託銀行 定期預金 18,000,000円
合計	18,500,000	18,753,130	△ 253,130	101.4	

第4号議案 平成24年度 時局対策費積立金会計収支決算

自 平成24年1月1日
至 平成24年12月31日

収入の部

△印=予算額に比較し増額の場合

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
繰入金	円 2,000,000	円 2,000,000	円 0	%	経常部より 預金利息
雑収入	40,000	5,739	34,261	14.3	
収入計	2,040,000	2,005,739	34,261	98.3	
前年度繰越金	35,170,000	21,185,888	13,984,112	60.2	三菱東京UFJ銀行 普通預金 6,185,888円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 15,000,000円
合計	37,210,000	23,191,627	14,018,373	62.3	

支出の部

科目	予算額	決算額	差額	比率	摘要
支出計	円 0	円 0	円 0	%	
次年度繰越金	37,210,000	23,191,627	14,018,373	62.3	三菱東京UFJ銀行 普通預金 8,191,627円 三菱東京UFJ銀行 定期預金 15,000,000円
合計	37,210,000	23,191,627	14,018,373	62.3	

平成24年12月31日

1. 備 品

機 器 備 品

品 目	数量	購入年月	購入価格	備 考
1 収納戸棚	3	H 9. 10	370, 650	
2 書類保管庫	3	H13. 4	370, 482	
3 プロジェクター	1	H14. 8	338, 100	Epson
4 ビデオカメラ	1	H19. 12	138, 906	
5 プロジェクター	1	H19. 12	279, 800	
6 パソコン	4	H20. 3	798, 000	acer
7 書類保管庫	1	H20. 9	115, 815	
8 パソコン	1	H21. 2	248, 000	A 4 W-IS
計 8 品 目	15		2, 659, 753	

消 耗 備 品

品 目	数 量	購入価格	備 考
1 片袖机 他	40点	1, 289, 578	

2. 普通預金, 定期預金, 通常預金

会計区分	種類	預金残高	取引銀行
(1) 経常部	普通預金	9,908,606	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	〃	3,435,075	〃 〃
	定期預金	4,000,000	〃 〃
	通常預金	1,058,568	神田三崎町郵便局
計		18,402,249	
(2) 共済基金	普通預金	5,308,949	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	75,000,000	〃 〃
	普通預金	237,693	みずほ信託銀行 本店
	定期預金	3,450,000	〃 〃
計		83,996,642	
(3) 同窓会基金	普通預金	4,963,744	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	12,000,000	〃 〃
	普通預金	146,422	みずほ信託銀行 本店
	定期預金	12,150,000	〃 〃
計		29,260,166	
(4) 血脇記念基金	普通預金	1,135,950	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	4,000,000	〃 〃
計		5,135,950	
(5) 名簿積立金	普通預金	5,990,622	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
計		5,990,622	
(6) 退職積立金	普通預金	7,659,579	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
計		7,659,579	
(7) 卒後研修セミナー	普通預金	1,904,369	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
計		1,904,369	
(8) 卒後研修セミナー 積立金	普通預金	552,290	みずほ信託銀行 本店
	定期預金	18,000,000	〃 〃
計		18,552,290	
(9) 時局対策費積立金	普通預金	8,191,627	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	15,000,000	〃 〃
計		23,191,627	
合計		194,093,494	

監 査 報 告

平成24年度東京歯科大学同窓会業務運営状況及び経常部収支決算書，特別会計収支決算書（即ち，同窓会基金決算，血協記念基金決算，共済基金決算，名簿積立金決算，退職積立金決算），卒後研修セミナー収支決算書，卒後研修セミナー積立金収支決算書，時局対策費積立金会計収支決算書，及び財産目録につき諸帳簿，証憑書類を監査した結果適正に処理されていることを認めます。

平成25年5月30日

常任監事 関 泰 忠 ⑩

監 事 原 武 仁 ⑩

監 事 矢 島 安 朝 ⑩

第6号議案

財産（備品）廃棄処分目録

1. パソコン acer 1台

平成20年に購入し、現在使用不能。

1. シュレッダー 1台

平成19年に購入し、現在使用不能。

第7号議案

総会に係る会則の改正

第8号議案

役員を選任に係る会則の改正

第9号議案

選挙規則の制定

第10号議案

評議員選出の際の経過措置

第11号議案

共済規程の一部改正

第12号議案

同窓会基金および血脇記念基金に係る会則と規程の改正

第13号議案

過年度分会費徴収の一部中止

総務・厚生部

1. 諸会合の準備・調整並びに運営を行う。
2. 会員現況の把握並びに名簿の補充完備を図る。
3. 母校・父兄会・学生との連携を図る。
4. 同窓会改革をすすめ、そのための会則等の見直しを行う。
5. 支部・地域支部連合会、学年代表者との情報交換を促進する。
6. 支部未入会者対策を講じる。
7. 母校水道橋移転事業に協力する。
8. 共済制度の健全なる運営を行う。
9. 会員厚生および親睦の充実を図る。
10. 同窓会員緊急時 代診制度の検討を行う。
11. 同窓会創立120周年記念事業の準備を行う。
12. アカデミア構想を推進する。

渉 外 部

1. 各歯科大学同窓・校友会との交流を図り、緊密なる友好を深める。
2. 会員の歯科医政関係者との緊密な連携を保ち医政の推進を図る。
3. 母校との連携のもとに国・公・私的機関等と協力し、人材の確保、育成に努める。
4. 渉外活動に関する情報交換を進め、全国レベルでの情報の共有と集約を図る。

広 報 部

1. 会報を発行する。
2. ホームページ・フェイスブックの維持管理を行う。

事業推進部

1. 歯科保健・医療制度・生涯研修などの調査、情報提供などシンクタンク機能の推進をする。
2. 若手同窓を対象とした事業を企画、開催する。
3. 大学と連携し、各支部同窓の診療所を活用するシステムを構築する。
4. 若手ネットワークシステムを推進する。
5. 在学生および父兄と連携した同窓会の啓発活動を行う。
6. TDC 卒後セミナーを開催する。
7. 地域支部連合会・支部における講演会、研修活動を支援する。
8. 各大学の同窓会学術担当者との情報交換、学術事業交流を行う。
9. 学術情報の収集、分析および提供を図る。
10. 医療保険関係者等との交流を行う。
11. 各支部の医療保険請求に係わる情報の収集および発信をする。

第15号議案

平成26年度 入会金

平成26年度	入会金	本学出身の会員	0円
		推薦会員	5,000円

第16号議案

平成26年度 会費

平成26年度	会費現行通り	18,000円
	新進会員（卒後5年以内）	10,000円

第17号議案

平成26年度 経常部収支予算

自 平成26年1月1日
至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘要
	円	円	円	%	
会費	100,230,000	98,680,000	1,550,000	98.5	平成26年度分 4,220人 75,960,000円 平成25年度分 800人 14,320,000円 平成24年度以前分 480人 8,400,000円 合計 5,500人 98,680,000円
入会金	10,000	10,000	0	100.0	新卒者入会金 0円 推薦会員入会金 5,000円× 2人
雑収入	1,700,000	1,620,000	80,000	95.3	会報広告料 他
収入計	101,940,000	100,310,000	1,630,000	98.4	
前年度繰越金	15,000,000	10,000,000	5,000,000	66.7	
合計	116,940,000	110,310,000	6,630,000	94.3	

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
事務費	38,320,000	34,580,000	3,740,000	90.2	
給与費	23,550,000	20,350,000	3,200,000	86.4	事務職員
福利厚生費	920,000	960,000	△ 40,000	104.3	役員等傷害保険, 中退共掛金
地代家賃	4,230,000	4,230,000	0	100.0	同窓会室, 駐車場
通信費	1,940,000	1,690,000	250,000	87.1	
印刷費	1,460,000	1,250,000	210,000	85.6	
備品購入費	600,000	480,000	120,000	80.0	
消耗品費	580,000	510,000	70,000	87.9	
集束手数料	3,970,000	4,100,000	△ 130,000	103.3	
保守管理委託費	830,000	830,000	0	100.0	
雑費	240,000	180,000	60,000	75.0	
事業費	64,280,000	56,830,000	7,450,000	88.4	
旅費交通費	25,740,000	23,200,000	2,540,000	90.1	旅費日当削減
総務・厚生関係費	3,410,000	1,410,000	2,000,000	41.3	時局対策費繰入なし
渉外関係費	2,090,000	1,690,000	400,000	80.9	
広報関係費	13,980,000	12,240,000	1,740,000	87.6	会報発行4回
事業推進関係費	5,030,000	4,460,000	570,000	88.7	
会合費	1,000,000	1,000,000	0	100.0	
連合会・支部関係費	3,900,000	3,950,000	△ 50,000	101.3	支部加入促進費
交際費	5,400,000	5,250,000	150,000	97.2	
慶弔費	2,130,000	2,130,000	0	100.0	
雑費	1,600,000	1,500,000	100,000	93.8	
会議費	2,700,000	2,700,000	0	100.0	
役員会費	70,000	70,000	0	100.0	
評議員会費	1,700,000	1,900,000	△ 200,000	111.8	
学年代表者会費	600,000	400,000	200,000	66.7	
雑費	330,000	330,000	0	100.0	
特別会計繰入金	4,610,000	4,110,000	500,000	89.2	
同窓会基金	10,000	0	10,000	0.0	
血脇記念基金	100,000	0	100,000	0.0	
高山・血脇記念 同窓会基金		110,000			
名簿積立金	2,000,000	4,000,000	△ 2,000,000	200.0	
退職積立金	1,500,000	0	1,500,000	0.0	
同窓会創立120周年 記念事業積立金	1,000,000	0	1,000,000	0.0	
支出計	109,910,000	98,220,000	11,690,000	89.4	
予備費	7,030,000	12,090,000	△ 5,060,000	172.0	
合 計	116,940,000	110,310,000	6,630,000	94.3	

第18号議案

平成26年度 共済負担金

平成26年度 共済負担金現行通り 3,000円

第19号議案

平成26年度 同窓会基金収支予算

自 平成26年1月1日
至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
繰入金	10,000	0	10,000	0.0	預金利息 他
雑収入	30,000	0	30,000	0.0	
収入計	40,000	0	40,000	0.0	
前年度繰越金	29,920,000	29,300,166	619,834	97.9	
合 計	29,960,000	29,300,166	659,834	97.8	

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
基金支出	0	29,300,166	△29,300,166		高山・血脇記念同窓会基金へ移管
支出計	0	29,300,166	△29,300,166		
次年度繰越金	29,960,000	0	29,960,000	0.0	
合 計	29,960,000	29,300,166	659,834	97.8	

平成26年度 血脇記念基金収支予算

自 平成26年 1月 1日
至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
繰入金	100,000	0	100,000	0.0	預金利息 他
雑収入	10,000	0	10,000	0.0	
収入計	110,000	0	110,000	0.0	
前年度繰越金	5,190,000	5,245,950	△ 55,950	101.1	
合 計	5,300,000	5,245,950	54,050	99.0	

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
基金支出	0	5,245,950	△ 5,245,950		高山・血脇記念同窓会基金へ移管
支出計	0	5,245,950	△ 5,245,950		
次年度繰越金	5,300,000	0	5,300,000	0.0	
合 計	5,300,000	5,245,950	54,050	99.0	

平成26年度 高山・血脇記念同窓会基金収支予算

自 平成26年 1月 1日
至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要	
	円	円	円	%		
基金収入		34,546,116			同窓会基金より移管 29,300,166円 血脇記念基金より移管 5,245,950円	
繰入金		110,000				入会金 10,000円
雑収入		10,000				経常部より繰入 100,000円
収入計		34,666,116			預金利息 他	
前年度繰越金		0				
合 計		34,666,116				

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
繰入金支出		5,000,000			同窓会創立120周年記念事業積立金へ繰入
支出計		5,000,000			
次年度繰越金		29,666,116			
合 計		34,666,116			

平成26年度 共済基金収支予算

自 平成26年 1月 1日
至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
共済負担金	19,100,000	18,250,000	850,000	95.5	平成26年度分 4,628人 14,268,000円 平成25年度分 880人 2,640,000円 平成24年度以前分 400人 1,350,000円 合計 5,908人 18,258,000円
雑収入	100,000	100,000	0	100.0	預金利息 他
収入計	19,200,000	18,350,000	850,000	95.6	
前年度繰越金	83,510,000	84,920,000	△ 1,410,000	101.7	
合 計	102,710,000	103,270,000	△ 560,000	100.5	

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
共済金	18,250,000	18,850,000	△ 600,000	103.3	弔慰共済金 13,200,000円 (@100,000×132件) 罹災共済金 300,000円 (@100,000×3件) 80歳祝金 5,050,000円 (@50,000×101件) 100歳祝金 300,000円 (@50,000×6件)
事務費	240,000	240,000	0	100.0	弔慰金, 祝金送料 他
支出計	18,490,000	19,090,000	△ 600,000	103.2	
予備費	6,000,000	6,000,000	0	100.0	
給付準備金	78,220,000	78,180,000	40,000	99.9	
合 計	102,710,000	103,270,000	△ 560,000	100.5	

平成26年度 名簿積立金収支予算

自 平成26年1月1日
至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
繰入金	2,000,000	4,000,000	△ 2,000,000	200.0	経常部より 預金利息 他
雑収入	10,000	10,000	0	100.0	
収入計	2,010,000	4,010,000	△ 2,000,000	199.5	
前年度繰越金	6,030,000	8,000,622	△ 1,970,622	132.7	
合 計	8,040,000	12,010,622	△ 3,970,622	149.4	

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
名簿作成費	0	8,000,000	△ 8,000,000		
通信費	0	4,000,000	△ 4,000,000		
雑費	0	10,622	△ 10,622		
支出計	0	12,010,622	△12,010,622		
次年度繰越金	8,040,000	0	8,040,000	0.0	
合 計	8,040,000	12,010,622	△ 3,970,622	149.4	

平成26年度 退職積立金収支予算

自 平成26年1月1日
至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
繰入金	1,500,000	0	1,500,000	0.0	預金利息 他
雑収入	10,000	10,000	0	100.0	
収入計	1,510,000	10,000	1,500,000	0.7	
前年度繰越金	7,700,000	9,169,579	△ 1,469,579	119.1	
合 計	9,210,000	9,179,579	30,421	99.7	

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
支出計	0	0	0		
次年度繰越金	9,210,000	9,179,579	30,421	99.7	
合 計	9,210,000	9,179,579	30,421	99.7	

平成26年度 同窓会創立120周年記念事業積立金収支予算

自 平成26年1月1日
至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
繰入金	1,000,000	5,000,000	△ 4,000,000	500.0	預金利息 他
雑収入	0	10,000	△ 10,000		
収入計	1,000,000	5,010,000	△ 4,010,000	501.0	
前年度繰越金	0	1,000,000	△ 1,000,000		
合 計	1,000,000	6,010,000	△ 5,010,000	601.0	

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
支出計	0	0	0		
次年度繰越金	1,000,000	6,010,000	△ 5,010,000	601.0	
合 計	1,000,000	6,010,000	△ 5,010,000	601.0	

第20号議案 平成26年度 卒後研修セミナー収支予算

自 平成26年1月1日

至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科目	平成25年度予算額 円	平成26年度予算額 円	対前年度増減 円	比率 %	摘要
受講料	20,312,000	13,866,000	6,446,000	68.3	セミナーNo.1 外科小手術と顎顔面の解剖学 2,200,000円 [受講割引あり] 50,000×20人 1,000,000円 [受講割引なし] 60,000×20人 1,200,000円 セミナーNo.2 診査診断のスキル 90,000円 [受講割引なし] 3,000×30人 90,000円 セミナーNo.3 THE BASIC 576,000円 [受講割引あり] 8,000×32人 256,000円 [受講割引なし] 10,000×32人 320,000円 セミナーNo.4 定期健診 240,000円 [受講割引なし] 3,000×80人 240,000円 セミナーNo.5 義歯の悩みを解消します 1,200,000円 [受講割引あり] 20,000×24人 480,000円 [受講割引なし] 30,000×24人 720,000円 セミナーNo.6 矯正用インプラントアンカー 2,200,000円 [受講割引あり] 50,000×20人 1,000,000円 [受講割引なし] 60,000×20人 1,200,000円 セミナーNo.7 インプラントセミナー4日間 7,360,000円 [受講割引あり] 210,000×16人 3,360,000円 [受講割引なし] 250,000×16人 4,000,000円 合計 13,866,000円
雑収入	20,000	20,000	0	100.0	セミナーテキスト代 他
繰入金収入	1,200,000	1,200,000	0	100.0	卒後研修セミナー積立金会計より
収入計	21,532,000	15,086,000	6,446,000	70.1	
前年度繰越金	2,500,000	1,500,000	1,000,000	60.0	
合計	24,032,000	16,586,000	7,446,000	69.0	

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
事務費	700,000	560,000	140,000	80.0	
通信運搬費	550,000	500,000	50,000	90.9	プログラム発送 他
消耗品費	100,000	50,000	50,000	50.0	
雑費	50,000	10,000	40,000	20.0	
事業費	19,400,000	13,000,000	6,400,000	67.0	
講師謝礼費	5,000,000	3,000,000	2,000,000	60.0	講師 2,500,000円 実習講師 500,000円
講師旅費交通費	1,400,000	1,400,000	0	100.0	講師旅費交通費, 宿泊費, 委員旅費交通費
資料作成費	1,300,000	800,000	500,000	61.5	実習用資料 500,000円 講演用資料 300,000円
役務費	1,000,000	1,000,000	0	100.0	セミナー役務 500,000円 運営役務 200,000円 実習インストラクター 200,000円 症例発表 100,000円
実習器材費	5,000,000	3,300,000	1,700,000	66.0	実習用器材 3,000,000円 講演用器材 300,000円
設営費	2,500,000	1,600,000	900,000	64.0	スライド関連費 500,000円 運営資材費 500,000円 演者・委員昼食 400,000円 消耗品費 200,000円
印刷広報費	700,000	500,000	200,000	71.4	研修用プログラム印刷 他
受講証関係費	200,000	200,000	0	100.0	
広告費	1,400,000	900,000	500,000	64.3	雑誌広告 他
渉外費	700,000	100,000	600,000	14.3	講師打合せ費 他
会場費	200,000	200,000	0	100.0	大学施設利用料 他
公租公課	400,000	400,000	0	100.0	消費税
支出計	20,500,000	13,960,000	6,540,000	68.1	
予備費	3,532,000	2,626,000	906,000		
合 計	24,032,000	16,586,000	7,446,000	69.0	

平成26年度 卒後研修セミナー積立金収支予算

自 平成26年1月1日
至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
雑収入	20,000	20,000	0	100.0	預金利息 他
収入計	20,000	20,000	0	100.0	
前年度繰越金	18,300,000	17,372,290	927,710	94.9	
合 計	18,320,000	17,392,290	927,710	94.9	

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
繰入金支出	1,200,000	1,200,000	0	100.0	卒後研修セミナー会計繰入
支出計	1,200,000	1,200,000	0	100.0	
次年度繰越金	17,120,000	16,192,290	927,710	94.6	
合 計	18,320,000	17,392,290	927,710	94.9	

第21号議案 平成26年度 時局対策費積立金会計収支予算

自 平成26年1月1日
至 平成26年12月31日

収入の部

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
繰入金	2,000,000	0	2,000,000	0.0	預金利息 他
雑収入	40,000	40,000	0	100.0	
収入計	2,040,000	40,000	2,000,000	2.0	
前年度繰越金	37,210,000	24,231,627	12,978,373	65.1	
合 計	39,250,000	24,271,627	14,978,373	61.8	

支出の部

科 目	平成25年度予算額	平成26年度予算額	対前年度増減	比率	摘 要
	円	円	円	%	
支部加入促進費	1,000,000	3,000,000	△ 2,000,000	300.0	
支出計	1,000,000	3,000,000	△ 2,000,000	300.0	
次年度繰越金	38,250,000	21,271,627	16,978,373	55.6	
合 計	39,250,000	24,271,627	14,978,373	61.8	

第22号議案

平成26年度 名誉会員の推薦

本会会則第23条第2項並びに同施行細則第10条第1項一号に基づき次の会員を本会名誉会員に推薦する。

東京歯科大学名誉教授 内 山 健 志 氏
東京歯科大学 口腔外科学講座
(平成25年3月31日退職)
平成25年4月1日 東京歯科大学名誉教授

東京歯科大学名誉教授 柳 澤 孝 彰 氏
東京歯科大学 口腔超微構造学講座
(平成25年5月31日退職)
平成25年6月1日 東京歯科大学名誉教授

第23号議案

役員改選

協 議 題

- (1) 東京歯科大学同窓会会員緊急時 代診制度の見直しについて
- (2) その他

東京歯科大学同窓会会則

平成25年11月17日改正 平成26年1月1日施行

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、東京歯科大学同窓会という。

(事 務 所)

第2条 本会は、事務所を東京都千代田区三崎町2丁目9番18号東京歯科大学内に置く。

(目 的)

第3条 本会は、会員相互の親睦並びに福祉の増進を図るとともに、母校の発展に寄与することをもって目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、第3条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 一 母校の伝統精神の高揚並びに発展に関すること。
- 二 会員相互の親睦に関すること。
- 三 会員の福祉に関すること。
- 四 歯科医学および歯科医業の向上に関すること。
- 五 会員の表彰に関すること。
- 六 会報その他の印刷物の発行に関すること。
- 七 母校および支部の事業に協力すること。
- 八 その他本会の目的達成に必要なこと。

第2章 会 員

(会 員)

第5条 本会の会員は、正会員、特別会員とする。

- 一 正会員は、高山歯科医学院、東京歯科医学院、東京歯科医学校、東京歯科医学専門学校、および東京歯科大学の卒業者、東京歯科医学校附設機関の出身者、並びに東京歯科大学大学院歯学研究科の修了者、または、支部長の推薦により理事会において承認した者とする。前段の正会員は終身会員とし、後段の正会員の推薦並びに承認基準は別に定める。
- 二 正会員のうち本学卒業後5年までの期間は、新進会員とする。
- 三 特別会員は、母校法人の役員、または、役員であった者および母校を退職した教授であって理事会において推薦された者とする。

2 本会の正会員であって、毎年12月31日現在において卒後50年を経過、または80歳に達し、かつ、会員としての義務を果たしている者については、所属支部長よりの報告に基づき、理事会の議を経て、その長寿をたたえ、高齢会員とする

(入 会)

第6条 本会に入会する者は、本籍地、現住所、氏名、性、生年月日、卒業校および卒業年月日、診療所所在地または勤務先を別記様式により所属する支部を通じて届け出なければならない。ただし、本

学卒業者は卒業時に一括入会とし、入会后、新進会員である期間は原則として本会にのみ所属する。
なお、勤務地のない者は、現住所の支部に所属する。

2 前項の届け出事項に変更を生じた場合は、遅滞なく支部を経由または直接本会に届け出るものとする。

(所 属)

第7条 本会の会員は、その住居地または業務従事場所の何れかの支部に所属する。ただし、新進会員または特別の事情のある者は本会に直属することができる。特別の事情については、理事会の議を経て別に定める。

(義 務)

第8条 本会の会員は、次の義務を負う。

一 会則、規則その他会の決定を遵守すること。

二 正会員は、本会所定の入会金、会費、共済負担金およびその他の負担金を原則として支部を通じて納入するものとする。ただし、原則として新進会員においては本会所定の会費、負担金を本会に直接納入する。また、高齢会員となった者は次年度より会費の負担を免除する。

三 特別会員は、入会金、会費およびその他の負担金を免除する。

2 長期に亘る病気その他特別の事情のある者については、支部長よりの申請に基づき、理事会の議を経て、会費、共済負担金およびその他の負担金の免除、または、納入の延期をすることができる。

(会費等の決定)

第9条 入会金、会費、共済負担金およびその他の負担金の額の決定は評議員会の議決による。

(退 会)

第10条 推薦によって正会員となった者および特別会員が退会を希望する場合は、支部長を通じ、または、直接本会に届け出て承認を求めるものとする。

2 第7条ただし書に該当する者は、直接本会に届け出て承認を求めるものとする。

3 退会を承認された者の既納の入会金、会費、共済負担金およびその他の負担金等は返還しない。

(処 分)

第11条 会員であって、会則、議決等に違背し、または、本会の名誉並びに体面を汚し、あるいは、綱紀を乱した者は、評議員会の議決を経て戒告、または、期間を定めて会員としての資格を停止することができる。

(準 会 員)

第12条 準会員は本会の目的達成および事業を推進するためのもので、会員の資格とは異なり別に定める。

2 準会員は以下の者とする。

(1) 本学在学中の学生。(準会員A)

(2) 他大学を卒業した本学大学院生、他大学を卒業した本学三病院臨床研修歯科医等。(準会員B)

第3章 役 員

(役 員)

第13条 本会に、次の役員を置く。

会 長 1名

副会長 5名以内

専務理事 1名

理事 28名以内（会長，副会長，専務理事を含む）

監事 3名

2 理事のうち11名は，第35条第1項に規定する地域を代表する者とし，原則として地域支部連合会会長があたる。

3 理事は，互選により専務理事1名，常任理事10名以内を定める。ただし，常任理事の中に会長，副会長，専務理事は含めない。

4 監事は，互選により常任監事1名を定める。

（役員を選任）

第14条 会長，監事は評議員会において会員の中から別に定める選挙規則に従い選出する。副会長，理事については評議員会の承認を得て会長の指名により会員から選任する。ただし，第13条第2項に規定する理事は原則として当該地域支部連合会会長とする。

（役員の任期）

第15条 役員の任期は2年とし，会計年度の始期より起算する。

2 役員は，再任されることができる。

3 役員は，任期満了の後でも後任の役員が選任されるまでは，なお，その職務を行う。

（役員の補充）

第16条 理事，監事それぞれの定数の1/3をこえるものが欠けたときは，補充しなければならない。

2 役員が欠けたときは，補充することができる。

3 補充された役員の任期は，前任者の残任期間とする。

（理事の任務）

第17条 会長は，本会を代表し，会務を統理する。

2 副会長は，会長を補佐し，会長が事故あるとき，または，会長が欠けたときは，会長が予め定めた順次により，その1人が会長の職務を代理し，または，会長の職務を代行する。

3 専務理事は，会長，副会長を補佐し，会長および副会長がともに事故あるときは，会長の職務を代理し，または，会長の職務を代行する。

4 理事は，会務を分掌する。会長，副会長，専務理事ともに事故あるとき，または，会長，副会長，専務理事が欠けたときは，理事会において予め定められた順次により，その1人が会長の職務を代理し，または，会長の職務を代行する。

（監事の職務）

第18条 監事は，本会の会務の執行状況および財産の状況を監査する。

第4章 評議員

（評議員）

第19条 本会の重要事項を審議するため，評議員を置く。

（評議員の選任）

第20条 評議員は，次の各号に掲げる者とする。

- 一 第35条第1項に規定する各地域支部連合会と大学支部に1名，さらに会員が100名を超えるごとに1名を追加することを基本とする。ただし，当分の間の経過措置として，各都道府県からは少なくとも1名を原則とする。

二 役員以外の各地域支部連合会会長。

2 第1項二号の評議員がその地位を離れたときは、評議員の資格を失うものとする。

3 評議員が第24条第3項の参与になった場合は、当該支部より新たに評議員を補充する。

4 第1項一号の評議員が評議員会を欠席するときは、委任状を会長に提出し、評議員会の承認を経て、代理の者を出席させることができる。

(評議員の任期)

第21条 評議員の任期は、第15条の規定を準用する。

第5章 名誉会長、名誉会員、顧問、嘱託、参与および委員

(名誉会長)

第22条 本会に名誉会長を置くことができる。

2 名誉会長は、本会の会長として原則3期以上に亘りその職責を果たし、功績とくに顕著と認められる者につき、評議員会の議決を経て推戴する。名誉会長は、本会における最高の榮譽の敬称とし、会費並びに共済負担金およびその他の負担金を免除する。

(名誉会員)

第23条 本会に名誉会員を置くことができる。

2 会長は、会務その他につき、とくに功労顕著な者を評議員会の議決を経て名誉会員に推薦し、名誉会員章を贈り、会費並びに共済負担金およびその他の負担金を免除する。

(顧問、嘱託および参与)

第24条 会長は、会務につき協力を得るため、顧問、嘱託および参与を委嘱することができる。

2 顧問および嘱託の任期は、委嘱した会長の任期に準ずるものとする。

3 日本歯科医師会役員、日本歯科医師会代議員および都道府県歯科医師会会長は、その職にある期間本会参与とすることができる。

(委員)

第25条 会長は、本会の必要に応じ委員を委嘱し委員会を設置することができる。

2 委員の任期は、第24条第2項に準ずる。

第6章 表彰

(表彰)

第26条 本会は、本会の発展のため、または、歯科医事衛生その他社会福祉のため貢献した者について、理事会の議を経て、評議員会に報告し、表彰を行うことができる。

(表彰の方法)

第27条 表彰の方法は、表彰状の授与若しくは記念品の贈呈等とする。

第7章 支部および地域支部連合会

(支部)

第28条 本会は、原則として北海道各地区、東京都各地区および府県に支部を置く。

2 母校に大学支部を置く。

3 支部の統廃合等については、当該支部の所属する地域支部連合会にて協議の上、本会理事会の議を経て、評議員会において決定する。

(支部役員)

第29条 支部に次の役員を置く。

支部長 1名

幹事 若干名(支部長は幹事とする)

その他支部において必要と認められた者。

(支部役員を選任)

第30条 支部役員は、支部総会で支部会員の中から選任する。

(支部長の任務)

第31条 支部長は、支部会員を掌握し、その融和と親睦を図り、支部を代表して次の任務を行う。

一 支部長は、支部長会およびその他重要な会に出席し、支部の意見を反映せしめるとともに、それら会議の決定事項を会員に周知徹底せしめなければならない。

二 支部長は、本会との連絡を密にし、本会会費、共済負担金およびその他の負担金を支部会員より徴収し、納入しなければならない。

(本会に対する要望事項)

第32条 支部長は、支部会員の本会に対する要望事項その他本会運営の参考となるべき事項を遅滞なく会長に報告するものとする。

(支部の経費および業務)

第33条 支部の経費は、支部で負担するものとする。

2 支部は、支部固有の業務のほか、本会の委理事務および事業に協力するものとする。

(支部規則)

第34条 支部規則は、支部においてこれを定め、本会に報告するものとする。

(地域支部連合会)

第35条 本会は、別表1の地域別に地域支部連合会を置く。

2 地域支部連合会は、当該地域内の支部の連繋を密にして、本会の発展に関する協力機関とする。

(連合会役員を選任)

第36条 地域支部連合会役員は、地域支部連合会において選任する。

(連合会総会)

第37条 地域支部連合会総会は、原則として毎年1回開催する。

第8章 会 議

(会 議)

第38条 本会の会議は、評議員会、支部長会、学年代表者会、理事会、常任理事会、委員会、特別委員会およびその他各種会議とする。

(評議員会)

第39条 評議員会は、毎年11月に会長が招集する。

2 会長が必要と認めるときは、その都度評議員会を招集する。

3 支部長の過半数からの申し出があった場合、会長は評議員会を招集しなければならない。

4 会員は評議員会の傍聴ができるものとする。ただし、事前の届出を必要とし、発言は認めない。

(評議員会の議長)

第40条 評議員会の議長、副議長は、その都度出席した評議員の中から選出する。

(評議員会の議事)

第41条 次の事柄は、評議員会の議決または承認を要する。

- 一 会則の変更
- 二 会長、監事の選出
- 三 名誉会長の推戴
- 四 名誉会員の推薦
- 五 予算、決算並びに資産の状況
- 六 入会金、会費、共済負担金およびその他の負担金の決定
- 七 支部の統廃合等
- 八 その他の必要な事柄

(支部長会)

第42条 支部長会は、必要に応じ地域支部連合会会長が招集し、会務を協議する。

2 支部長会の議長は、地域支部連合会会長とする。

(学年代表者会)

第43条 学年代表者会は、必要に応じ会長が招集し、会務を協議する。

(理事会)

第44条 会長は、必要ある場合は、随時理事会を招集し、その議長となる。

2 理事の過半数または監事から理事会の開催の要求があった場合には、会長は速やかに理事会を招集しなければならない。

3 理事会は、理事をもって構成する。監事は、随時出席し、意見を述べることができる。

(理事会の任務)

第45条 次の事柄は、理事会の議決を要する。

- 一 総会、評議員会の招集およびこれに付議する事柄
- 二 その他必要と認められる事柄

(常任理事会)

第46条 会長は、必要ある場合は、随時常任理事会を招集し、その議長となる。

2 常任理事会は、会長、副会長、専務理事および常任理事をもって構成し、常務を処理する。常任監事は、随時出席し、意見を述べることができる。

(会議の議決または承認)

第47条 評議員会、支部長会、理事会および常任理事会の議事は、議決、または、承認時の出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

2 前項の場合において議長、副議長は、その会議の構成員として議決に加わることができない。

(議事録)

第48条 議長は、各会議についてその開催の場所および日時並びにその他の事項について、その都度議事録を作成し、事務所に保管しなければならない。

2 前項の議事録のうち評議員会については、出席者のうち2名の議事録署名人を議長が指名し、署名、捺印せしめるものとする。

(会議の招集)

第49条 会議の招集は、会議の7日前までに発信しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。

(委員会)

第50条 会長は、必要があると認めるときは、委員会および特別委員会を設置することができる。

2 委員会および特別委員会は、委員をもって組織し、会長が委嘱する。

3 委員会および特別委員会の構成および任務その他必要な事項は、その都度別に定める。

第9章 会計および資産

(資産)

第51条 本会の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(経費)

第52条 本会の経費は、会費、負担金、寄付金およびその他の収入をもって支弁する。

2 会費および共済負担金の納入期日は、その年度の4月末日までとする。

(基金)

第53条 本会に高山・血脇記念同窓会基金および共済基金を置く。

2 高山・血脇記念同窓会基金は、入会金、本会経常部会計より毎年定額の繰入、寄付をもってこれにあてる。

3 共済基金は、共済負担金その他をもってこれにあてる。

4 各基金は、特別会計とする。

5 第2項に規定する基金は、確実な有価証券を購入し、または、信託銀行に信託し、または、銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金とし、会長が保管する。

6 前項の基金のとり崩しは、評議員会の承認を得なければ行うことができない。

(特別会計)

第54条 基金その他の特別会計に関しては、別に規程をもって定めるものとする。

(予算)

第55条 本会の予算は、毎会計年度開始前に編成して、評議員会に議案として提出しなければならない。

(決算)

第56条 本会の決算および資産の状況は、毎会計年度終了後に作成し、監事の監査を受け、評議員会に提出し、議決、または、承認を受けなければならない。

(会計年度)

第57条 本会の会計年度は、1月1日に始まりその年の12月31日に終わる。

第10章 会務処理

(事務局)

第58条 本会は、会務を処理するため事務局に次の職員を置き、会長がこれを任免する。

一 事務長 1名

二 事務員 若干名

2 前項の職員は、役員、または、上司の命を受けて事務を処理する。

(会務処理機構)

第59条 本会は、会務処理の円滑を期するため、次の五部を置き、各部に会長指名の担当理事を置く。

一 総務・厚生部

- 二 会計部
- 三 渉外部
- 四 広報部
- 五 事業推進部

2 各部の所掌業務については、別に定める。

第11章 雑 則

(会則の変更)

第60条 本会則の変更は、評議員会の議決を経なければ行うことができない。

(附属諸規程の制定)

第61条 本会則により本会を運営するにあたり、さらに附属諸規程を設けることが必要と認めるときは、会長は理事会に命じて、必要な規程を定めることができる。

2 前項の規定は、次回の評議員会に報告するものとする。

第12章 付 則

(施行期日)

第62条 本会則は、平成26年1月1日から施行する。

東京歯科大学同窓会共済規程

平成25年11月17日改正 同26年1月1日施行

第1条 この規程は、会員の福祉の増進を図るため、会則第3条および第4条の規定に基づき制定する。

第2条 前条の目的を達成するために本会に共済基金を設ける。

2 共済基金は、特別会計とし、その会計年度は、本会の会計年度と同じとする。

第3条 共済基金は、会員の共済負担金、寄附金およびその他の収入をもってこれに当てる。

2 負担金の額は、評議員会の議決により定める。

3 本会の正会員であって、毎年12月31日現在において80歳に達し、かつ会員としての義務を果たしている者については、所属支部長よりの報告に基づき、理事会の議を経て、共済負担金免除会員として次年度より共済負担金を免除する。

第4条 共済基金は、会員の死亡、災害、罹災等の場合の共済金の基金として運用するほか、生命保険相互会社の生命保険料として充当することができる。

第5条 共済金の請求は、その支払い事由が発生した場合、原則として、共済金受領者より支部長を通じて、次の事柄を届け出ることによって行う。

一 会員死亡の場合は、死亡した事実を証明する書類

二 会員罹災の場合は、対象物件の状況（診療所または住宅等のうち1ヵ所に限る。）

2 前項の届け出の様式は別に定める。

第6条 共済金の金額は次のとおりとする。

一 死亡の場合 弔慰共済金 10万円

二 火災罹災の場合 罹災共済金

イ 全焼の場合 10万円

ロ 全焼以外の場合 理事会の決定金額

三 風水害地震等罹災の場合 二号の規定準用

四 80歳の長寿お祝い金 5万円

ただし、80歳の長寿お祝い金受領者の

弔慰共済金は5万円とする

五 100歳の長寿お祝い金 5万円

2 共済金の支払いは、事故発生後できるだけ速やかに行うよう努めるものとする。

第7条 特別の事情により、前条の規定の適用が困難となった場合は、会長は常任理事会にはかり、別途方法をとることができる。ただし、次回の理事会および評議員会において承認を得なければならない。

第8条 共済金受領の効力は、本会において入会手続を完了した日から発生する。

第9条 会員が事故発生時において1年以上共済負担金を滞納している時は、共済金の支払いを行わないことがある。

第10条 会長は、毎年、共済基金特別会計の運営並びに予算の状況を評議員会に提出しなければならない。

第11条 この規程の変更は、評議員会の議決を経なければ行うことができない。

付 則

第12条 この規程は、平成26年1月1日から施行する。